Kumamoto University

熊本大学消化器外科
診療案内

2020（令和２年）

CONTENTS

1. ご挨拶 …… 2
2. スタッフ紹介 …… 4
3. 術中写真 …… 5
4. 新入医局員紹介 …… 5
5. 低侵襲外科の現状 …… 6
6. 診療グループ紹介 …… 8
   消化管外科
   肝胆膵外科
7. 英文論文業績 …… 21
8. 学位取得者 …… 30
9. 研究の紹介 …… 31
10. 関連施設のご紹介 …… 33
11. 留学便り …… 44
12. 国際交流・国際学会 …… 45
13. 教育への取り組み …… 47
14. 学会賞受賞・資格 …… 48
15. 学会・研究会・講演会開催報告 …… 49
16. 第15回開講記念会ならびに同門会 …… 50
17. 熊本大学消化器外科の一年 …… 51
18. 令和元年度 実績一覧 …… 54
19. 令和元年度 文科省科学研究費補助金獲得件数 …… 54
20. 消化器外科外来担当表 …… 54
21. 連絡先 …… 54

ご挨拶

熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科学
教授　馬場秀夫

令和2年度がスタートしました。昨年度末からの新型コロナウイルス感染(COVID-19)の世界的蔓延、いわゆるパンデミックで、世界中が恐怖におののき、委縮する中で新年度を迎えることになりました。

感染者、死亡者の急増に伴い、また医療崩壊の危機に直面し、全都道府県に緊急事態宣言が発せられ、不要・不急の外出制限が出されて、学校も休校となりました。さらには、様々な業種、特に三密の可能性が高い業種を中心に休業要請が出され、スポーツイベント・コンサート・芸術関連イベントなどの社会活動が低迷し、世界大恐慌以来の経済の悪化が懸念される事態となっています。

歴史を振り返ると、人類はこれまでも感染症との戦いに幾度も直面してきました。ペスト、梅毒、天然痘、結核、コレラ、スペイン風邪、エボラ出血熱、AIDS, SARS, MERSはじめ、感染症が大規模に流行するたびに多くの人命が失われてきました。一方で、研究の進歩により迅速かつ的確な診断ができるようになり、またワクチン開発などの予防や治療法開発が進展しましたが、これまでに人類が根絶できたのは天然痘のみ(1980年世界保健機関総会で確認)であります。

地球上の生物の中で、人類ほど、他の生物を犠牲にし、絶滅の危機に瀕する状況に追い込んできた生物はいないかもしれません。自分たちの生存のためにあらゆる動植物を食用とし、快適な生活を送るためにCO2の排出を続け、地球温暖化から地球そのものの環境破壊に至まで人類が最も大きな関与をしています。そのような中で起こった今回の新興感染症による世界同時多発のパンデミックはある意味、人類への警鐘を鳴らしているのかもしれないと感じています。

今回の、COVID-19は中国武漢で発生したものの、飛行機をはじめとして世界の交通網の発達、世界規模での人の交流と物流など、ボーダレス特有の短期間での感染の拡大となりました。加藤茂孝著の「人類と感染症の歴史」・「続・人類と感染症の歴史」を読むと世界的なパンデミックを起こす要因は、人口の密集と迅速な交通手段の2つが条件として重要とのことで、今回のパンデミックもまさしく、これらの要件を満たしていることになります。ヒトの感染症でわかっている限りその70％は動物由来であると考えられ、今回のCOVID-19の原因ウイルスはSARS-CoV2とされており、元来コウモリがその宿主であるようですが、これからの研究でその伝搬経路や特性が明らかになることと思います。また、一日も早く効果的な予防法、治療法が確立されることを願うばかりです。今回のCOVID-19を克服する過程で、多くの研究・診療の経験を通じて、医学・医療が更に発展し、またbig dataの効果的な活用法が開発されることを期待するばかりです。今回のコロナウイルスのパンデミックによって、多くの医学系の学会・研究会が中止、あるいは延期になりました。また、結果として、学会、あるいは研究会や委員会のため出張することがなくなり、医師になって初めて出張のない生活を経験しています。COVID-19感染患者の受け入れ、治療に当たられている多くの

医療関係者の活躍に心より感謝し、また、同じ医療者として少しでも役に立てることがないかを考えながら、日々生活していますが、この時間を有効に活用するために、今何をすべきかを模索しているところです。

さて、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延の影響で、56年ぶりにわが国で開催される予定であった東京オリンピック2020も延期されることが決定しました。終息の目途が立たず、感染拡大を防ぐために各国で厳重な移動制限が行われる状況では、延期はやむを得ない判断と思いますが、最も大切なことは選手たちの夢と希望を叶えるためにも、是非とも完全な形でオリンピックを実施してほしいと思います。選手は、持てる時間のすべてを練習につぎ込み、多くの選考レースを経てようやく代表の座を射止め、心身とも最高のコンディションでオリンピックに出場できるように調整し、そしてメダル獲得を狙うものです。

延期となると、モチベーションを落とすことなく気持ちを立て直し、血を流すような日々の厳しい練習に向かい続け、最高のコンディションを維持する必要があります。大会関係者には是非ともこの選手たちの気持ちを十分理解し、最善の環境で最良の大会ができるよう努力してほしいものです。また、世界中のアスリートが今回のコロナの蔓延に立ち向かい、スポーツを通して世界が協力し合い、夢の祭典で最高の結果を残すことで、この感染症を克服してほしいものと、一国民として願うばかりです。

今年は、熊本地震から4年目を迎えています。熊本城天守閣の大天守外観復旧、阿蘇の崩落で途絶えていた国道57号線の復旧や新しい阿蘇大橋の完成も間近に迫り、また熊本駅周辺の再開発、空港の民営化はじめとして地震からの復興が加速度を増しているように感じます。2022年に第122回の日本外科学会を熊本で開催させていただく予定ですが、昨年完成した熊本城ホールを中心に、来熊される全国の外科医の皆さん方に満足いただける学会を開催できるように、これから準備に邁進したいと考えています。

今年の消化器外科の目標は、1）働き方改革に向けた安全かつ最先端の医療を実施しながらも、効率的で超過勤務の少ない勤務環境を確立すること　2）外科手術における更なる低侵襲手術の一環としてロボット支援手術の適応範囲の拡大　3）最新の研究を強力に推進し、国際共同研究の輪をさらに広げること　などを考えています。

熊本大学消化器外科は、熊本県内唯一の特定機能病院として、地域の医療機関の最後の砦となるべき役割を十分認識し、最新でかつ最高の医療を提供することで、患者・家族の期待に応え、また関連病院との密な連携の下、指導的立場で情報を発信できるよう日夜努力していきたいと考えております。当科では24時間対応のホットラインを導入しておりますので、いつでもお困りの際は直接ご相談いただけますと幸いです。

スタッフ紹介

吉田 直矢　消化器癌先端治療開発学寄附講座 特任准教授・副科長

副科長を務め、消化管疾患全般の診療を行っています。主に食道癌、胃癌、大腸癌を対象として、手術、化学療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療を行っています。JCOG、WJOG、KSCCなど全国規模の臨床試験や治験を積極的に推進し、新しい治療法の確立に貢献しています。専門である食道癌に関しては、安全な低侵襲手術の推進と集学的治療による成績の向上に努めています。

山下 洋市　准教授

肝胆膵外科が専門です。肝癌に対しては切除を第一選択として、肝予備能と肝癌の悪性度に応じて最適な治療を行っています。膵癌・胆道癌に対しては、時に血管合併切除・再建を行う事で根治生を高めています。また、この領域の腹腔鏡手術にも10年以上積極的に取り組み、良好な成績をおさめてきました。熊本の肝胆膵癌で悩む患者さんの『最後の砦』になれるよう『全ては患者さんのために』頑張っています。

宮本 裕士　講師

今年度より消化管グループ長として、食道癌、胃癌、大腸癌を中心に消化管疾患全般の診療を担当しています。外科治療が最大限の効果を発揮できるよう、最新の知識・技術を備え、個々の患者に適切な治療を行えるよう努力しています。専門である大腸癌に関しては、低侵襲手術であるロボット支援下直腸手術から骨盤内臓全摘術などの拡大手術まで幅広く対応しています。遠隔転移を伴う大腸癌に対しては化学療法、外科手術を含めた集学的治療を行い、治療成績の向上を目指しています。閉塞性大腸癌など急を要する症例も、ステント留置を含めた緊急的な対応を行っています。また、近年増加している潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対する外科手術も担当しています。

岩上 志朗　助教

胃癌の手術および化学療法を担当しています。早期胃癌に対しては2019年よりロボット支援下胃切除術を導入し、低侵襲かつ根治性を担保した治療を行っています。進行胃癌や遠隔転移を伴うステージⅣ胃癌に対しては化学療法と手術を組み合わせた集学的治療を行うことにより長期予後を得る患者様も増えてきています。患者様それぞれの病状に応じたテーラーメイド治療を心掛けています。

馬場 祥史　次世代外科治療開発学寄附講座 特任准教授

消化管グループで食道・胃・大腸の癌治療を主に担当しています。消化管癌に対しては、手術（腹腔鏡、胸腔鏡手術など）、化学療法、放射線療法等を組み合わせた集学的治療が行うことが重要です。患者様お一人おひとりに、最新のエビデンスに基づいた適切な治療法を選択していただけるよう努めています。また、国内外のラボと連携しながら、革新的なバイオマーカー・診断法を目指した臨床研究を遂行しています。

石本 崇胤　消化器癌先端治療開発学寄附講座 特任准教授

国際先端医学研究機構(IRCMS)にて、大学院生や留学生とともに消化器がん発生・進展に関する国際共同研究を展開しています。とくに現状では薬物療法が困難なスキルス胃がんや膵がんなどの難治性消化器がんを対象としています。基礎研究により得られた成果を基盤として、新しい治療戦略の開発につながるトランスレーショナル研究を積極的に推進いたします。

今井 克憲　助教・医局長

肝胆膵グループに所属し、肝胆膵外科の診療に従事しております。原発性肝癌や転移性肝癌、胆管癌、膵癌等の悪性疾患に対して、拡大手術から腹腔鏡下手術、ラジオ波凝固療法、化学療法、分子標的薬治療を組み合わせた集学的治療を行っております。常に最新の知見やエビデンスに沿って、関連診療科と密に連携し、バランスの取れた最適な治療を提供できるよう努めております。

岩槻 政晃　助教

食道癌、胃癌、GISTなど上部消化管外科を担当しております。最先端の知見に基づき、早期癌には腹腔鏡手術に代表される低侵襲手術を、転移を伴う進行癌症例には化学療法、放射線療法を外科的治療に組み合わせた集学的治療の実践に取り組んでいます。患者様の病態、状態、背景に合わせて、根治性と安全性のバランスを追求すると同時に、QOLも重視した最適な治療を提供できるよう努めています。

林　洋光　診療講師

内視鏡外科技術認定医、肝胆膵外科学会高度技能専門医の資格や肝移植の経験を生かして、膵癌・胆管癌・肝癌・門脈圧亢進症に対し低侵襲な腹腔鏡手術（高難度腹腔鏡下肝切除や腹腔鏡下膵頭十二指腸切除、脾臓摘出術など）をはじめ進行癌に対する拡大手術（大量肝切除や膵頭十二指腸切除や肝膵同時切除など）を行います。低侵襲な腹腔鏡手術と抗がん剤治療を組み合わせた集学的治療による予後向上およびQOL改善に取り組んでいます。十二指腸良性腫瘍・粘膜内癌に対する腹腔鏡下十二指腸局所切除術（D-LECS）や肝癌に対するラジオ波焼灼療法(RFA)やカテーテル(IVR)治療も行っていますのでご相談ください。

澤山　浩　助教・病棟医長

消化管グループで下部消化管外科を担当し、大腸癌、炎症性腸疾患の外科治療を行います。腹腔鏡、ロボット支援下手術にて、高画質3D映像の下、微細な脈管を的確に処理し、患者様の体への負担が少ない正確な手術を行います。治療困難とされた遠隔転移を伴う進行癌も、近年の化学療法、手術療法の進歩で根治が目指せるようになりました。患者様の期待に沿えるよう最新の研究結果に基づいて治療を行って参ります。

小川 克大　地域医療ネットワーク実践学寄付講座 特任助教

消化管グループで下部消化管外科を担当します。主に大腸癌の外科治療を行い、低侵襲な腹腔鏡手術や拡大手術を行っています。また、外科専門医と救急科専門医、腹部救急認定医の資格を生かして、Acute Care Surgery(腹部救急手術)も専門にしています。
併存疾患をお持ちの患者様や重篤な状態の患者様に対しても、それぞれの病状に応じて最大限の治療効果を提供できるように努めてまいります。

武山 秀晶　救急・総合診療部 助教

消化器外科としての業務と並行して、救急・総合診療部のスタッフとして救急初療にも従事しています。消化器外科では、肝胆膵領域の外科的治療を担当しています。多く不安を抱える患者様に寄り添う診療を行ってまいります。低侵襲で安全確実な手術と分かりやすい説明を心掛けています。

中村 健一　地域医療ネットワーク実践学寄付講座 特任助教・外来医長

消化管グループで胃癌を中心に手術、化学療法を担当しております。早期胃癌に対する内視鏡手術やロボット支援下手術などの低侵襲手術を行っています。また、進行胃癌に対しては化学療法と手術療法を併用する集学的治療を行い、治療成績の向上を目指しています。最新のエビデンスに基づき、患者様それぞれに応じて、安全性と根治性を考慮した最適な治療が提供できるように努めてまいります。

北野 雄希　次世代外科治療開発学寄附講座 特任助教

肝胆膵グループに所属し、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌などを中心に肝胆膵領域の疾患を担当しております。拡大手術から低侵襲手術、さらに化学療法や放射線療法を組み合わせた集学的治療を行うことで、患者様ひとりひとりに最も適した医療を提供できるよう取り組んでおります。患者様との会話を大事にして、安心して医療を受けられる環境を作れるよう心がけております。

術中写真

新入局員紹介

①出身大学　②クラブ活動　③抱負

大町 一樹

① 久留米大学
② 野球部
③ まずは大学病院の勤務に早く慣れて、自分のできる事を増やしていきたいです。その上で研修医の時に経験できなかった食道癌症例について、治療選択や術式の選択を勉強し、考える姿勢を持ち、日々の診療に取り組みます。

大山 真英

① 熊本大学
② サッカー部
③ 今年度、入局させていただきました、大山真英と申します。済生会熊本病院にて2年間初期臨床研修をさせていただき、外科の先生方の姿に憧れて入局を決めました。一生懸命全力で頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

谷崎 卓実

① 久留米大学
② 軽音部
③ 令和2年度入局の谷崎　卓実と申します。地元は熊本県で、久留米大学出身です。初期臨床研修は熊本でさせていただきました。現在は熊本大学病院消化器外科に入局させていただき、これからも熊本の医療に貢献できるよう一生懸命頑張りたいと思っていますので、よろしくお願いします。

松岡 隼平

① 熊本大学
② フットサル・ラグビー
③ こんにちは。熊本大学卒の新入局員の松岡です。大学5年生の実習の時に先輩方のパワフルな姿に魅了されて自分の進む道は消化器外科だと心に決めました。精一杯頑張ろうと思いますのでどうかご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

小野 明日香

① 熊本大学
② バスケットボール部
③ 手術をはじめ全身管理や化学療法など様々なことを積極的に学びながら、消化器外科医としての基礎を作れるよう努めてまいります。ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

耕　佳徹

① 熊本大学
② サッカー部
③ 生まれも育ちも熊本であり、医師を志した時から熊本に貢献したいと考えておりました。多忙を極める中で一人一人の患者と向き合う外科の先生の姿に感銘を受け、入局を決めました。一日一日を大切に日々精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

低侵襲外科の現状

熊本大学消化器外科では、消化器疾患に対しより低侵襲(体を傷つけることが少ない)な治療に特化し、腹腔鏡手術や胸腔鏡手術を積極的に行っています。その中でも特に先進的な治療として、ロボット支援下手術、腹腔鏡・内視鏡合同手術(LECS)、腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術を行っています。このような低侵襲手術は高度な技術が要求され、安全面を担保するために日本内視鏡技術認定医を中心に手術を施行しています。現在当科には7名の技術認定医が常在しており、常に技術の向上を目指してトレーニングを積んでいます。

1 ロボット支援下手術

平成31年４月より診療報酬改定により、手術支援ロボットを使用する12術式について新たに保険適用が決定しました。熊本大学病院では、胃・直腸の2領域から手術支援ロボット“da Vinci Si”を用いたロボット支援下手術を開始し、現在まで順調に症例を増やしてきています。従来の腹腔鏡手術と比較したロボット手術の利点として、3Dハイビジョンカメラによる視覚化の向上、多関節鉗子、モーションスケーリング及び手振れ防止機能により、腹腔内、骨盤内の狭い術野で正確な操作性が可能なことがあげられます。胃癌では胃全摘、噴門側胃切除、幽門側胃切除の3術式に対して保険収載され、重要な血管や膵臓周囲に存在するリンパ節郭清を高い精度で行うことが可能です。また、直腸癌では難易度の高い男性の肥満症例や、より複雑な直腸癌症例を含む多くの患者で有用性を発揮でき、外科的剥離断端の確保と肛門温存、神経温存に関して手術成績の向上が期待されます。現在40例のロボット支援下直腸手術を行っており、今後も安全面に注意しながら手術を行っていく予定です。

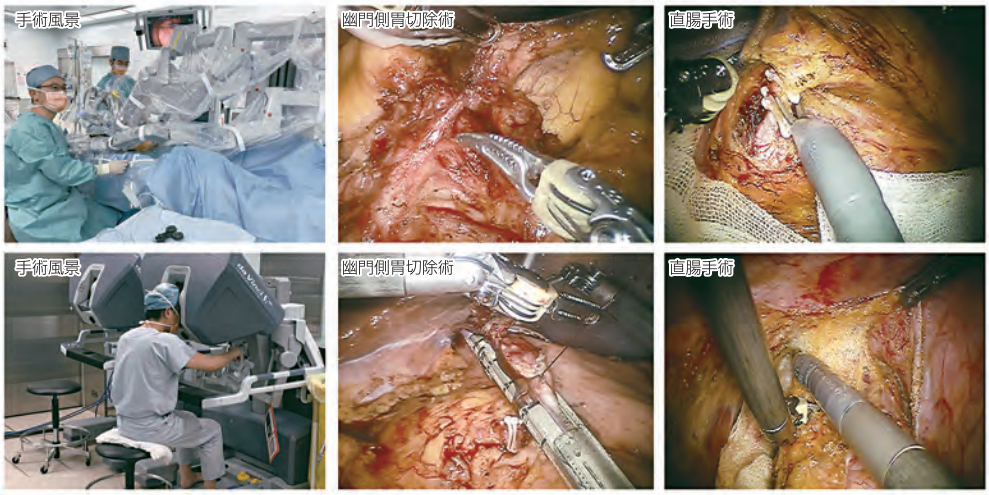


図1:ロボット支援下手術

2 腹腔鏡・内視鏡合同手術 (LECS : Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery)

LECSは、内視鏡医による内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)と、外科医による腹腔鏡下手術のハイブリッド手術として、内科と外科の協力のもとで行う手術のことです。LECS では最小限の胃・腸管壁の切除で腫瘍切除が可能であり、術後に生じる消化管の変形が抑えられ、機能を温存できると考えられます。腺腫、早期癌や粘膜下腫瘍などリンパ節転移を伴わない疾患が適応となり、病変の局在や全身状態を考慮して適応を考慮します。胃の場合は噴門近くの胃粘膜腫瘍に対して、通常の局所切除が困難な症例の場合にLECSを行っています。以前では広範な胃切除が必要であった噴門、幽門近傍の病変に対しても安全に手術を行うことが可能となりました。大腸の場合は憩室などの存在により、ESD単独では穿孔のリスクの高い困難病変が適応となります(図4)。

十二指腸病変に対するLECS手術は特にD-LECSと呼ばれ、本年4月に保険収載されました。D-LECSはESD で腫瘍を切除した後、薄くなった十二指腸壁(潰瘍底)を腹腔鏡で縫合し補強します。これまで9例に行い、全例で腫瘍の完全切除が得られ術後合併症も認めず早期退院が可能となっています。症例によっては膵頭十二指腸切除術などの大きな手術を回避することが可能です。

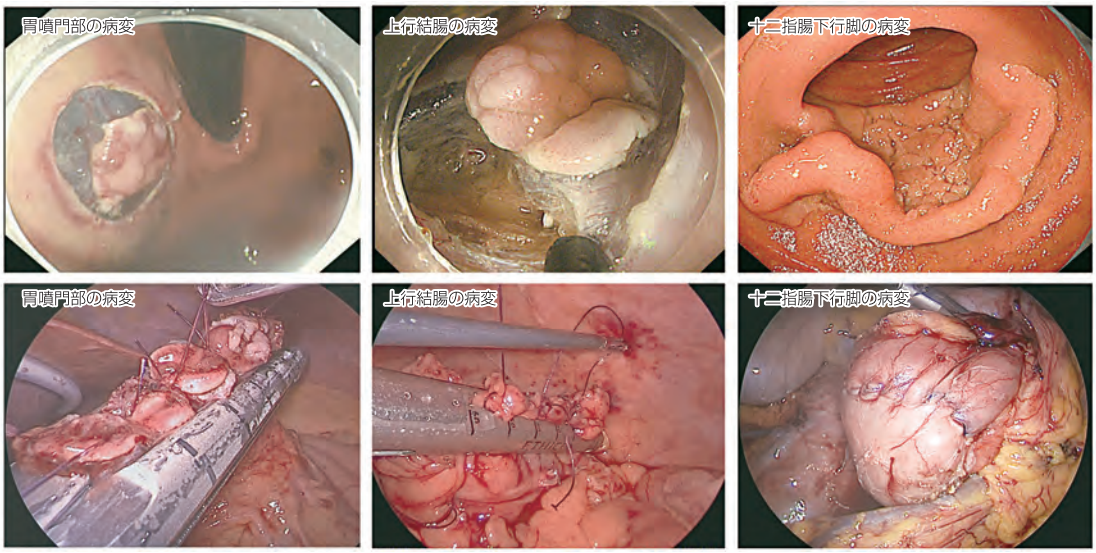


図2:腹腔鏡・内視鏡合同手術(LECS)

3 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術

2016年に良性から低悪性度腫瘍に対する腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術が保険収載され、2020年4月には膵癌や胆管癌にも保険適応が拡大されました。現時点の熊本県内では熊本大学病院のみが施設基準をクリアしており、本術式を積極的に行っています。大きな侵襲を伴う従来の開腹手術は術後のQOL低下やADL低下を招きやすく、術後の抗がん剤治療や再発時の治療が入りにくいケースもありました。腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術は開腹手術と比べて手術時間が長くなりますが、傷が小さく、気腹により腸管への負担も少ないため術後の食事摂取が良好で、体重減少も起こりにくい傾向にあります。これまで13例に行い、術後在院日数も15日と良好な成績です。悪性疾患の場合に郭清されたリンパ節個数は平均40.5個と開腹手術と遜色ないリンパ節郭清が得られています。一方、手術適応は安全性と根治性を第一に、十分な検討を行いながら施行していきます

図3:腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術

消化管外科

食道・胃・小腸・大腸・肛門に発生する様々な疾患を対象に治療を行っています。診断から治療までを消化器内科、画像診断科と連携を取りながら行い、全ての症例を合同カンファレンスで検討して、診断精度の向上に努めています。治療に際しては常に最新の情報をもとに、患者さんの状態や病気の進行度に応じた最良の治療法を提供できるように努力しています。特に悪性腫瘍に対しては、手術のみならず、化学療法や放射線治療を取り入れた集学的治療による治療成績の向上を目指しています。また多くの治験や臨床試験に参加し、将来の治療成績の向上や、新しいガイドラインのエビデンス構築に貢献できるように努めています。

1 食道癌

食道癌に対する治療法には、内視鏡治療、手術、放射線療法、化学療法があり、これらを組み合わせた集学的治療によって、治癒や延命を目指した治療を行います。私達は、患者様の併存症や生活強度などの全身状態と癌の進行度を総合的に評価し、一人一人にとって最適と思われる治療法を選択するようにしています。

当科における食道癌切除症例数を図1に示します。当科では、2011年から胸部、腹部操作を完全内視鏡下で行うminimally invasive esophagectomy（MIE）を導入しました。それ以降、従来の開胸手術は年々減少しMIEの割合が増えてきています。2019年度は食道切除術の95%がMIEでした。MIEはより小さい創で食道切除を行うことができるため、痛みの軽減や美容的な面で有用です。また、拡大視効果で肉眼では見えなかった細かい神経や血管を確認できるようになり、より繊細で質が高く出血の少ない手術が可能になっています（図2）。現在では、MIEの適応を徐々に広げ、術前に化学療法や化学放射線療法（CRT）を行った症例にも安全にMIEを行っています。また2018年4月から食道癌に対するロボット支援手術、縦隔鏡下の非開胸食道切除手術が保険適応となりましたが、当科でも今年中にロボット手術を導入する予定です。

食道癌の治療方針は外科、内科、放射線科によるカンファレンスを通じで決定しています。毎週、治療の適応、手術前後の症例の見直しを合同で行い、様々な角度から診療内容を検討します。早期食道癌に対しては、機能温存の観点から内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を行います。治療は主に消化器内科に施行していただいていますが、適応の判断は合同カンファレンスを通じて行われ、治療後の病理結果によっては、追加治療として手術やCRTを行います。近年では、根治的CRT後の遺残・再発表在病変に対するESD（サルベージESD）も積極的に行っており、良好な治療成績が得られています（図3）。

局所的な高度進行癌や併存症などで手術が困難な患者様に対しては、CRTを行っています。2019年度には23例の患者にCRTを行いました。他臓器浸潤を認める進行癌であっても、CRTのみで根治に至る症例を31%認め

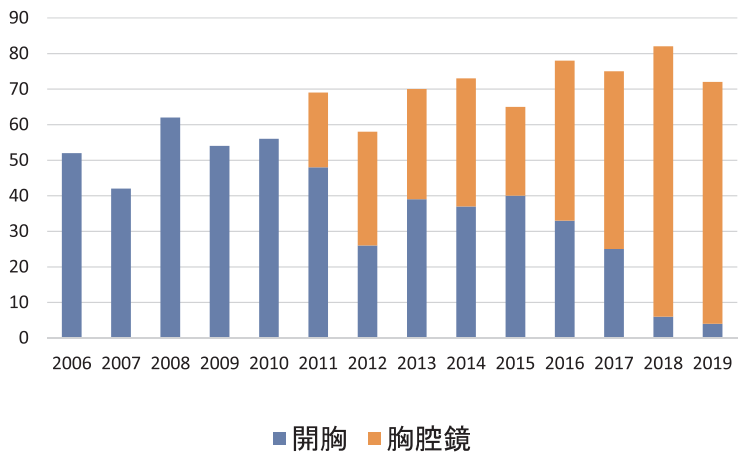


図1：食道癌切除症例数の年次推移

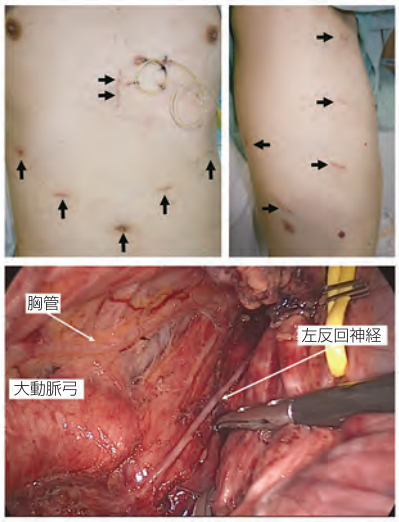


図2：胸腔鏡・腹腔鏡下食道切除

ました。また、根治的CRT後に癌が遺残した症例に対するサルベージ手術(救済手術)など侵襲の大きな手術も積極的に行っています。これまで当科では57例のサルベージ手術を行ってまいりましたが、在院死亡例は認めていません。さらに、CRT後にも腫瘍が気管に浸潤していて合併切除が必要な症例に対しては、耳鼻科・心臓血管外科と合同で、咽・喉頭食道摘出術・縦隔気管孔造設術(いわゆるGrillo手術)なども積極的に行っています(図4)。かつては長期生存が望めなかった進行症例に対しても、CRTは有望な治療の選択肢の一つとなっています。

当科はJCOG食道がん、WJOG、JFMC、KSCCなど臨床試験グループの参加施設であり、食道癌に対する標準治療の確立と進歩を目的として様々な研究活動(多施設共同臨床試験)を行っています。また様々な治験に積極的に参加し、さらなる食道癌治療成績の向上を目指しています。とくに本庶佑　京都大学特別教授がノーベル医学生理学賞を受賞したことでも注目を集めた免疫チェックポイント阻害薬の治験には、積極的に多くの症例を登録しています。当科からも症例登録を行ったATTRACTION-3試験において、抗PD-1抗体ニボルマブが化学療法に対し、進行・再発食道癌患者の全生存期間を統計学的に有意に延長させることが示されました。この結果をうけて、今年2月から、がん化学療法後に増悪した根治切除不能な進行・再発の食道癌に対して保険診療としてニボルマブを使用することが可能となり、当科でも実際に使用を開始しています。

私達は、食道癌のhigh volume centerの役割として、日々経験するたくさんの症例から新しいエビデンスを作り上げていくことを重要視しており、これまで構築してきた食道癌データベースを用いたTranslational research(橋渡し研究)を推進しています。特に、現在注目を集めている腸内微生物叢　(Gut microbiome)に関しては力をいれて研究を行っています。歯周病の原因菌であるFusobacteriumが存在する食道癌症例は悪性度が高く、抗癌剤も効きにくいということを世界に先駆けて報告しています(Clin Cancer Res 2019)。今後もさまざまな臨床研究を通じて、食道癌手術の成績向上及び病態解明に貢献できるよう努めていきたいと思います。

最後に当科の食道癌の治療成績(5年生存率)を示します(図5)。今後も治療成績の向上に努めていきたいと考えています。

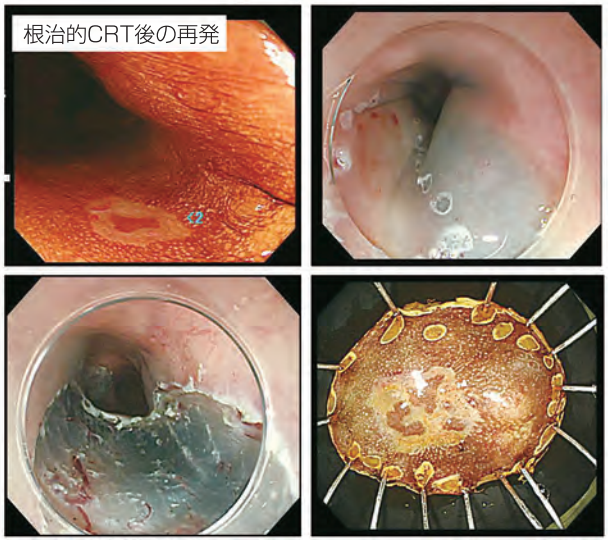


図3:サルベージESD

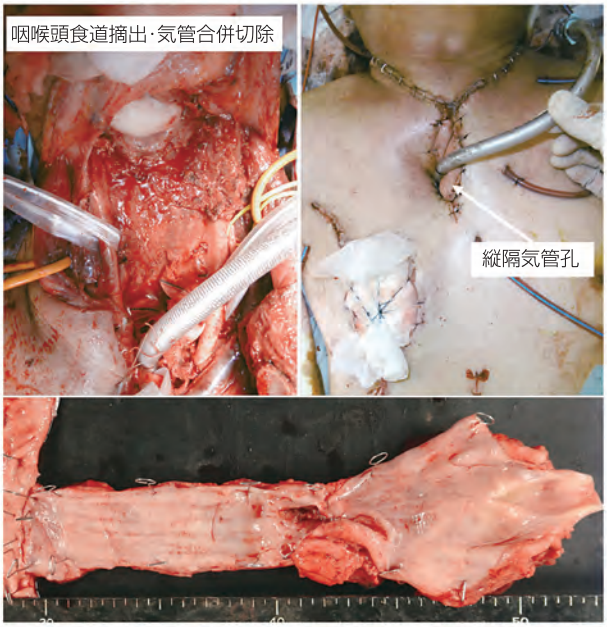


図4:咽・喉頭食道摘出術・縦隔気管孔造設術
(いわゆるGrillo手術)

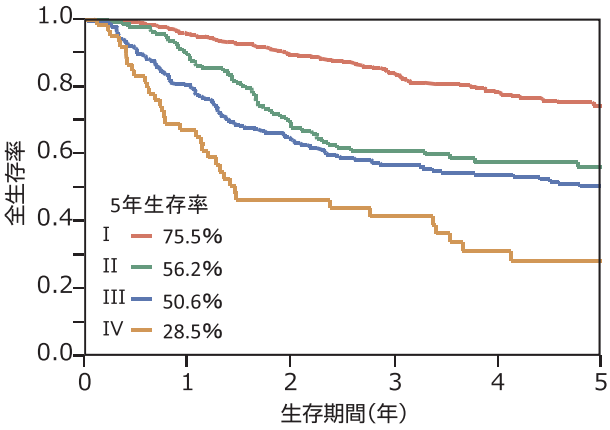


図5:食道癌手術症例の治療成績

2 胃癌・GIST

胃癌は本邦において罹患率が第2位(男性では第1位)、死亡率が第3位と頻度が高い悪性疾患です。胃癌の診断および治療は日進月歩で発展し、平成30年1月に『胃癌治療ガイドライン 第5版』が発行されました。当科ではガイドラインを基本として、更に患者様の状態や癌の進行度に応じて、「個別化治療」を目指した診療を行っています。

胃癌の検診やスクリーニングの普及により多くの早期胃癌の発見が増加しています。リンパ節転移の可能性が極めて低い早期胃癌に対しては、消化器内科と連携し内視鏡的切除(EMR、ESD)を行っています。

内視鏡治療適応外の早期胃癌に対しては、腹腔鏡下手術を積極的に行っています。根治性を損なわず、低侵襲ならびに臓器温存を目標として、上部早期胃癌に対しては腹腔鏡下噴門側胃切除を積極的に行っています(図1)。腹腔鏡による拡大視効果を生かした機能温存とリンパ節郭清の徹底を図ることにより、低侵襲性と根治性の両立を目指し、さらにはQOLの向上も目指しています。

平成31年4月より胃癌に対する胃全摘、噴門側胃切除、幽門側胃切除の3術式に対して、手術支援ロボット“da Vinci”を用いたロボット手術が保険収載されました。“da Vinci”の特性である高解像度3D画像、多関節機能、手振れ防止機能を用いて、従来の腹腔鏡手術よりも精密で安全性が高い手術が可能となります。当科でもロボット手術を導入し、良好な手術成績を収めています。

ステージIV胃癌に対しては化学療法を行っています。治験や臨床試験に登録することで、一般診療では使用できない最新の抗癌剤も使用可能です。近年、新規抗癌剤、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤の開発により、ステージIV胃癌の治療成績は改善してきています。化学療法が奏功し、非治癒因子が消失した症例に対しては積極的に根治切除(conversion surgery)を行っています(図2)。Conversion症例では平均生存期間が34ヵ月と良好な治療成績を得ています(図3)。

当科での胃癌の治療成績(5年生存率)を示します(図4)。大学病院にご紹介いただく患者様は、ご高齢、高度進行癌、重篤な合併症を有するなど、年々ハイリスクの方が増えてきています。各診療科と協力しながら術前、術中、術後の管理を行い、安全な手術を受けていただけるように心がけています。

当科では希少疾患とされている消化管間質性腫瘍(GIST)や肉腫に関しても多くの症例を経験しています。巨大腫瘍に対しては根治切除が可能な症例には積極的に切除を行っています(図5)。また、再発あるいは遠隔転移を有するGISTに対しては分子標的治療薬を用いた化学療法を行っています(図6)。

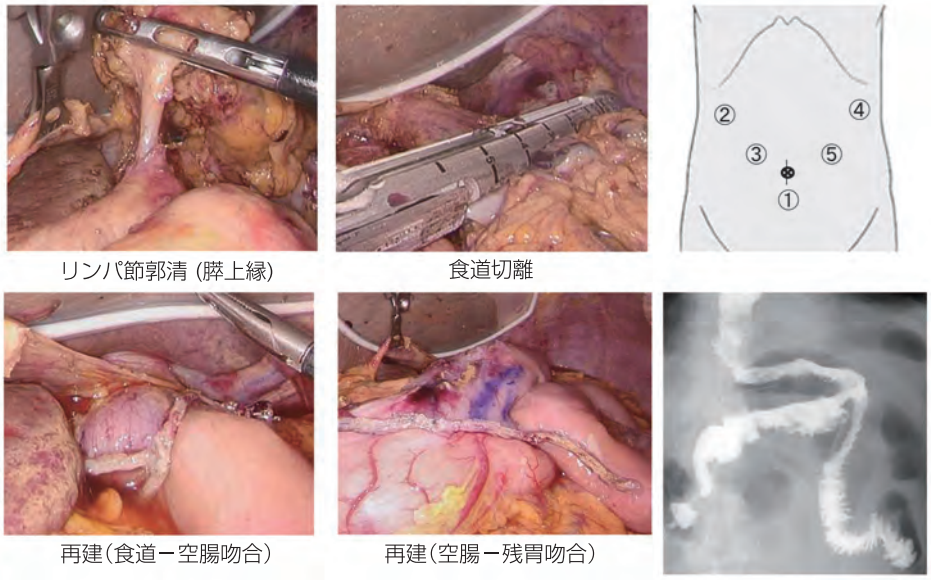


図1:腹腔鏡下噴門側胃切除術(ダブルトラクト再建)

化学療法により根治切除が可能となった腹膜播種を伴う進行胃癌

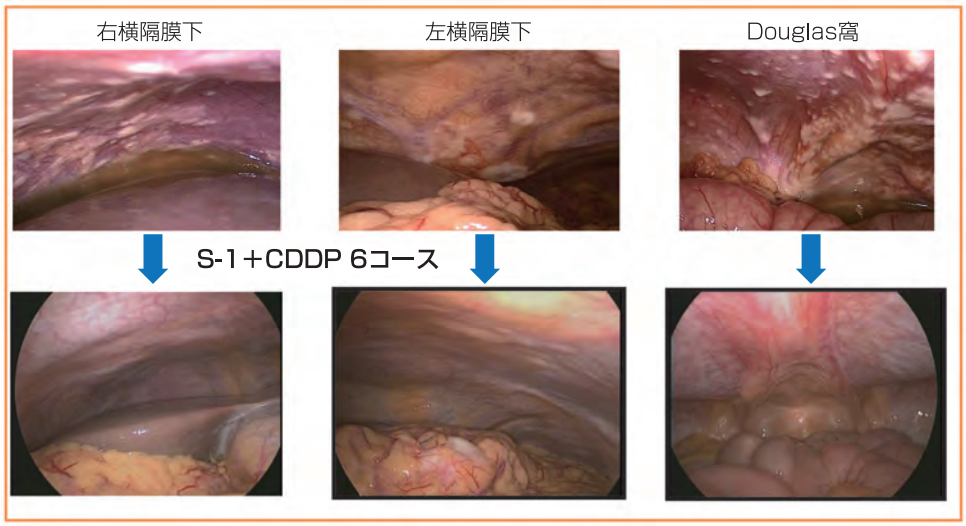


図2：Conversion surgery

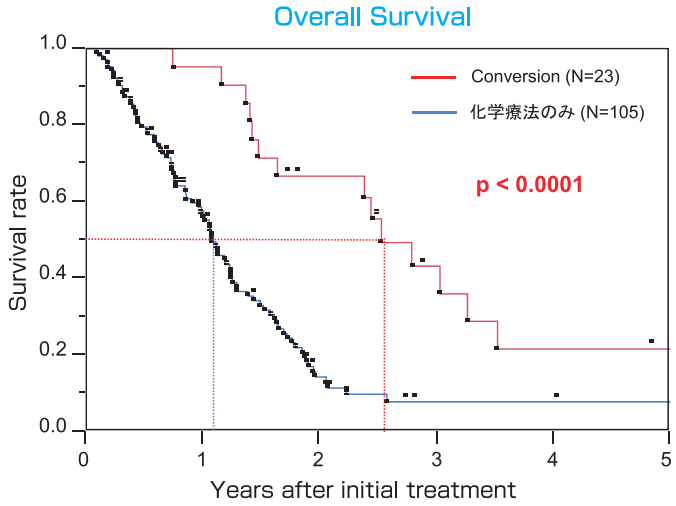


図3：Conversion症例の治療成績

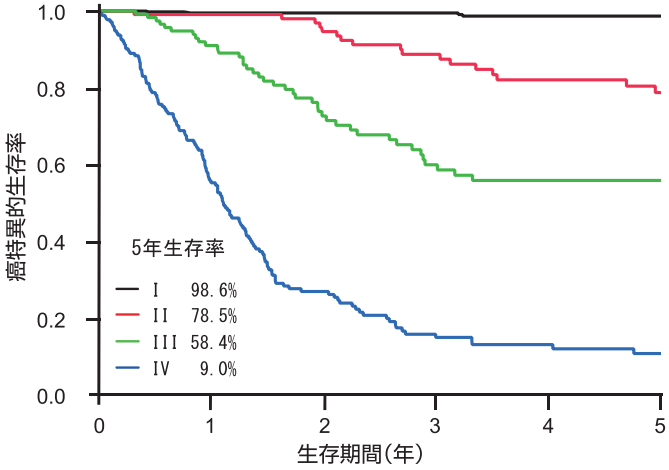


図4：胃癌の治療成績（2005年～ 2018年）

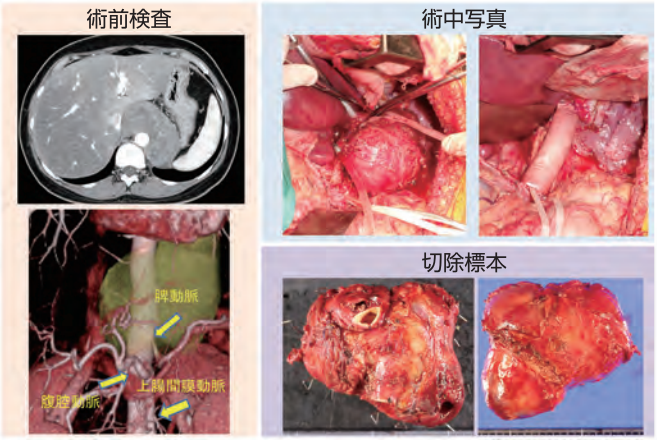


図5：腹部大動脈を取り囲む肉腫に対する腫瘍切除、
大動脈合併切除、人工血管置換術

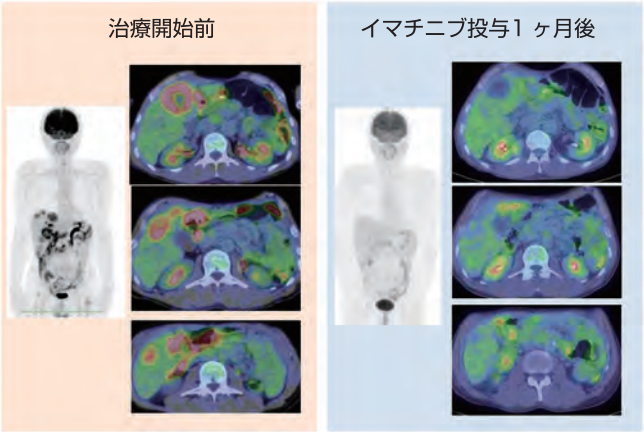


図6：胃GIST、多発肝転移に対するイマチニブ療法

3 大腸癌

日本における大腸癌の現状は、罹患数約16万人(1位)、がん死亡数は5万人(2位)を超え、がん診療の中で大きなウェイトを占めています。我々は外科治療を中心とした集学的治療によって、大腸癌に戦いを挑み治療に貢献したいと思っています。この集学的治療の充実のために、他診療科・他職種との細かな連携を取りながら、大腸癌治療成績の向上を目指しています。当科での大腸癌切除症例の治療成績を示します(図1)。Stage III/IV進行癌の治療成績に改善の必要性を感じています。

【様々な低侵襲手術】

当科では、癌の進行度に応じ、根治度を損なわない症例では基本的に腹腔鏡手術で行っています (図2)。腹腔鏡手術により、痛みの軽減、入院期間短縮、術後回復時間短縮、および創傷感染・ヘルニアなどの術後合併症の発生率の低下が期待されます。また、拡大視効果による正しい剥離層の理解のもと、より質の高い癌手術が可能になります。特に下部直腸癌に関しては手技の安定化により、肛門温存率が向上しています。また、肝臓外科医の協力のもと、同時性肝転移を有する大腸癌に対する腹腔鏡下大腸肝同時切除術も多数行っています。

進行癌による閉塞性大腸癌に対しては、消化器内科の協力のもと、大腸ステント留置の治療が確立しました。これにより緊急性の高い症例でも対応が可能となり、十分な減圧が得られてから大腸切除と一期的な再建を行うBridge to Surgeryを行っています。大腸癌以外の疾患としては潰瘍性大腸炎(UC)や家族性大腸腺腫症(FAP)に対する大腸全摘術や複雑な憩室炎に関しても腹腔鏡手術を積極的に行っています。

また、当科では2年前よりロボット支援下直腸手術を行っており、トレーニングを積んだ外科医により安全性を保ちながら手術を行っています (図3)。従来の腹腔鏡手術と比較したロボット手術のアドバンテージとして、3Dハイビジョンカメラによる視覚化の向上、多関節鉗子、モーションスケーリング及び手振れ防止機能により、骨盤内の狭い術野で正確な操作性が可能なことがあげられます。これにより、難易度の高い男性の肥満症例や、より複雑な直腸癌症例を含む多くの患者で有用性を発揮でき、外科的剥離断端の確保と神経温存に関して手術成績の向上が期待されます。

【安全な外科治療をめざして】

このような低侵襲手術では安全性の確保が重要となりますが、すべての低侵襲手術に内視鏡外科技術認定医が術者あるいは指導的助手として参加し、安全性に配慮しています。術後合併症、特に縫合不全については、蛍光色素を用いた血流確認をはじめとしたさまざまな取り組みにより発生率は徐々に低下しています (2019年: 2.4%)。さらにさまざまな併存症をもつ高齢者や、より複雑な病状の方に対しても他診療科や栄養科、リ

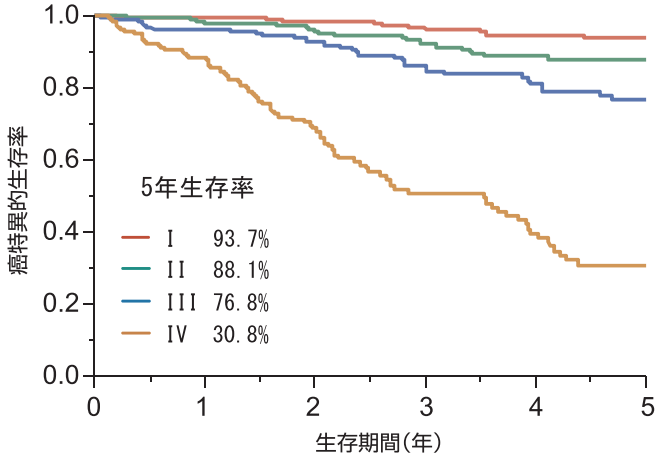


図1:大腸癌の治療成績

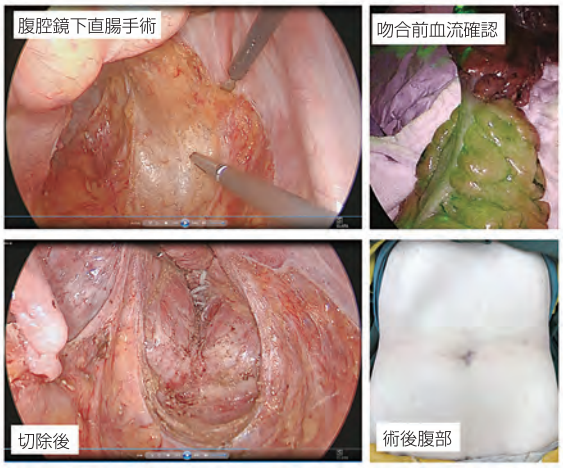


図2:腹腔鏡下直腸手術

ハビリテーション科と協力し、術後順調に回復されるよう包括的な診療を行なっています。外科手術以外にも大腸がんまたは遺伝性がんの家族歴がある人を対象に、遺伝子検査とカウンセリングも提供しています

【局所進行がんに対する拡大手術】

低侵襲手術だけでなく、他臓器浸潤を伴う局所進行大腸癌や、直腸癌術後の骨盤内再発、骨盤内巨大腫瘍などに対する拡大手術にも取り組んでいます(図2)。特に、他臓器浸潤が疑われるような進行癌に対しては、術前補助化学療法を行い、癌の遺残がないR0切除が可能かどうかを慎重に判断したうえで、他臓器合併切除を伴う拡大手術(骨盤内臓全摘術、仙骨合併切除など)を行っています。

【切除不能大腸癌に対する集学的治療】

最近の薬物療法の進歩によって、切除不能・進行再発大腸癌の治療アルゴリズムが多様化・複雑化しています。また大腸癌治療には、癌自体の特性とともに患者自身の状態や社会的背景を踏まえた治療が望まれています。さらに個々の癌のゲノム情報から最適な治療方法を分析・選択するという新たな治療戦略が重要視されており、専門的な知識を持った医師による集学的治療が求められています。我々は患者一人一人に対して最大限に治療効果が発揮できるレジメンで、副作用への対応にも十分配慮し、長期に渡り治療が継続できるよう心がけています。

症例によっては切除不能な病変が切除可能となりうるConversion 症例も多く経験しており (図4)、スムーズに外科治療に移行できるよう治療計画を行っています。肝転移症例はもとより肝外転移を有する場合でもチャンスがあれば外科的に根治切除を狙っていきます。当科の経験でも、化学療法後に外科的治療を行えた症例は予後が大幅に改善することがわかっています。

これら標準治療の他、さらに優れた治療法の開発を目指した多くの治験・臨床試験に関わっていき、新しいエビデンスの構築にも貢献しています。外来化学療法センターのスタッフ(看護師、薬剤師、腫瘍内科医、地域連携、緩和)ともカンファレンス等を通じて情報を共有し、個々の患者の満足度を上げるべく環境づくりに力を入れています。

【おわりに】

当科ではがん制御のために、標準的治療と個々の症例に対する個別化治療のバランスを常に考えながら包括的な診療を行うことを目指しています。大腸癌治療成績改善のため、高度なレベルの診療に取り組みます。

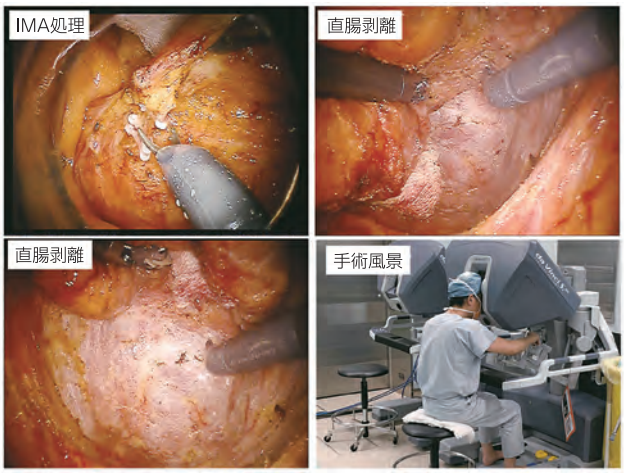


図3:ロボット支援下直腸手術

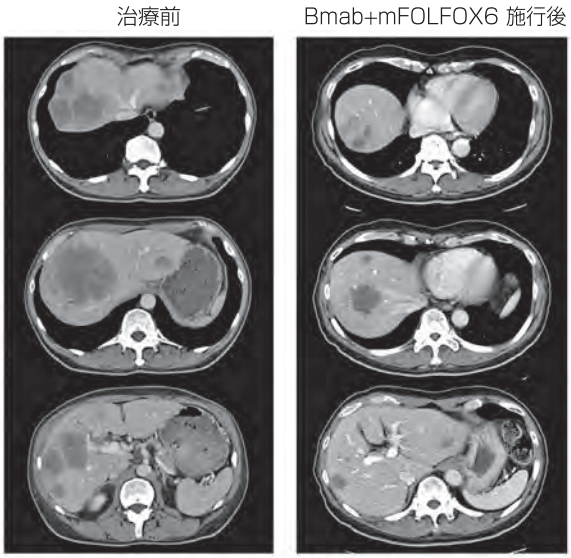


図4:大腸癌肝転移 Conversion症例

肝胆膵外科

肝臓・胆道・膵臓・脾臓の様々な疾患を対象に治療を行っています。消化器内科、画像診断・治療科、移植外科と毎週カンファレンスを行い、患者さんそれぞれのニーズに応じた最適な治療を提供するよう努めています。加えて癌の進行度や臓器機能、全身状態に応じて、腹腔鏡手術、焼灼療法、IVRによる治療などの低侵襲治療を積極的に導入しています。

2019年に施行した日本肝胆膵外科学会の高難度手術は120例と、コンスタントに年間100例を越えています(表1)。2019年の肝切除数は115例(腹腔鏡手術46例)、膵切除数は63例(腹腔鏡手術27例)と、肝胆膵いずれの領域でも多くの手術を行っています。

表1:肝胆膵外科高難度手術

術式	症例数
HPD	3
右肝切除以上	5
左肝切除以上	19
肝区域切除以上(外側区域を除く)	14
肝亜区域切除(S4を除く)	12
胆管切除+肝切除	4
小計	57
PD	41
DP	20
TP	0
MP	0
その他の膵切除	2
小計	63
合計	120

1 肝細胞癌

肝機能や癌の進行度を考慮して、肝切除、ラジオ波凝固療法(RFA)、肝動脈塞栓療法(TACE)、分子標的治療、放射線治療、肝移植などを組み合わせた『個別化治療』を行っています。他科との連携を密にしながら、熊本大学として統一した治療体系を確立しています。

肝細胞癌を含む最近10年間の年間肝切除数の推移を図1に示します。最近10年間の肝切除総数は1151例にのぼり、当科はコンスタントに年間100例を越える肝切除を行っている国内有数のhigh volume centerです。

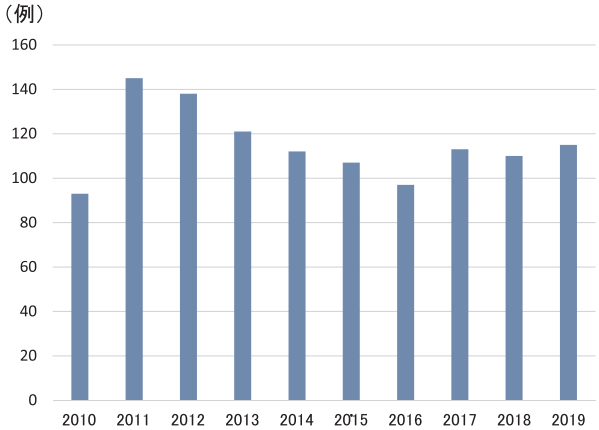
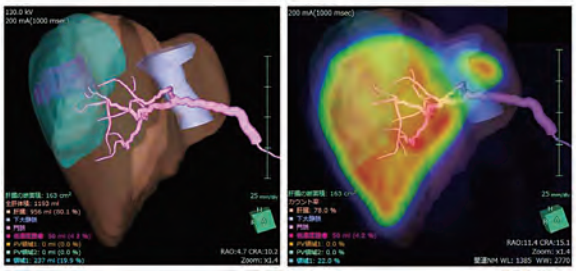


図1:過去10年間の肝切除数の年次推移(n=1151)

肝切除後合併症ゼロを目指して様々な取り組みを行っています。術後肝不全を予防するために、CTによる残肝容量の算定だけでなく、アシアロSPECT/CT fusion画像を用いた機能的残肝容量の算出を行い、より正確な残肝評価を行っています(Surgery 2015)。更にVINCENT™ systemにアシアロSPECT-CT fusion画像を融合させたアシアロSPECT-fusion VINCENT™を用いた『機能的残肝容量に基づいた術前手術手技シミュレーション』を導入して精緻な手術を実現しています(図2)。



A) VINCENT™を用いた3D volumetry画像構築
B) アシアロSPECT-fusion VINCENT™ (VINCENT SYNAPSE Ver3.1)を用いたSPECT- 3D volumetry画像構築

図2:機能的肝体積に基づいた術前手術手技シミュレーション

2005年から2018年までに当科で切除を行った初発肝細胞癌(n=523)の切除後予後は、5年生存率74.5%と極めて良好です(図3)。また初発肝細胞癌に対する肝切除のstage別5年生存率も、stage Iで83.4%、stage IIで84.3%、stage IIIで59.1%、stage IVAで49.4%と、stage IIIやstage IVAの進行癌でも比較的良好な予後を実現しています(図4)。このような良好な治療成績は、再発肝細胞癌に対しても、肝機能が良好であれば、難易度が高いとされる再肝切除を積極的に行い(Liver Transplant 2015)、再発時の癌の進行度や残肝機能に応じて、RFA、TACE、分子標的治療などを組み合わせた『個別化治療』への我々

の取り組みの成果と考えています(HPB 2018)。

体に優しい、創の小さな経皮的あるいは腹腔鏡手術を積極的に行っています(Surg Endosc 2019)。肝癌に対する腹腔鏡、胸腔鏡手術を全国に先駆けて1994年に導入し、現在ではICG蛍光法など術中ナビゲーションを駆使して安全性を担保しながら、区域切除や葉切除へ適応を拡大しました(図5)。現在では、肝切除の約5割(53例)を完全腹腔鏡下に行っています(図6)。

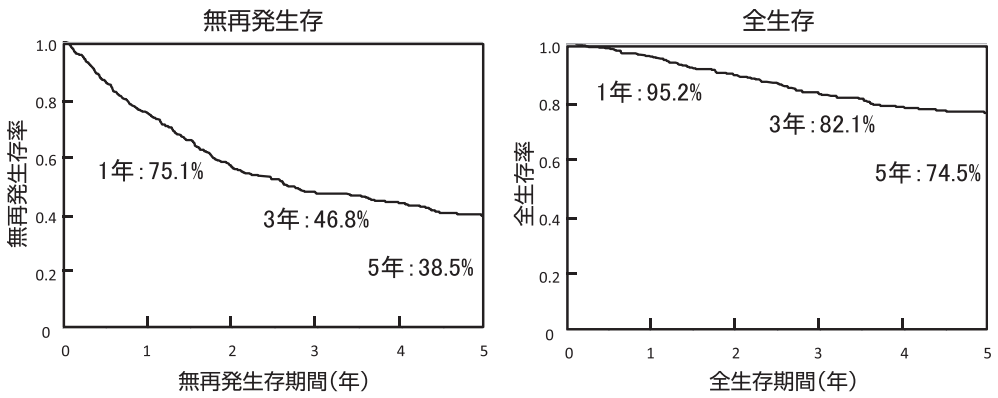


図3:初発肝細胞癌の切除後予後(n=523)

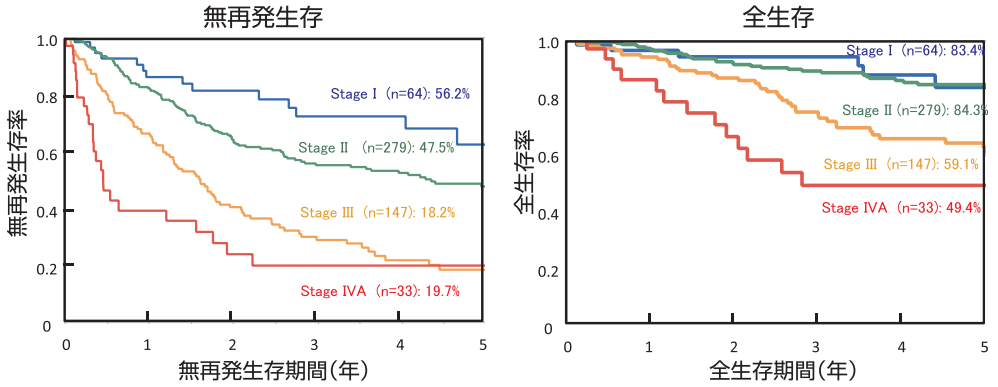


図4:初発肝細胞癌のStage別予後(n=523)

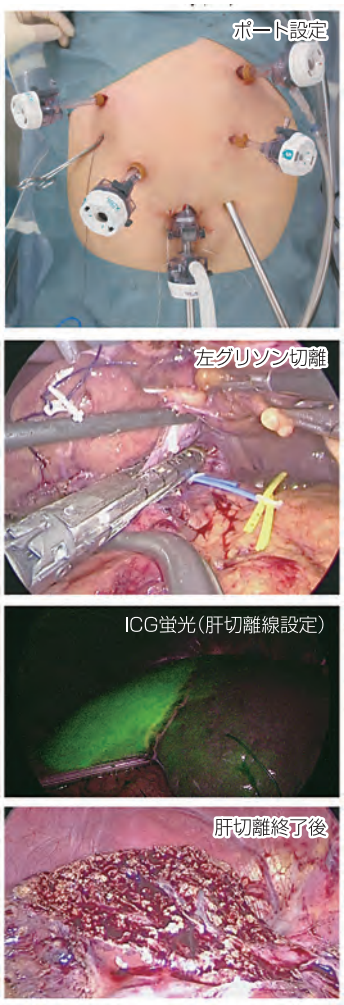


図5:腹腔鏡下左肝切除

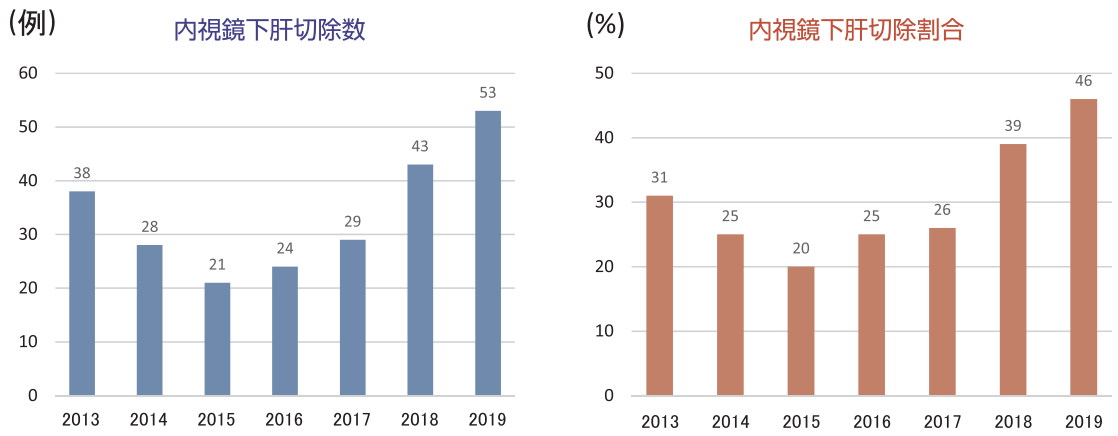


図6:完全腹腔鏡下肝切除の年次推移

2 肝内胆管癌

肝内胆管癌は非常に希な原発性肝癌ですが、発見時既に進行している症例も多く、切除後予後が極めて不良な難治性癌です。2002年から2019年までに当科で切除を行った初発肝内胆管癌(n=104)の切除後予後は、5年生存率51.2%と比較的良好です(図7)。また初発肝内胆管癌に対する肝切除のstage別5年生存率は、stage I/IIで56.2%、stage IIIで53.3%、stage IVAで39.2%であり(図8)、更なる予後向上のためには、リンパ節転移のあるStage IVAの進行症例に対する術前補助化学療法などの工夫が喫緊の課題と考えています。また、肝内胆管癌再発例に対しても、適応を吟味しながら積極的に再切除を行って、良好な治療成績を収めています(Ann Gastroenterol Surg 2017)。

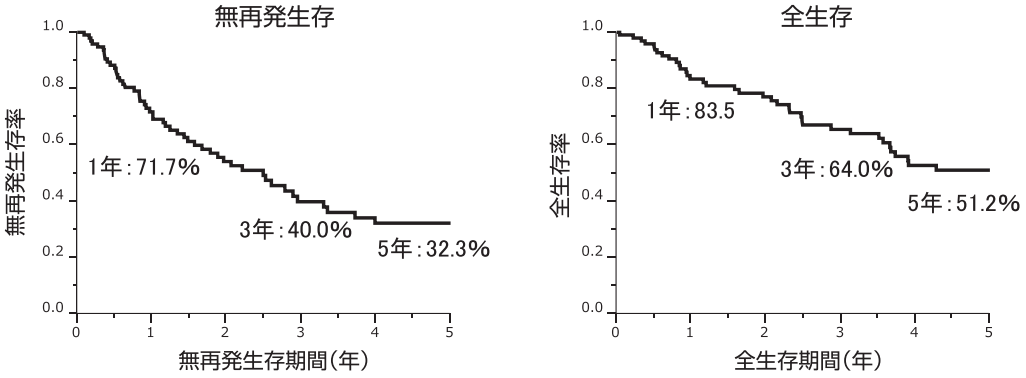


図7:初発肝内胆管癌の切除後予後(n = 104)

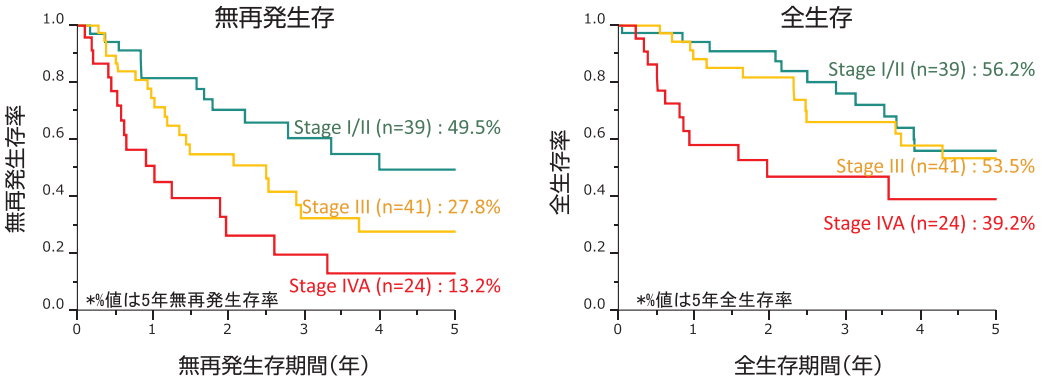


図8:初発肝内胆管癌のStage別予後(n=104)

3 転移性肝癌

大腸癌肝転移の治療成績は、新規化学・分子標的治療の導入により急速に改善し、ガイドライン上も肝転移巣が切除可能となれば切除を行うことが推奨されています。我々は、肝切除不能な患者さんが抗癌剤治療により切除可能となれば、転移巣が10個以上など多数ある場合でも、様々な工夫をして、患者さんの予後改善のために、積極的に手術を行っています。転移巣が深部にある場合は、ラジオ波焼灼を切除に組み合わせて切除適応を拡大し(Br J Surg 2017)、転移巣が両葉にまたがる場合、切除適応拡大のために『Two-Stage hepatectomy』を積極的に行っています(Ann Surg 2015)。1st Stageで原発巣切除と残肝となる側にある腫瘍の部分切除を行い、切除予定肝葉の門脈塞栓を行います。約1ヶ月残肝の肥大を待って、2nd Stageで門脈塞栓を行った葉を切除します(図9)。腫瘍内科医、消化器内科医、消化管外科医と連絡を密にして、肝転移巣の切除適応やタイミング

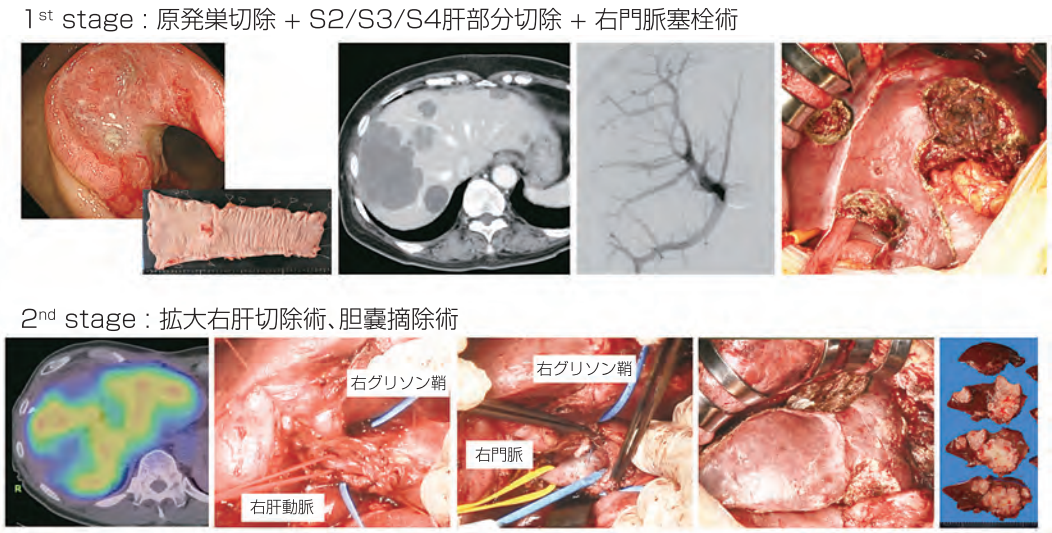


図9：大腸癌肝転移に対するTwo-stage hepatectomy

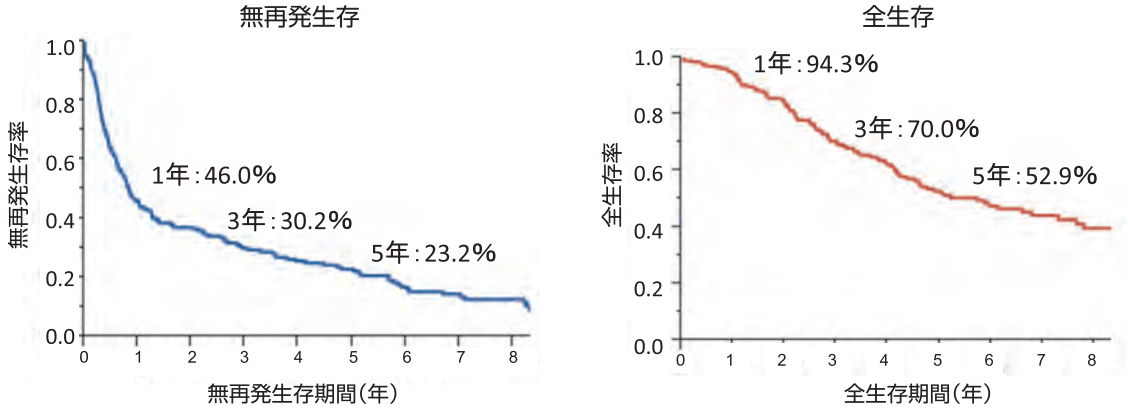


図10：大腸癌肝転移の切除後予後（n=217）

を決定しています。このような工夫により、2000年から2018年までに当科で切除を行った大腸癌肝転移症例（n=217）の切除後5年生存率は52.9%と良好です（図10）。また、大腸癌肝転移に対しても積極的に腹腔鏡下手術を行っています。

4 膵癌

膵癌は依然として極めて予後不良な難治性癌です。厚生労働省の統計では、2018年の部位別がん死亡数では男性第4位、女性第3位と年々増加しています。以前は手術のみが有効な治療でしたが、新しい化学療法の出現や診断技術、手術手技の向上で少しずつ治療の道が開けてきました。

2004年から2019年までに当科で切除を行った膵癌（n=253）の切除後予後は、5年生存率29.8%とまだ満足できる成績ではありません（図11）。またstage別5年生存率は、stage Iで70.9%、stage IIAで39.0%、stage IIBで17.2%、stage III/IVで0%となっており、更なる予後改善のためには、stage Iの早期に膵癌を診断すること、およびstage IIB/III/IVにおける術前化学療法の工夫が課題と考えています（図12）。

上腸間膜動脈や腹腔動脈など重要血管に浸潤がある局所進行癌の場合、また肝転移や腹膜播種などの遠隔転移を認める場合は、全身化学療法を行います。FOLFIRINOX療法（オキサリプラチン、イリノテカン、フルオ

ロウラシル、レボホリナートカルシウム）かGnP療法（ゲムシタビン＋ナブパクリタキセル）を個々の症例に合わせて選択しています。近年では局所進行癌で切除不能と診断された方が、このような化学療法で腫瘍が縮小し、切除可能となる症例も増えています（図13）。

切除後予後の向上を目指して、膵癌に対しても積極的に術前化学療法を行っています。門脈浸潤を認めるなどのBorderline resectable（切除境界）膵癌に対してはFOLFIRINOX療法やGnP療法による術前化学療法をほぼルーチンに行っています。一方でResectable（切除可能）膵癌に対しても、Prep-02/JSAP-05試験の結果から、GS療法（Gemcitabin+S-1）を2クール行った後に手術を行っています。

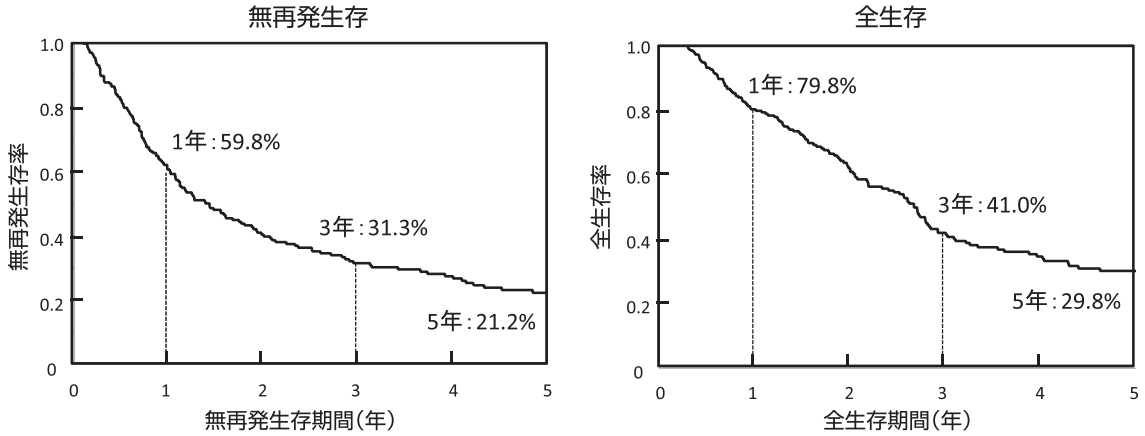


図11：膵癌の予後曲線（n = 253）

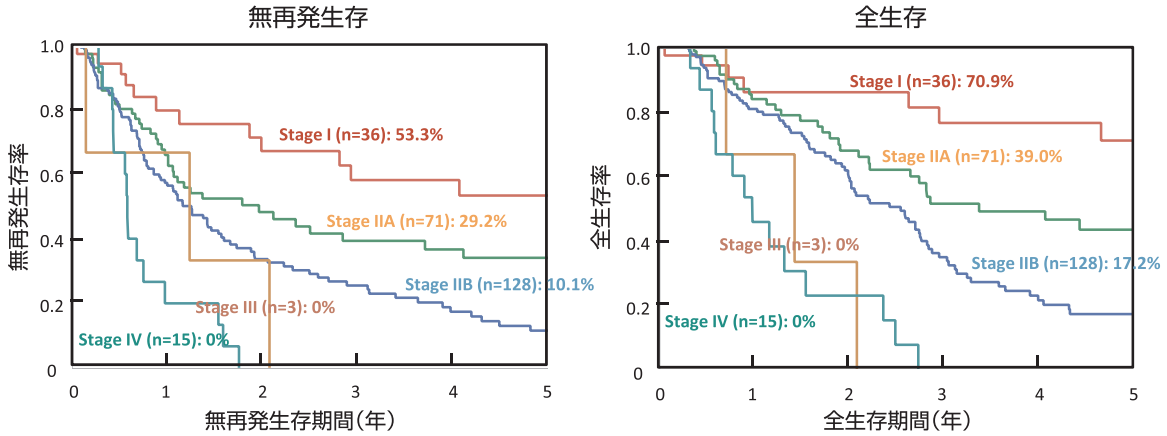


図12：膵癌のStage別予後曲線（n=253）

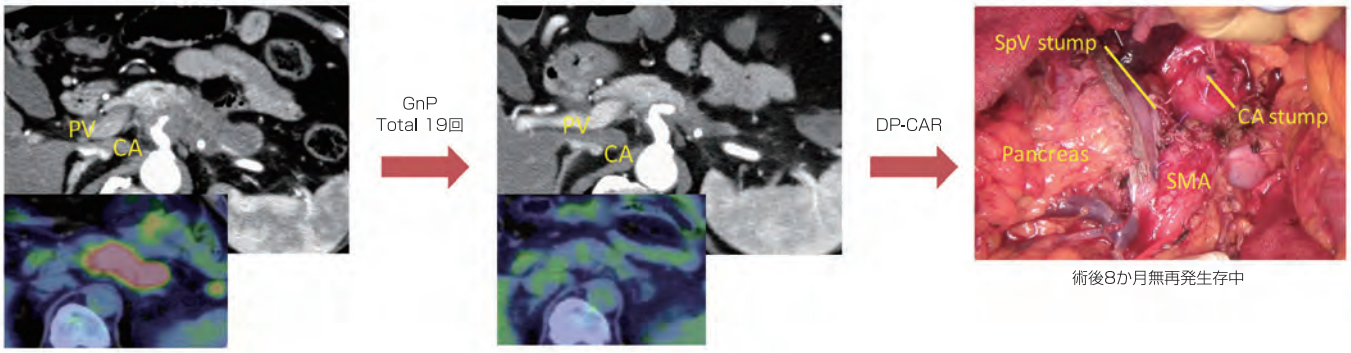


図13：膵癌に対するConversion Surgery

膵癌に対する手術は高侵襲で、全国的にみると合併症率が高いことから、症例数の多い施設で手術を行うことがガイドラインでも推奨されています。当科での過去10年間の膵切除の年次推移を図14に示します。当科は国内有数の膵切除に関するhigh volume centerです。局所進行癌に対しては、門脈合併切除および自家グラフトによる門脈再建を行う拡大手術を行っています(図15)。膵切除においても腹腔鏡手術の適応拡大が進み、膵神経内分泌腫瘍(PNET)といった低悪性度腫瘍のみでなく、胆管癌や膵癌に対しても腹腔鏡下膵頭十二指腸切除(図16)や腹腔鏡下膵体尾部切除術を行っています(図17)。今後はロボット手術を積極的に導入する予定です。

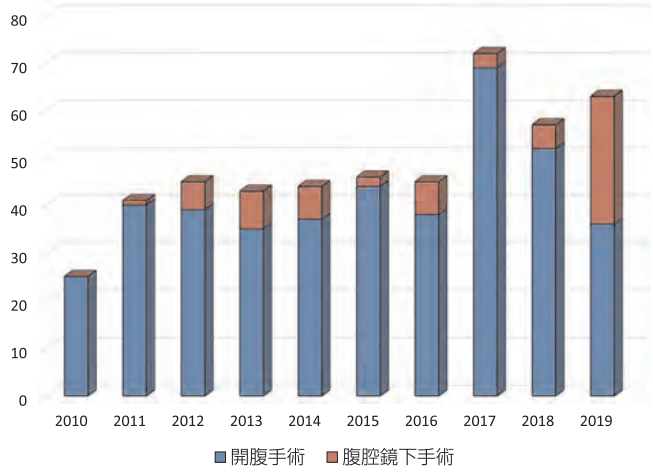


図14:過去10年間の膵切除数の年次推移 (n=481)

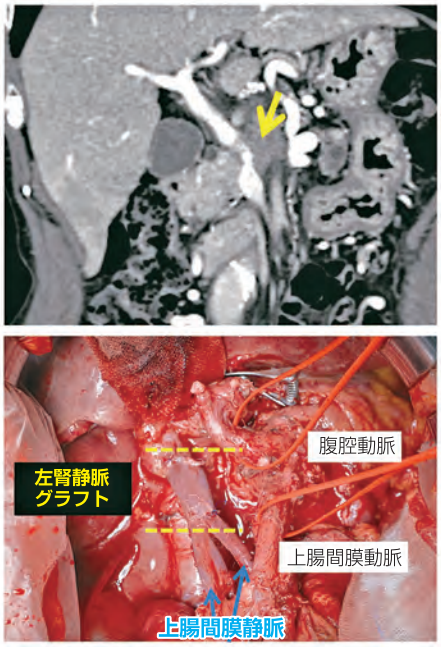


図15:門脈合併切除PD(左腎静脈グラフト)

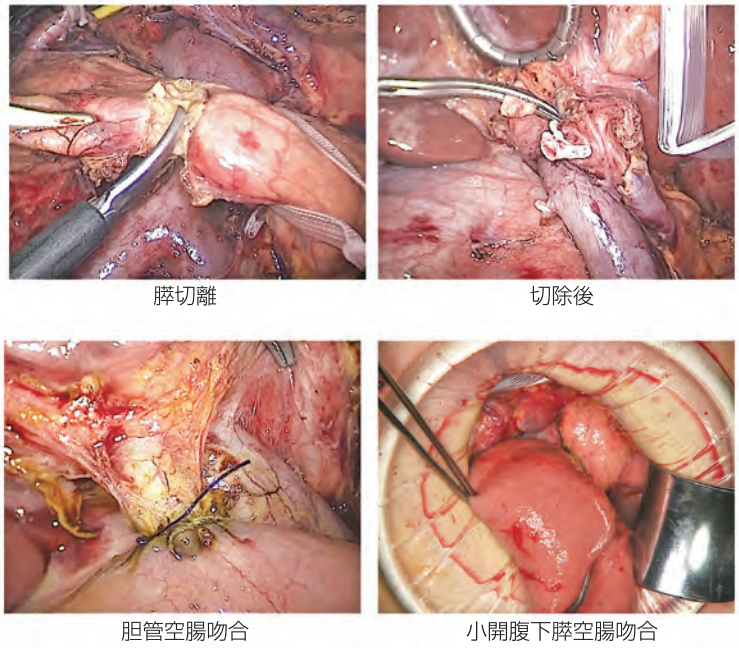


図16:腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術

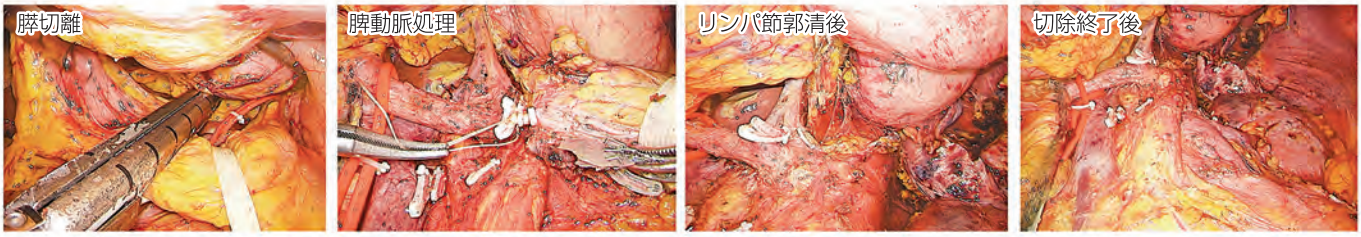


図17:膵癌に対する腹腔鏡下尾側膵切除

5 胆道癌

胆道癌は胆管癌、胆嚢癌、乳頭部癌に分類されます。特に肝門部胆管癌は肝胆膵領域の癌の中で最も診断と治療が難しい疾患ですが、MDCTによる画像診断、血管合併切除・再建を含む拡大手術、薬物治療の進歩により胆道癌の治療成績は向上しています。2000年から2018年までに当科で切除を行った胆道癌(n=181)の切除後予後は、5年生存率35.7%と比較的良好です(図18)。また、胆道癌切除後のStage別5年生存率はstage Iで72.3%、stage II で38.9%、stage III/IVで 10.2%であり(図19)、更なる予後向上のためには、周囲脈管浸潤を伴う局所進行例やリンパ節転移を伴う胆道癌に対する集学的治療体系の確立が喫緊の課題と考えています。

当科では、切除体積率の高い肝切除を必要とする症例には、ICG試験とアシアロシンチグラフィで肝予備能を評価し、機能的肝切除率を参考に残肝ICGK値を算出して手術適応を決定しています。残肝機能が不十分と思われる症例に対しては、術前に切除予定肝の門脈塞栓を行っています。残肝機能が増大した後に、右肝切除や左3区域切除術を行います(図20)。また、広範囲胆管癌に対する肝膵同時切除も積極的に行っています。

癌の浸潤範囲が更に広い切除不能症例や、肝転移など遠隔転移を伴う症例に対しては、ガイドラインで第一選択として推奨されているゲムシタビン+シスプラチン療法を中心に治療を行っています。

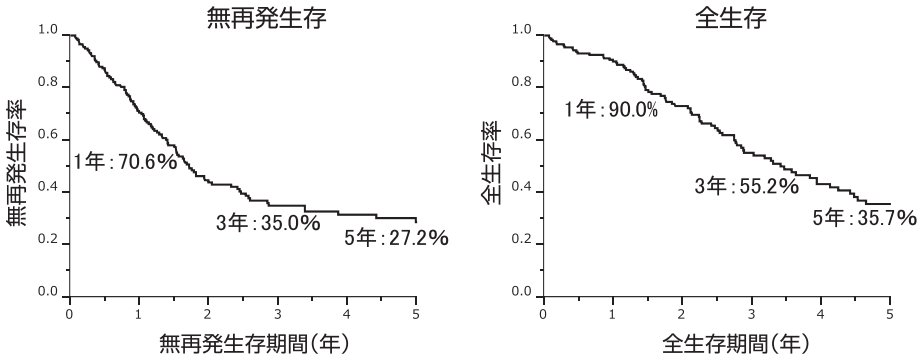


図18:初発胆道癌の切除後予後(n=181)

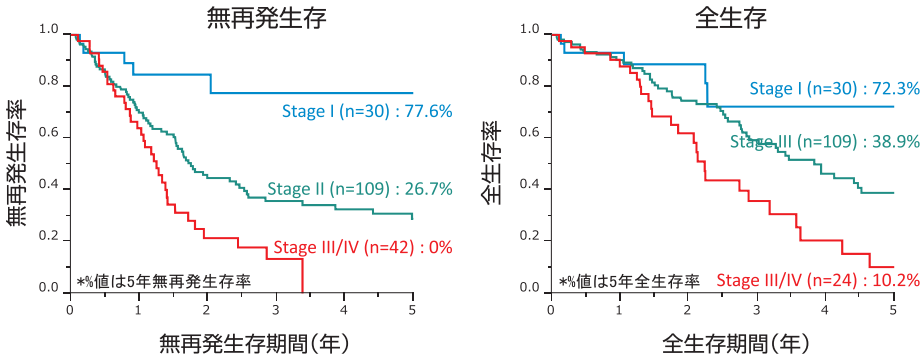


図19:初発胆道癌のStage別予後(n=181)

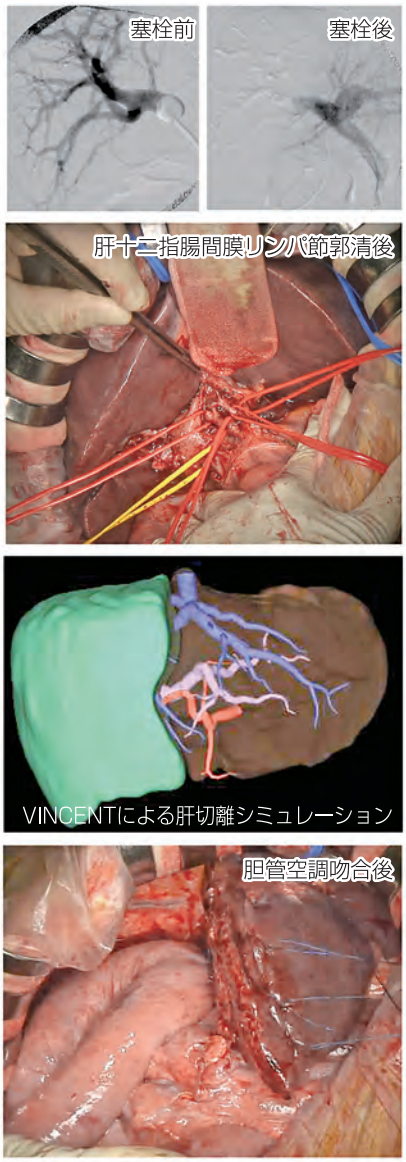


図20:
肝門部胆管癌に対する
門脈塞栓後の拡大肝切除術

2019年度 年間英文論文業績

LIST OF MANUSCRIPTS（教室員の名前が入った論文）

Impact Factor (IF)	Journal	IF（2018）	論文数（Published＋In press）
IF≧10	Nat Rev Clin Oncol	34.106	1
	Gastroenterology	19.809	1
	Gut	17.943	1
	Hepatology	14.971	1
	Ann Oncol	14.196	3
	J Natl Cancer Inst	10.211	1
10>IF≧5	Ann Surg	9.476	15
	Clin Cancer Res	8.911	5
	Cancer Treat Rev	8.332	1
	EBioMedicine	6.680	1
	Eur J Cancer	6.680	4
	Oncogene	6.634	2
	Sensors and Actuators B-Chemical	6.393	1
	Cancer	6.102	1
	Cell Death Dis	5.959	1
	J Pathol	5.942	1
	BJS Open	5.586	1
	Br J Surg	5.572	3
	Gastric Cancer	5.554	11
	Br J Cancer	5.416	3
	J Gastroenterol	5.130	3
5>IF≧3	Drugs	4.993	1
	Int J Cancer	4.982	2
	Cancer Sci	4.751	7
	Mol Cancer Res	4.484	1
	Dis Colon Rectum	4.087	2
	Eur Radiol	3.962	1
	Hepatobil Surg Nutr	3.911	1
	Am J Pathol	3.762	1
	Ann Transl Med	3.689	1
	Ann Surg Oncol	3.681	11
	Dig Endosc	3.640	2
	J Gastroenterol Hepatol	3.632	1
	Surgery	3.476	2
	Hepatol Res	3.440	1
	Surg Endosc	3.209	3
	J Cancer	3.182	1
	Clin Colorectal Cancer	3.176	1
	J Surg Oncol	3.114	1
	HPB (Oxford)	3.047	2
	Oncol Rep	3.041	1
	Digestion	3.029	2
	Cancer Chemother Pharmacol	3.008	1
	Surg Oncol	3.000	2
3>IF			107
	英文論文 総数：		216
	IF 合計：		862.902

1 Harada K, Abdelhakeem AAF, Ajani JA: A balancing act: dual immune-checkpoint inhibition for oesophagogastric cancer. ***Nat Rev Clin Oncol*** 16:9-10, 2019
2 Russell JO, Lu WY, Okabe H, Abrams M, Oertel M, Poddar M, Singh S, Forbes SJ, Monga SP: Hepatocyte-Specific beta-Catenin Deletion During Severe Liver Injury Provokes Cholangiocytes to Differentiate Into Hepatocytes. ***Hepatology*** 69:742-759, 2019
3 Izumi D, Gao F, Chen Y, Ishimoto T, Horino K, Shimada S, Kodera Y, Baba H, Chen J, Wang X, Goel A: Identification, development and validation of a circulating miRNA-based diagnostic signature for early detection of gastric cancer. ***Ann Oncol*** 30, Suppl 9: iv45, 2019
4 Kang Y, Chin K, Chung H, Kadowaki S, Oh S, Nakayama N, Lee K, Hara H, Chung I, Tsuda M, Park S, Hosaka H, Hironaka S, Miyata Y, Ryu M, Takeuchi M, Baba H, Hyodo I, Bang Y, Boku N: A phase III study of TAS-118 plus oxaliplatin versus S-1 plus cisplatin as first-line chemotherapy in patients with advanced gastric cancer (SOLAR study). ***Ann Oncol*** 30 Suppl 4:iv153, 2019
5 Hamada T, Nowak JA, Masugi Y, Drew DA, Song M, Cao Y, Kosumi K, Mima K, Twombly TS, Liu L, Shi Y, da Silva A, Gu M, Li W, Nosho K, Keum N, Giannakis M, Meyerhardt JA, Wu K, Wang M, Chan AT, Giovannucci EL, Fuchs CS, Nishihara R, Zhang X, Ogino S: Smoking and Risk of Colorectal Cancer Sub-Classified by Tumor-Infiltrating T Cells. ***J Natl Cancer Inst*** 111:42-51, 2019
6 Imai K, Benitez CC, Allard MA, Vibert E, Cunha AS, Cherqui D, Castaing D, Bismuth H, Baba H, Adam R: Impact of Surgical Treatment for Recurrence After 2-Stage Hepatectomy for Colorectal Liver Metastases, on Patient Outcome. ***Ann Surg*** 269:322-330, 2019
7 Kiyozumi Y, Baba Y, Okadome K, Yagi T, Ishimoto T, Iwatsuki M, Miyamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, Komohara Y, Baba H: IDO1 Expression Is Associated With Immune Tolerance and Poor Prognosis in Patients With Surgically Resected Esophageal Cancer. ***Ann Surg*** 269:1101-1108, 2019
8 Okadome K, Baba Y, Baba H: Response to Comment on "Prognostic Nutritional Index, Tumor-infiltrating Lymphocytes, and Prognosis in Patients With Esophageal Cancer". ***Ann Surg*** 270:e105-e106, 2019
9 Yagi T, Baba Y, Ishimoto T, Iwatsuki M, Miyamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, Baba H: PD-L1 Expression, Tumor-infiltrating Lymphocytes, and Clinical Outcome in Patients With Surgically Resected Esophageal Cancer. ***Ann Surg*** 269:471-478, 2019
10 Yoshida N, Yamamoto H, Miyata H, Baba H: Response to Comment on "Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database". ***Ann Surg*** 270:e110-e111, 2019
11 Li F, Xu Y, Liu B, Singh PK, Zhao W, Jin J, Han G, Scott AW, Dong X, Huo L, Ma L, Pizzi MP, Wang Y, Li Y, Harada K, Xie M, Skinner HD, Ding S, Wang L, Krishnan S, Johnson RL, Song S, Ajani JA: YAP1-Mediated CDK6 Activation Confers Radiation Resistance in Esophageal Cancer - Rationale for the Combination of YAP1 and CDK4/6 Inhibitors in Esophageal Cancer. ***Clin Cancer Res*** 25:2264-2277, 2019
12 Tokunaga R, Xiu J, Johnston C, Goldberg RM, Philip PA, Seeber A, Naseem M, Lo JH, Arai H, Battaglin F, Puccini A, Berger MD, Soni S, Zhang W, Hwang JJ, Shields AF, Marshall JL, Baba H, Korn WM, Lenz HJ: Molecular Profiling of Appendiceal Adenocarcinoma and Comparison with Right-sided and Left-sided Colorectal Cancer. ***Clin Cancer Res*** 25:3096-3103, 2019
13 Yamamura K, Izumi D, Kandimalla R, Sonohara F, Baba Y, Yoshida N, Kodera Y, Baba H, Goel A: Intratumoral Fusobacterium Nucleatum Levels Predict Therapeutic Response to Neoadjuvant Chemotherapy in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. ***Clin Cancer Res*** 25:6170-6179, 2019
14 Tokunaga R, Naseem M, Lo JH, Battaglin F, Soni S, Puccini A, Berger MD, Zhang W, Baba H, Lenz HJ: B cell and B cell-related pathways for novel cancer treatments. ***Cancer Treat Rev*** 73:10-19, 2019
15 Izumi D, Gao F, Toden S, Sonohara F, Kanda M, Ishimoto T, Kodera Y, Wang X, Baba H, Goel A: A genomewide transcriptomic approach identifies a novel gene expression signature for the detection of lymph node metastasis in patients with early stage gastric cancer. ***EBioMedicine*** 41:268-275, 2019
16 Kosumi K, Hamada T, Zhang S, Liu L, da Silva A, Koh H, Twombly TS, Mima K, Morikawa T, Song M, Nowak JA, Nishihara R, Saltz LB, Niedzwiecki D, Ou FS, Zemla T, Mayer RJ, Baba H, Ng K, Giannakis M, Zhang X, Wu K, Giovannucci EL, Chan AT, Fuchs CS, Meyerhardt JA, Ogino S: Prognostic association of PTGS2 (COX-2) over-expression according to BRAF mutation status in colorectal cancer: Results from two prospective cohorts and CALGB 89803 (Alliance) trial. ***Eur J Cancer*** 111:82-93, 2019
17 Suenaga M, Stintzing S, Cao S, Zhang W, Yang D, Ning Y, Okazaki S, Berger MD, Miyamoto Y, Schirripa M, Soni S, Barzi A, Heinemann V, Lenz HJ: Role of CCL5 and CCR5 gene polymorphisms in epidermal growth factor receptor signalling blockade in metastatic colorectal cancer: analysis of the FIRE-3 trial. ***Eur J Cancer*** 107:100-114, 2019
18 Yagi T, Baba Y, Okadome K, Kiyozumi Y, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Iwatsuki M, Miyamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, Komohara Y, Baba H: Tumour-associated macrophages are associated with poor prognosis and programmed death ligand 1 expression in oesophageal cancer. ***Eur J Cancer*** 111:38-49, 2019
19 Arima K, Ohmuraya M, Miyake K, Koiwa M, Uchihara T, Izumi D, Gao F, Yonemura A, Bu L, Okabe H, Imai K, Hashimoto D, Baba Y, Chikamoto A, Yamashita Y, Furukawa T, Araki K, Baba H, Ishimoto T: Inhibition of 15-PGDH causes Kras-driven tumor expansion through prostaglandin E2-ALDH1 signaling in the pancreas. ***Oncogene*** 38:1211-1224, 2019
20 Bu L, Baba H, Yoshida N, Miyake K, Yasuda T, Uchihara T, Tan P, Ishimoto T: Biological heterogeneity and versatility of cancer-associated fibroblasts in the tumor microenvironment. ***Oncogene*** 38:4887-4901, 2019
21 Shimada H, Kiyozumi Y, Koga Y, Ogata Y, Katsuda Y, Kitamura Y, Iwatsuki M, Nishiyama K, Baba H, Ihara T: A novel cholinesterase assay for the evaluation of neurotoxin poisoning based on the electron-transfer promotion effect of thiocholine on an Au electrode. ***Sensor Actuat B-Chem*** 298:126893, 2019
22 Hamauchi S, Furuse J, Takano T, Munemoto Y, Furuya K, Baba H, Takeuchi M, Choda Y, Higashiguchi T, Naito T, Muro K, Takayama K, Oyama S, Takiguchi T, Komura N, Tamura K: A multicenter, open-label, single-arm study of anamorelin (ONO-7643) in advanced gastrointestinal cancer patients with cancer cachexia. ***Cancer*** 125:4294-4302, 2019
23 Izumi D, Toden S, Ureta E, Ishimoto T, Baba H, Goel A: TIAM1 promotes chemoresistance and tumor invasiveness in colorectal cancer. ***Cell Death Dis*** 10:267, 2019
24 Allard MA, Nishioka Y, Beghdadi N, Imai K, Gelli M, Yamashita S, Kitano Y, Kokudo T, Yamashita Y, Sa Cunha A, Vibert E, Elias D, Cherqui D, Goere D, Adam R, Baba H, Hasegawa K: Multicentre study of perioperative versus adjuvant chemotherapy for resectable colorectal liver metastases. ***BJS Open*** 3:678-686, 2019
25 Baba Y, Yagi T, Kosumi K, Okadome K, Nomoto D, Eto K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Ishimoto T, Iwatsuki M, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Komohara Y, Watanabe M, Baba H: Morphological lymphocytic reaction, patient prognosis and PD-1 expression after surgical resection for oesophageal cancer. ***Br J Surg*** 106:1352-1361, 2019
26 Iwatsuki M, Yamamoto H, Miyata H, Kakeji Y, Yoshida K, Konno H, Seto Y, Baba H: Effect of hospital and surgeon volume on postoperative outcomes after distal gastrectomy for gastric cancer based on data from 145,523 Japanese patients collected from a nationwide web-based data entry system. ***Gastric Cancer*** 22:190-201, 2019
27 Kano Y, Ohashi M, Ida S, Kumagai K, Nunobe S, Sano T, Hiki N: Oncological feasibility of laparoscopic subtotal gastrectomy compared with laparoscopic proximal or total gastrectomy for cT1N0M0 gastric cancer in the upper gastric body. ***Gastric Cancer*** 22:1060-1068, 2019
28 Koga Y, Iwatsuki M, Yamashita K, Kiyozumi Y, Kurashige J, Masuda T, Eto K, Iwagami S, Harada K, Ishimoto T, Baba Y, Yoshida N, Miyanari N, Takamori H, Ajani JA, Baba H: The role of FBXW7, a cell-cycle regulator, as a predictive marker of recurrence of gastrointestinal stromal tumors. ***Gastric Cancer*** 22:1100-1108, 2019
29 Ri M, Hiki N, Ishizuka N, Ida S, Kumagai K, Nunobe S, Ohashi M, Sano T: Duodenal stump reinforcement might reduce both incidence and severity of duodenal stump leakage after laparoscopic gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction for gastric cancer. ***Gastric Cancer*** 22:1053-1059, 2019

30 Shoji Y, Kumagai K, Kamiya S, Ida S, Nunobe S, Ohashi M, Yoshimizu S, Horiuchi Y, Yoshio T, Ishiyama A, Hirasawa T, Osako T, Yamamoto N, Fujisaki J, Sano T, Hiki N: Prospective feasibility study for single-tracer sentinel node mapping by ICG (indocyanine green) fluorescence and OSNA (one-step nucleic acid amplification) assay in laparoscopic gastric cancer surgery. ***Gastric Cancer*** 22:873-880, 2019
31 Shoji Y, Nunobe S, Ida S, Kumagai K, Ohashi M, Sano T, Hiki N: Surgical outcomes and risk assessment for anastomotic complications after laparoscopic proximal gastrectomy with double-flap technique for upper-third gastric cancer. ***Gastric Cancer*** 22:1036-1043, 2019
32 Takahashi R, Ohashi M, Kano Y, Ida S, Kumagai K, Nunobe S, Chin K, Yamaguchi K, Nagino M, Sano T, Hiki N: Timing and site-specific trends of recurrence in patients with pathological stage II or III gastric cancer after curative gastrectomy followed by adjuvant S-1 monotherapy. ***Gastric Cancer*** 22:1256-1262, 2019
33 Tsujiura M, Hiki N, Ohashi M, Nunobe S, Kumagai K, Ida S, Ohashi T, Sano T, Yamaguchi T: Should pylorus-preserving gastrectomy be performed for overweight/obese patients with gastric cancer? ***Gastric Cancer*** 22:1247-1255, 2019
34 Yamashita K, Iwatsuki M, Harada K, Koga Y, Kiyozumi Y, Eto K, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Iwagami S, Baba Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Komohara Y, Ajani JA, Baba H: Can PD-L1 expression evaluated by biopsy sample accurately reflect its expression in the whole tumour in gastric cancer? ***Br J Cancer*** 121:278-280, 2019
35 Hashimoto D, Arima K, Nakagawa S, Negoro Y, Hirata T, Hirota M, Inomata M, Fukuzawa K, Ohga T, Saeki H, Oki E, Yamashita Y, Chikamoto A, Baba H, Maehara Y: Pancreatic cancer arising from the remnant pancreas after pancreatectomy: a multicenter retrospective study by the Kyushu Study Group of Clinical Cancer. ***J Gastroenterol*** 54:437-448, 2019
36 Liu Y, Baba Y, Ishimoto T, Iwatsuki M, Hiyoshi Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Wu R, Baba H: Progress in characterizing the linkage between Fusobacterium nucleatum and gastrointestinal cancer. ***J Gastroenterol*** 54:33-41, 2019
37 Osumi H, Kawachi H, Yoshio T, Ida S, Yamamoto N, Horiuchi Y, Ishiyama A, Hirasawa T, Tsuchida T, Hiki N, Takeuchi K, Fujisaki J: Epstein-Barr virus status is a promising biomarker for endoscopic resection in early gastric cancer: proposal of a novel therapeutic strategy. ***J Gastroenterol*** 54:774-783, 2019
38 Lopez A, Harada K, Vasilakopoulou M, Shanbhag N, Ajani JA: Targeting Angiogenesis in Colorectal Carcinoma. ***Drugs*** 79:63-74, 2019
39 Suenaga M, Cao S, Zhang W, Yang D, Ning Y, Okazaki S, Berger MD, Miyamoto Y, Schirripa M, Soni S, Barzi A, Yamaguchi T, Lenz HJ: Genetic variants in CCL5 and CCR5 genes and serum VEGF-A levels predict efficacy of bevacizumab in metastatic colorectal cancer patients. ***Int J Cancer*** 144:2567-2577, 2019
40 Kalikawe R, Baba Y, Nomoto D, Okadome K, Miyake K, Eto K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Ishimoto T, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, Baba H: Lysyl oxidase impacts disease outcomes and correlates with global DNA hypomethylation in esophageal cancer. ***Cancer Sci*** 110:3727-3737, 2019
41 Kiyozumi Y, Baba Y, Okadome K, Yagi T, Ogata Y, Eto K, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Iwatsuki M, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, Baba H: Indoleamine 2, 3-dioxygenase 1 promoter hypomethylation is associated with poor prognosis in patients with esophageal cancer. ***Cancer Sci*** 110:1863-1871, 2019
42 Miyata T, Yamashita Y, Yoshizumi T, Shiraishi M, Ohta M, Eguchi S, Aishima S, Fujioka H, Baba H: CXCL12 expression in intrahepatic cholangiocarcinoma is associated with metastasis and poor prognosis. ***Cancer Sci*** 110:3197-3203, 2019
43 Sawayama H, Ogata Y, Ishimoto T, Mima K, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Baba Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H: Glucose transporter 1 regulates the proliferation and cisplatin sensitivity of esophageal cancer. ***Cancer Sci*** 110:1705-1714, 2019
44 Tsukamoto M, Imai K, Ishimoto T, Komohara Y, Yamashita Y, Nakagawa S, Umezaki N, Yamao T, Kitano Y, Miyata T, Arima K, Okabe H, Baba Y, Chikamoto A, Ishiko T, Hirota M, Baba H: PD-L1 expression enhancement by infiltrating macrophage-derived tumor necrosis factor-alpha leads to poor pancreatic cancer prognosis. ***Cancer Sci*** 110:310-320, 2019
45 Umezaki N, Nakagawa S, Yamashita Y, Kitano Y, Arima K, Miyata T, Hiyoshi Y, Okabe H, Nitta H, Hayashi H, Imai K, Chikamoto A, Baba H: Lysyl oxidase induces epithelial-mesenchymal transition and predicts intrahepatic metastasis of hepatocellular carcinoma. ***Cancer Sci*** 110:2033-2043, 2019
46 Miyamoto Y, Hiyoshi Y, Daitoku N, Okadome K, Sakamoto Y, Yamashita K, Kuroda D, Sawayama H, Iwatsuki M, Baba Y, Yoshida N, Baba H: Naples Prognostic Score Is a Useful Prognostic Marker in Patients With Metastatic Colorectal Cancer. ***Dis Colon Rectum*** 62:1485-1493, 2019
47 Giganti F, Tang L, Baba H: Gastric cancer and imaging biomarkers: Part 1 - a critical review of DW-MRI and CE-MDCT findings. ***Eur Radiol*** 29:1743-1753, 2019
48 Mima K, Baba H: The gut microbiome, antitumor immunity, and liver cancer. ***Hepatobil Surg Nutr*** 8:67-68, 2019
49 Jiang A, Okabe H, Popovic B, Preziosi ME, Pradhan-Sundd T, Poddar M, Singh S, Bell A, England SG, Nagarajan S, Monga SP: Loss of Wnt Secretion by Macrophages Promotes Hepatobiliary Injury after Administration of 3,5-Diethoxycarbonyl-1, 4-Dihydrocollidine Diet. ***Am J Pathol*** 189:590-603, 2019
50 Nitta H, Allard MA, Sebagh M, Ciacio O, Pittau G, Vibert E, Sa Cunha A, Cherqui D, Castaing D, Bismuth H, Guettier C, Lewin M, Samuel D, Baba H, Adam R: Prognostic Value and Prediction of Extratumoral Microvascular Invasion for Hepatocellular Carcinoma. ***Ann Surg Oncol*** 26:2568-2576, 2019
51 Takahashi K, Watanabe M, Kozuki R, Toihata T, Okamura A, Imamura Y, Mine S, Ishizuka N: Prognostic Significance of Skeletal Muscle Loss During Early Postoperative Period in Elderly Patients with Esophageal Cancer. ***Ann Surg Oncol*** 26:3727-3735, 2019
52 Yamao T, Yamashita Y, Yamamura K, Nakao Y, Tsukamoto M, Nakagawa S, Okabe H, Hayashi H, Imai K, Baba H: Cellular Senescence, Represented by Expression of Caveolin-1, in Cancer-Associated Fibroblasts Promotes Tumor Invasion in Pancreatic Cancer. ***Ann Surg Oncol*** 26:1552-1559, 2019
53 Yoshida N, Morito A, Nagai Y, Baba Y, Miyamoto Y, Iwagami S, Iwatsuki M, Hiyoshi Y, Eto K, Ishimoto T, Kiyozumi Y, Yagi T, Nomoto D, Akiyama T, Toihata T, Imamura Y, Watanabe M, Baba H: Clinical Importance of Sputum in the Respiratory Tract as a Predictive Marker of Postoperative Morbidity After Esophagectomy for Esophageal Cancer. ***Ann Surg Oncol*** 26:2580-2586, 2019
54 Yoshida N, Nagai Y, Baba Y, Miyamoto Y, Iwagami S, Iwatsuki M, Hiyoshi Y, Eto K, Ishimoto T, Kiyozumi Y, Nomoto D, Akiyama T, Imamura Y, Watanabe M, Baba H: Effect of Resection of the Thoracic Duct and Surrounding Lymph Nodes on Short- and Long-Term and Nutritional Outcomes After Esophagectomy for Esophageal Cancer. ***Ann Surg Oncol*** 26:1893-1900, 2019
55 Kuramoto K, Beppu T, Irie K, Kinoshita K, Sato N, Akahoshi S, Yoshida Y, Yuki H, Hamada Y: Hepatobiliary and Pancreatic: Intra-ductal biliary schwannoma. ***J Gastroenterol Hepatol*** 34:1674, 2019
56 Imai K, Yamashita Y, Nakao Y, Uemura N, Kitamura F, Miyata T, Nakagawa S, Okabe H, Hayashi H, Chikamoto A, Ishiko T, Baba H: Is disease progression a contraindication for the strategy of portal vein embolization followed by hepatectomy for hepatocellular carcinoma? ***Surgery*** 165:696-702, 2019
57 Nitta H, Allard MA, Sebagh M, Karam V, Ciacio O, Pittau G, Vibert E, Sa Cunha A, Cherqui D, Castaing D, Bismuth H, Guettier C, Samuel D, Baba H, Adam R: Predictive model for microvascular invasion of hepatocellular carcinoma among candidates for either hepatic resection or liver transplantation. ***Surgery*** 165:1168-1175, 2019
58 Hayami M, Watanabe M, Mine S, Imamura Y, Okamura A, Yuda M, Yamashita K, Toihata T, Shoji Y, Ishizuka N: Lateral thermal spread induced by energy devices: a porcine model to evaluate the influence on the recurrent laryngeal nerve. ***Surg Endosc*** 33:4153-4163, 2019
59 Yamashita Y, Imai K, Kaida T, Yamao T, Tsukamoto M, Nakagawa S, Okabe H, Chikamoto A, Ishiko T, Yoshizumi T, Ikeda T, Maehara Y, Baba H: Multimodal radiofrequency ablation versus laparoscopic hepatic resection for the treatment of primary hepatocellular carcinoma within Milan criteria in severely cirrhotic patients: long-term favorable outcomes over 10 years. ***Surg Endosc*** 33:46-51, 2019

60 Aoyama T, Yoshikawa T, Ida S, Cho H, Sakamaki K, Ito Y, Fujitani K, Takiguchi N, Kawashima Y, Nishikawa K, Oshima T, Nunobe S, Hiki N: Effects of perioperative Eicosapentaenoic acid-enriched oral nutritional supplement on lean body mass after total gastrectomy for gastric cancer. ***J Cancer*** 10:1070-1076, 2019

61 Imai K, Yamashita Y, Miyamoto Y, Nakao Y, Yusa T, Itoyama R, Nakagawa S, Okabe H, Hiyoshi Y, Nitta H, Chikamoto A, Baba H: Implication of primary tumor location for the indication of preoperative chemotherapy in patients with colorectal liver metastases. ***HPB (Oxford)*** 21:405-412, 2019

62 Margonis GA, Amini N, Andreatos N, Sasaki K, McVey J, Mirza MB, Warner S, Buettner S, Barbon C, Wang J, Pulvirenti A, Angelou A, Kamphues C, Antoniou E, Pikoulis E, Pawlik TM, Kaczirek K, Poultsides G, Wagner D, Endo I, Imai K, Aucejo F, Kreis ME, Wolfgang CL, Weiss MJ: KRAS mutational status impacts pathologic response to pre-hepatectomy chemotherapy: a study from the International Genetic Consortium for Liver Metastases. ***HPB (Oxford)*** 21:1527-1534, 2019

63 Akagi J, Baba H: Hydrogen gas restores exhausted CD8+ T cells in patients with advanced colorectal cancer to improve prognosis. ***Oncol Rep*** 41:301-311, 2019

64 Imamura Y, Watanabe M, Toihata T, Takamatsu M, Kawachi H, Haraguchi I, Ogata Y, Yoshida N, Saeki H, Oki E, Taguchi K, Yamamoto M, Morita M, Mine S, Hiki N, Baba H, Sano T: Recent Incidence Trend of Surgically Resected Esophagogastric Junction Adenocarcinoma and Microsatellite Instability Status in Japanese Patients. ***Digestion*** 99:6-13, 2019

65 Miyamoto Y, Hiyoshi Y, Akiyama T, Kiyozumi Y, Eto K, Yohei N, Iwagami S, Baba Y, Yoshida N, Baba H: Low Skeletal Muscle Mass before Salvage-Line Chemotherapy Is a Poor Prognostic Factor in Patients with Refractory Metastatic Colorectal Cancer. ***Digestion*** 99:79-85, 2019

66 Hiyoshi Y, Miyamoto Y, Kato R, Sawayama H, Eto K, Nagai Y, Iwagami S, Baba Y, Yoshida N, Baba H: Laparoscopic sigmoidectomy and double-stapling technique anastomosis via needlescopic surgery - a video vignette. ***Colorectal Dis*** 21:122-123, 2019

67 Tokunaga R, Nakagawa S, Miyamoto Y, Ohuchi M, Izumi D, Kosumi K, Taki K, Higashi T, Miyata T, Yoshida N, Baba H: The impact of preoperative anaemia and anaemic subtype on patient outcome in colorectal cancer. ***Colorectal Dis*** 21:100-109, 2019

68 Gasser E, Braunwarth E, Riedmann M, Cardini B, Fadinger N, Presl J, Klieser E, Ellmerer P, Dupre A, Imai K, Malik H, Baba H, Ulmer H, Schneeberger S, Ofner D, Dinnewitzer A, Stattner S, Primavesi F: Primary tumour location affects survival after resection of colorectal liver metastases: A two-institutional cohort study with international validation, systematic meta-analysis and a clinical risk score. ***PLoS One*** 14:e0217411, 2019

69 Kitano Y, Yamashita Y, Saito Y, Nakagawa S, Okabe H, Imai K, Komohara Y, Miyamoto Y, Chikamoto A, Ishiko T, Baba H: Sarcopenia Affects Systemic and Local Immune System and Impacts Postoperative Outcome in Patients with Extrahepatic Cholangiocarcinoma. ***World J Surg*** 43:2271-2280, 2019

70 Okamura A, Watanabe M, Kozuki R, Toihata T, Takahashi K, Imamura Y, Mine S: Significance of Intramural Metastasis in Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma: An Indicator of Aggressive Cancer Behavior. ***World J Surg*** 43:1997-2005, 2019

71 Okamura A, Watanabe M: Author's Reply: Significance of Intramural Metastasis in Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma: An Indicator of Aggressive Cancer Behavior. ***World J Surg*** 43:2649-2650, 2019

72 Yamashita Y, Hayashi H, Imai K, Okabe H, Nakagawa S, Kitamura F, Uemura N, Nakao Y, Yusa T, Itoyama R, Yamao T, Umesaki N, Miyata T, Chikamoto A, Shimokawa M, Baba H: Perioperative Allogeneic Blood Transfusion Does not Influence Patient Survival After Hepatectomy for Hepatocellular Carcinoma: A Propensity Score Matching Analysis. ***World J Surg*** 43:2894-2901, 2019

73 Kumai Y, Miyamoto T, Matsubara K, Samejima Y, Yoshida N, Baba H, Orita Y: Determining the Efficacy of the Chin-Down Maneuver Following Esophagectomy With Fiberoptic Endoscopic Evaluation of Swallowing. ***Arch Phys Med Rehabil*** 100:1076-1084, 2019

74 Iimaa T, Hirayama T, Shirakigawa N, Imai D, Yamao T, Yamashita Y, Baba H, Ijima H: Antibacterial-Agent-Immobilized Gelatin Hydrogel as a 3D Scaffold for Natural and Bioengineered Tissues. ***Gels*** 5:32, 2019

75 Hiyoshi Y, Miyamoto Y, Kiyozumi Y, Sawayama H, Eto K, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Baba Y, Yoshida N, Kawanaka K, Yamashita Y, Baba H: CT-guided percutaneous radiofrequency ablation for lung metastases from colorectal cancer. ***Int J Clin Oncol*** 24:288-295, 2019

76 Maehara Y, Soejima Y, Yoshizumi T, Kawahara N, Oki E, Saeki H, Akahoshi T, Ikegami T, Yamashita Y, Furuyama T, Sugimachi K, Harada N, Tagawa T, Harimoto N, Itoh S, Sonoda H, Ando K, Nakashima Y, Nagao Y, Yamashita N, Kasagi Y, Yukaya T, Kurihara T, Tsutsumi R, Takamori S, Sasaki S, Ikeda T, Yonemitsu Y, Fukuhara T, Kitao H, Iimori M, Kataoka Y, Wakasa T, Suzuki M, Teraishi K, Yoshida Y, Mori M: The evolution of surgical treatment for gastrointestinal cancers. ***Int J Clin Oncol*** 24:1333-1349, 2019

77 Sasaki S, Oki E, Saeki H, Shimose T, Sakamoto S, Hu Q, Kudo K, Tsuda Y, Nakashima Y, Ando K, Akagi Y, Kakeji Y, Baba H, Maehara Y: Skeletal muscle loss during systemic chemotherapy for colorectal cancer indicates treatment response: a pooled analysis of a multicenter clinical trial (KSCC 1605-A). ***Int J Clin Oncol*** 24:1204-1213, 2019

78 Taguchi N, Oda S, Yokota Y, Yamamura S, Imuta M, Tsuchigame T, Nagayama Y, Kidoh M, Nakaura T, Shiraishi S, Funama Y, Shinriki S, Miyamoto Y, Baba H, Yamashita Y: CT texture analysis for the prediction of KRAS mutation status in colorectal cancer via a machine learning approach. ***Eur J Radiol*** 118:38-43, 2019

79 Kurahara H, Shinchi H, Ohtsuka T, Miyasaka Y, Matsunaga T, Noshiro H, Adachi T, Eguchi S, Imamura N, Nanashima A, Sakamoto K, Nagano H, Ohta M, Inomata M, Chikamoto A, Baba H, Watanabe Y, Nishihara K, Yasunaga M, Okuda K, Natsugoe S, Nakamura M: Significance of neoadjuvant therapy for borderline resectable pancreatic cancer: a multicenter retrospective study. ***Langenbecks Arch Surg*** 404:167-174, 2019

80 Okamura A, Yamashita K, Kozuki R, Takahashi K, Toihata T, Imamura Y, Mine S, Watanabe M: Inflammatory response and recurrence after minimally invasive esophagectomy. ***Langenbecks Arch Surg*** 404:761-769, 2019

81 Mine S, Watanabe M, Kumagai K, Okamura A, Yuda M, Hayami M, Yamashita K, Imamura Y, Ishizuka N: Comparison of mediastinal lymph node metastases from adenocarcinoma of the esophagogastric junction versus lower esophageal squamous cell carcinoma with involvement of the esophagogastric junction. ***Dis Esophagus*** 32:doz002, 2019

82 Mine S, Watanabe M: Reply to 'Is there really no difference of mediastinal lymph node metastasis pattern between esophageal adenocarcinoma and squamous cell carcinoma?'. ***Dis Esophagus*** 32:doz044, 2019

83 Okabe H, Ohsaki T, Ogawa K, Ozaki N, Hayashi H, Akahoshi S, Ikuta Y, Ogata K, Baba H, Takamori H: Frailty predicts severe postoperative complications after elective colorectal surgery. ***Am J Surg*** 217:677-681, 2019

84 Ishikawa S, Sawayama H, Matsuo A, Uchino R, Honda S, Hirota M, Baba H: Construction and validation of a simple scoring system for stage III colorectal cancer recurrence (SiS-SCORE). A case control study. ***Jpn J Clin Oncol*** 49:238-244, 2019

85 Kurogochi T, Honda M, Yamashita K, Hayami M, Okamura A, Imamura Y, Mine S, Watanabe M: Safety and efficacy of preoperative chemotherapy followed by esophagectomy versus upfront surgery for resectable esophageal squamous cell carcinoma. ***Surg Today*** 49:150-157, 2019

86 Matsumoto T, Okabe H, Yamashita Y, Yusa T, Itoyama R, Nakao Y, Yamao T, Umzaki N, Tsukamoto M, Kitano Y, Miyata T, Arima K, Nitta H, Hayashi H, Imai K, Chikamoto A, Baba H: Clinical role of fludeoxyglucose (18F) positron emission tomography/computed tomography ((18)F-FDG PET/CT) in patients with pancreatic neuroendocrine tumors. ***Surg Today*** 49:21-26, 2019

87 Poudel S, Hirano S, Kurashima Y, Stefanidis D, Akiyama H, Eguchi S, Fukui T, Hagiwara M, Hashimoto D, Hida K, Izaki T, Iwase H, Kawamoto S, Otomo Y, Nagai E, Saito M, Takami H, Takeda Y, Toi M, Yamaue H, Yoshida M, Yoshida S, Kodera Y: A snapshot of surgical resident training in Japan: results of a national-level needs assessment survey. ***Surg Today*** 49:870-876, 2019

88 Yamashita K, Iwatsuki M, Koga Y, Toihata T, Kiyozumi Y, Kuroda D, Eto K, Hiyoshi Y, Iwagami S, Baba Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H: Preservation of physiological passage through the remnant stomach prevents postoperative malnutrition after proximal gastrectomy with double tract reconstruction. ***Surg Today*** 49:748-754, 2019

89 Hirayama Y, Fujisaki J, Yoshimizu S, Horiuchi Y, Yoshio T, Ishiyama A, Hirasawa T, Imamura Y, Mine S, Watanabe M, Tsuchida T: Efficacy and safety of endoscopic resection for gastric tube cancer after surgical resection of esophageal squamous cell carcinoma. ***Esophagus*** 16:194-200, 2019
90 Takahashi K, Mine S, Kozuki R, Toihata T, Okamura A, Imamura Y, Watanabe M: Ivor-Lewis esophagectomy for patients with squamous cell carcinoma of the thoracic esophagus with a history of total pharyngolaryngectomy. ***Esophagus*** 16:382-385, 2019
91 Toh Y, Yamamoto H, Miyata H, Gotoh M, Watanabe M, Matsubara H, Kakeji Y, Seto Y: Significance of the board-certified surgeon systems and clinical practice guideline adherence to surgical treatment of esophageal cancer in Japan: a questionnaire survey of departments registered in the National Clinical Database. ***Esophagus*** 16:362-370, 2019
92 Yamashita K, Mine S, Toihata T, Fukudome I, Okamura A, Yuda M, Hayami M, Imamura Y, Watanabe M: The usefulness of three-dimensional video-assisted thoracoscopic esophagectomy in esophageal cancer patients. ***Esophagus*** 16:272-277, 2019
93 Iwatsuki M, Yoshida N, Baba H: Challenge for establishment of international benchmarks for complications associated with esophagectomy. ***J Thorac Dis*** 11:S1894-S1896, 2019
94 Yoshida N, Baba H: Risk factors for chylothorax after esophagectomy. ***J Thorac Dis*** 11:S196-S197, 2019
95 Hiyoshi Y, Miyamoto Y, Eto K, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Baba Y, Yoshida N, Baba H: Laparoscopic surgery for colorectal cancer with persistent descending mesocolon. ***World J Surg Oncol*** 17:190, 2019
96 Arima K, Nitta H, Beppu T, Nakagawa S, Okabe H, Imai K, Chikamoto A, Yamashita Y, Yamashita Y, Baba H: Impact of Repeated Hepatectomy on Liver Regeneration in Hepatocellular Carcinoma: A Propensity Score-based Analysis. ***Anticancer Res*** 39:965-970, 2019
97 Hashimoto D, Okawa T, Maruyama R, Matsumura F, Shibata Y, Kohrogi H: Anticoagulant Therapy for Disseminated Intravascular Coagulation After Gastrointestinal Surgery. ***Anticancer Res*** 39:25-31, 2019
98 Miyata T, Beppu T, Imamura YU, Hayashi H, Imai K, Chikamoto A, Yamashita Y, Fukubayashi K, Ishiko T, Baba H: A 12-year Recurrence-free Survival After Multidisciplinary Treatment for a Patient With Combined Hepatocellular-Cholangiocarcinoma. ***Anticancer Res*** 39:2139-2144, 2019
99 Nakao Y, Yamashita Y, Arima K, Miyata T, Itoyama R, Yusa T, Umezaki N, Yamao T, Nakagawa S, Okabe H, Imai K, Chikamoto A, Baba H: Clinical Usefulness of Perioperative C-reactive Protein/Albumin Ratio in Patients With Intrahepatic Cholangiocarcinoma: A Retrospective Single Institutional Study. ***Anticancer Res*** 39:2641-2646, 2019
100 Nomoto D, Yoshida N, Akiyama T, Kiyozumi Y, Eto K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Baba Y, Miyamoto Y, Baba H: Influence of Neoadjuvant Chemotherapy on Short-term Outcomes After Minimally Invasive Esophagectomy for Esophageal Cancer. ***Anticancer Res*** 39:471-475, 2019
101 Tanaka Y, Ueno T, Yoshida N, Akutsu Y, Takeuchi H, Baba H, Matsubara H, Kitagawa Y, Yoshida K: Is Oral Mucositis Occurring During Chemotherapy for Esophageal Cancer Patients Correctly Judged? EPOC Observational Cohort Study. ***Anticancer Res*** 39:4441-4448, 2019
102 Umezaki N, Hashimoto D, Yamashita Y, Nakagawa S, Nakao Y, Itoyama R, Yusa T, Yamao T, Okabe H, Imai K, Hayashi H, Chikamoto A, Baba H: Neuroendocrine Tumor of the Hilar Bile Duct. ***Anticancer Res*** 39:903-907, 2019
103 Yamao T, Yamashita Y, Imai K, Umezaki N, Tsukamoto M, Kitano Y, Arima K, Miyata T, Nakagawa S, Okabe H, Hayashi H, Chikamoto A, Ishiko T, Baba H: Clinical Significance of Preoperative Hepatocellular Carcinoma With High Lens culinaris Agglutinin-reactive Fraction of Alpha-Fetoprotein, But Low Alpha-Fetoprotein. ***Anticancer Res*** 39:883-889, 2019
104 Yamashita Y, Okabe H, Hayashi H, Imai K, Nakagawa S, Nakao Y, Yusa T, Itoyama R, Yama T, Umesaki N, Arima K, Miyata T, Chikamoto A, Baba H: Usefulness of 18-FDG PET/CT in Detecting Malignancy in Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the Pancreas. ***Anticancer Res*** 39:2493-2499, 2019
105 Kurashige J, Yokobori T, Mima K, Sawada G, Takahashi Y, Ueo H, Takano Y, Matsumura T, Uchi R, Eguchi H, Sudo T, Sugimachi K, Mori M, Baba H, Mimori K: Plastin3 is associated with epithelial-mesenchymal transition and poor prognosis in gastric cancer. ***Oncol Lett*** 17:2393-2399, 2019
106 Sueta D, Tabata N, Ikeda S, Saito Y, Ozaki K, Sakata K, Matsumura T, Yamamoto-Ibusuki M, Murakami Y, Jodai T, Fukushima S, Yoshida N, Kamba T, Araki E, Iwase H, Fujii K, Ihn H, Kobayashi Y, Minamino T, Yamagishi M, Maemura K, Baba H, Matsui K, Tsujita K: Differential predictive factors for cardiovascular events in patients with or without cancer history. ***Medicine (Baltimore)*** 98:e17602, 2019
107 Hara Y, Miyamoto Y, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Baba Y, Yoshida N, Baba H: Severe Encephalopathy, Lactic Acidosis and Hyperammonaemia With FOLFIRI Plus Aflibercept After Two-stage Hepatectomy: A Case Report. ***In Vivo*** 33:563-565, 2019
108 Yamashita Y, Imai K, Nakagawa S, Nakao Y, Yusa T, Itoyama R, Okabe H, Hayashi H, Chikamoto A, Baba H: Ultrasonography-guided Suction Thrombectomy for an Isolated Portal Vein Thrombus in Liver Surgery. ***In Vivo*** 33:209-212, 2019
109 Sakamoto H, Shirakigawa N, Bual RP, Fukuda Y, Nakamura S, Miyata T, Yamao T, Yamashita Y, Baba H, Ijima H: A novel evaluation system for whole-organ-engineered liver graft by ex vivo application to a highly reproducible hepatic failure rat model. ***J Artif Organs*** 22:222-229, 2019
110 Nakao Y, Okino T, Yamashita Y, Taki K, Nakagawa S, Matsumoto K, Goto M, Baba H: Case report of aggressive treatments for large-cell neuroendocrine carcinoma of the esophagus. ***Int J Surg Case Rep*** 60:291-295, 2019
111 Sonoda A, Sawayama H, Miyanari N, Mizumoto T, Kubota T, Baba H: Giant myxoid liposarcoma of the stomach: Report of a case. ***Int J Surg Case Rep*** 60:234-238, 2019
112 Harada M, Takahashi T, Haga Y, Nishikawa T: Comparative study on quick sequential organ failure assessment, systemic inflammatory response syndrome and the shock index in prehospital emergency patients: single-site retrospective study. ***Acute Med Surg*** 6:131-137, 2019
113 Adam R, Kitano Y: Multidisciplinary approach of liver metastases from colorectal cancer. ***Ann Gastroenterol Surg*** 3:50-56, 2019
114 Baba H: National Clinical Database (NCD) in Japan: Clinical and social significance. ***Ann Gastroenterol Surg*** 3:462-463, 2019
115 Haga Y, Miyata H, Tsuburaya A, Gotoh M, Yoshida K, Konno H, Seto Y, Fujiwara Y, Baba H: Development and validation of grade-based prediction models for postoperative morbidity in gastric cancer resection using a Japanese web-based nationwide registry. ***Ann Gastroenterol Surg*** 3:544-551, 2019
116 Imai K, Adam R, Baba H: How to increase the resectability of initially unresectable colorectal liver metastases: A surgical perspective. ***Ann Gastroenterol Surg*** 3:476-486, 2019
117 Iwatsuki M, Harada K, Iwagami S, Eto K, Ishimoto T, Baba Y, Yoshida N, Ajani JA, Baba H: Neoadjuvant and adjuvant therapy for gastrointestinal stromal tumors. ***Ann Gastroenterol Surg*** 3:43-49, 2019
118 Hashimoto D, Okawa T, Matsumura F: Training in the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery board certification system for expert surgeons during 225 consecutive pancreaticoduodenectomies. ***Ann Hepatobiliary Pancreat Surg*** 23:145-154, 2019
119 Kinoshita S, Yamashita K, Iwatsuki M, Sato H, Matsumoto C, Matsumoto T, Shiraishi Y, Yoshida N, Baba H: Disseminated carcinomatosis of the bone marrow from gastric cancer during pregnancy. ***Clin J Gastroenterol*** 12:447-452, 2019
120 Ozaki K, Hayashi H, Ikuta Y, Masuda T, Akaboshi S, Ogata K, Matumoto K, Ogawa K, Kamio T, Baba H, Takamori H: Conversion surgery for initially unresectable pancreatic ductal adenocarcinoma with synchronous liver metastasis after treatment with FOLFIRINOX. ***Clin J Gastroenterol*** 12:603-608, 2019
121 Harada K, Zhao M, Baba H, Ajani JA: Endoscopic resection for esophageal or gastroesophageal junction adenocarcinoma. ***Dig Med Res*** 2, 2019
122 Okabe H, Hayashi H, Higashi T, Nitta H, Ikuta Y, Yusa T, Takeyama H, Ogawa K, Ozaki N, Akahoshi S, Ogata K, Osaki T, Baba H, Takamori H: Frailty Predicts Severe Postoperative Complication after Elective Hepatic Resection. ***Gastrointest Tumors*** 6:28-35, 2019
123 Nakao Y, Okabe H, Yamashita Y, Itoyama R, Yusa T, Kitano Y, Arima K, Miyata T, Nakagawa S, Imai K, Chikamoto A, Baba H: A case of acute perforated cholecystitis with intracystic tumor thrombus of hepatocellular carcinoma. ***Int Cancer Conf J*** 8:43-45, 2019

124 Yokoyama S, Baba H: Is primary tumor location an independent prognostic factor in stage IV colon cancer? ***J Anus Rectum Colon*** 3:196-202, 2019

125 Takeya H, Ohnishi K, Shiota T, Saito Y, Fujiwara Y, Yagi T, Kiyozumi Y, Baba Y, Yoshida N, Asano K, Tanaka M, Baba H, Komohara Y: Maf expression in human macrophages and lymph node sinus macrophages in patients with esophageal cancer. ***J Clin Exp Hematop*** 59:112-118, 2019

126 Kuramoto K, Nakahara O, Maeda Y, Kumamoto S, Tsuji A, Hayashida S, Oya Y, Shibata H, Iizaka M, Tomiyasu S, Hayashi H, Inomata Y, Baba H: Single incision laparoscopic surgery (SILS) for Meckel's diverticulum. ***J Surg Case Rep*** 2019:rjz210, 2019

127 Sawayama H, Baba H: Glucose transporter 1 and prognosis in cancer. Molecular Nutrition: ***Carbohydrates*** 11:191-207, 2019

128 Itoyama R, Yamashita Y, Nakao Y, Yusa T, Umezaki N, Yamao T, Nakagawa S, Okabe H, Imai K, Hayashi H, Hashimoto D, Chikamoto A, Baba H: Carcinosarcoma of Vater's papilla: case report of a rare neoplasm and review of the literature. ***Surg Case Rep*** 5:13, 2019

129 Morinaga T, Imai K, Morita K, Yamamoto K, Ikeshima S, Horino K, Shimada S, Baba H: A rare anastomosis between the root of common hepatic artery and proper hepatic artery: implications for pancreaticoduodenectomy. ***Surg Case Rep*** 5:180, 2019

130 Yumoto S, Baba Y, Nomoto D, Oozono K, Eto K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Mikami Y, Baba H: Thyroid metastasis from esophageal adenocarcinoma: a case report and literature review. ***Surg Case Rep*** 5:137, 2019

131 Kinoshita K, Beppu T, Sato N, Akahoshi S, Yuki H, Yoshida Y: Preoperative 1-week diet can markedly decrease blood loss during hepatectomy. ***Transl Gastroenterol Hepatol*** 4:20, 2019

132 Harada K, Hwang H, Wang X, Abdelhakeem A, Iwatsuki M, Blum Murphy MA, Maru DM, Weston B, Lee JH, Rogers JE, Thomas I, Shanbhag N, Zhao M, Bhutani MS, Nguyen QN, Swisher SG, Ikoma N, Badgwell BD, Hofstetter WL, Ajani JA: Frequency and Implications of Paratracheal Lymph Node Metastases in Resectable Esophageal or Gastroesophageal Junction Adenocarcinoma. ***Ann Surg*** (DOI: 10.1097/SLA. 0000000000003383), 2019

133 Harada K, Wu CC, Wang X, Mizrak Kaya D, Amlashi FG, Iwatsuki M, Blum Murphy MA, Maru DM, Weston B, Lee JH, Rogers JE, Thomas I, Shanbhag N, Bhutani MS, Hofstetter WL, Nguyen QN, Ajani JA: Total Lesion Glycolysis Assessment Identifies a Patient Fraction With a High Cure Rate Among Esophageal Adenocarcinoma Patients Treated With Definitive Chemoradiation. ***Ann Surg*** (DOI: 10.1097/SLA.0000000000003228), 2019

134 Kosumi K, Baba Y, Okadome K, Yagi T, Kiyozumi Y, Yoshida N, Watanabe M, Baba H: Tumor Long-interspersed Nucleotide Element-1 Methylation Level and Immune Response to Esophageal Cancer. ***Ann Surg*** (DOI: 10.1097/SLA.0000000000003264), 2019

135 Margonis GA, Amini N, Buettner S, Kim Y, Wang J, Andreatos N, Wagner D, Sasaki K, Beer A, Kamphues C, Morioka D, Loes IM, Imai K, He J, Pawlik TM, Kaczirek K, Poultsides G, Lonning PE, Burkhart R, Endo I, Baba H, Mischinger HJ, Aucejo FN, Kreis ME, Wolfgang CL, Weiss MJ: The Prognostic Impact of Primary Tumor Site Differs According to the KRAS Mutational Status: A Study By the International Genetic Consortium for Colorectal Liver Metastasis. ***Ann Surg*** (DOI: 10.1097/SLA.0000000000003504), 2019

136 Shimura T, Toden S, Kandimalla R, Toiyama Y, Okugawa Y, Kanda M, Baba H, Kodera Y, Kusunoki M, Goel A: Genomewide Expression Profiling Identifies a Novel miRNA-Based Signature for the Detection of Peritoneal Metastasis in Patients With Gastric Cancer. ***Ann Surg*** (DOI: 10.1097/SLA.0000000000003647), 2019

137 Yoshida N, Yamamoto H, Baba H, Miyata H, Watanabe M, Toh Y, Matsubara H, Kakeji Y, Seto Y: Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database. ***Ann Surg*** (DOI: 10.1097/SLA.0000000000003222), 2019

138 Yuda M, Yamashita K, Okamura A, Hayami M, Fukudome I, Toihata T, Imamura Y, Mine S, Ishizuka N, Watanabe M: Influence of Preoperative Oropharyngeal Microflora on the Occurrence of Postoperative Pneumonia and Survival in Patients Undergoing Esophagectomy for Esophageal Cancer. ***Ann Surg*** (DOI: 10.1097/SLA.0000000000003287), 2019

139 Takahashi K, Okamura A, Amada E, Otake R, Kozuki R, Toihata T, Imamura Y, Watanabe M: Esophagectomy for Esophageal Cancer in a Patient with Left Pulmonary Artery Sling. ***Ann Surg Oncol*** (DOI: 10.1245/s10434-10019-08125-w), 2019

140 Nakada S, Allard MA, Lewin M, Awad S, Dahbi N, Nitta H, Cunha AS, Castaing D, Vibert E, Cherqui D, Miyazaki M, Ohtsuka M, Adam R: Ischemic Cholangiopathy Following Transcatheter Arterial Chemoembolization for Recurrent Hepatocellular Carcinoma After Hepatectomy: an Underestimated and Devastating Complication. ***J Gastrointest Surg*** (DOI: 10.1007/s11605-019-04409-4), 2019

141 Nitta H, Kitano Y, Miyata T, Nakagawa S, Mima K, Okabe H, Hayashi H, Imai K, Yamashita Y, Chikamoto A, Beppu T, Baba H: Validation of Functional Assessment for Liver Resection Considering Venous Occlusive Area after Extended Hepatectomy. ***J Gastrointest Surg*** (DOI : 10.1007/s11605-11019-04234-11609), 2019

142 Elmezayen HA, Okabe H, Baba Y, Yusa T, Itoyama R, Nakao Y, Yamao T, Umzaki N, Tsukamoto M, Kitano Y, Miyata T, Arima K, Hayashi H, Imai K, Chikamoto A, Yamashita Y, Baba H: Clinical role of serum programmed death ligand 1 in patients with hepatocellular carcinoma: Where does it come from? ***Surg Today*** (DOI: 10.1007/s00595-019-01920-8), 2019

143 Sakamoto Y, Miyamoto Y, Tokunaga R, Akiyama T, Daitoku N, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Baba Y, Iwagami S, Yoshida N, Baba H: Long-term outcomes of colorectal cancer surgery for elderly patients: a propensity score-matched analysis. ***Surg Today*** (DOI: 10.1007/s00595-00019-01934-00592), 2019

144 Mima K, Miyanari N, Itoyama R, Nakao Y, Kato R, Shigaki H, Kurashige J, Inoue M, Iwagami S, Mizumoto T, Kubota T, Baba H: Interval laparoscopic appendectomy after antibiotic therapy for appendiceal abscess in elderly patients. ***Asian J Endosc Surg*** (DOI: 10.1111/ases.12758), 2019

145 Yamao T, Imai K, Yamashita Y, Umezaki N, Tsukamoto M, Kitano Y, Arima K, Miyata T, Nakagawa S, Okabe H, Nitta H, Chikamoto A, Ishiko T, Baba H: Thoracoscopic surgery for hepatocellular carcinoma located in the hepatic dome: Technical aspect and oncological results. ***Asian J Endosc Surg*** (DOI: 10.1111/ases.12755), 2019

146 Wang R, Song S, Harada K, Han G, Pizzi MP, Zhao M, Tatlonghari G, Zhang S, Wang Y, Zhao S, Badgwell BD, Murphy MB, Shanbhag N, Estrella JS, Roy-Chowdhuri S, Abdelhakeem AAF, Peng G, Calin GA, Hanash S, Lazar AJ, Futreal A, Ajani JA, Wang L: Cell-of-Origin Analysis of Metastatic Gastric Cancer Uncovers the Origin of Inherent Intratumor Heterogeneity and a Fundamental Prognostic Signature. ***bioRxiv*** (DOI: 10.1101/725390:725390), 2019

147 Wang R, Song S, Harada K, Ghazanfari Amlashi F, Badgwell B, Pizzi MP, Xu Y, Zhao W, Dong X, Jin J, Wang Y, Scott A, Ma L, Huo L, Vicente D, Blum Murphy M, Shanbhag N, Tatlonghari G, Thomas I, Rogers J, Kobayashi M, Vykoukal J, Estrella JS, Roy-Chowdhuri S, Han G, Zhang S, Mao X, Song X, Zhang J, Gu J, Johnson RL, Calin GA, Peng G, Lee JS, Hanash SM, Futreal A, Wang Z, Wang L, Ajani JA: Multiplex profiling of peritoneal metastases from gastric adenocarcinoma identified novel targets and molecular subtypes that predict treatment response. ***Gut*** 69:18-31, 2020

148 Yoshino T, Cleary JM, Van Cutsem E, Mayer RJ, Ohtsu A, Shinozaki E, Falcone A, Yamazaki K, Nishina T, Garcia-Carbonero R, Komatsu Y, Baba H, Argiles G, Tsuji A, Sobrero A, Yamaguchi K, Peeters M, Muro K, Zaniboni A, Sugimoto N, Shimada Y, Tsuji Y, Hochster HS, Moriwaki T, Tran B, Esaki T, Hamada C, Tanase T, Benedetti F, Makris L, Yamashita F, Lenz HJ: Neutropenia and survival outcomes in metastatic colorectal cancer patients treated with trifluridine/tipiracil in the RECOURSE and J003 trials. ***Ann Oncol*** 31:88-95, 2020

149 Hidaka M, Eguchi S, Okuda K, Beppu T, Shirabe K, Kondo K, Takami Y, Ohta M, Shiraishi M, Ueno S, Nanashima A, Noritomi T, Kitahara K, Fujioka H: Impact of Anatomical Resection for Hepatocellular Carcinoma With Microportal Invasion (vp1): A Multi-institutional Study by the Kyushu Study Group of Liver Surgery. ***Ann Surg*** 271:339-346, 2020

150 Yoshida N, Kosumi K, Tokunaga R, Baba Y, Nagai Y, Miyamoto Y, Iwagami S, Iwatsuki M, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Eto K, Imamura Y, Watanabe M, Baba H: Clinical Importance of Mean Corpuscular Volume as a Prognostic Marker After Esophagectomy for Esophageal Cancer: A Retrospective Study. ***Ann Surg*** 271:494-501, 2020

151 Berger MD, Ning Y, Stintzing S, Heinemann V, Cao S, Zhang W, Yang D, Miyamoto Y, Suenaga M, Schirripa M, Hanna DL, Soni S, Puccini A, Tokunaga R, Naseem M, Battaglin F, Cremolini C, Falcone A, Loupakis F, Lenz HJ: A polymorphism within the R-spondin 2 gene predicts outcome in metastatic colorectal cancer patients treated with FOLFIRI/bevacizumab: data from FIRE-3 and TRIBE trials. ***Eur J Cancer*** 131:89-97, 2020

152 Kawazoe A, Yamaguchi K, Yasui H, Negoro Y, Azuma M, Amagai K, Hara H, Baba H, Tsuda M, Hosaka H, Kawakami H, Oshima T, Omuro Y, Machida N, Esaki T, Yoshida K, Nishina T, Komatsu Y, Han SR, Shiratori S, Shitara K: Safety and efficacy of pembrolizumab in combination with S-1 plus oxaliplatin as a first-line treatment in patients with advanced gastric/gastroesophageal junction cancer: Cohort 1 data from the KEYNOTE-659 phase IIb study. ***Eur J Cancer*** 129:97-106, 2020

153 Haruki K, Kosumi K, Hamada T, Twombly TS, Vayrynen JP, Kim SA, Masugi Y, Qian ZR, Mima K, Baba Y, da Silva A, Borowsky J, Arima K, Fujiyoshi K, Lau MC, Li P, Guo C, Chen Y, Song M, Nowak JA, Nishihara R, Yanaga K, Zhang X, Wu K, Bullman S, Garrett WS, Huttenhower C, Meyerhardt JA, Giannakis M, Chan AT, Fuchs CS, Ogino S: Association of autophagy status with amount of Fusobacterium nucleatum in colorectal cancer. ***J Pathol*** 250:397-408, 2020

154 Yamashita K, Iwatsuki M, Harada K, Eto K, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Nagai Y, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Komohara Y, Ajani JA, Baba H: Prognostic impacts of the combined positive score and the tumor proportion score for programmed death ligand-1 expression by double immunohistochemical staining in patients with advanced gastric cancer. ***Gastric Cancer*** 23:95-104, 2020

155 Matsusaka S, Hanna DL, Ning Y, Yang D, Cao S, Berger MD, Miyamoto Y, Suenaga M, Dan S, Mashima T, Seimiya H, Zhang W, Lenz HJ: Epidermal growth factor receptor mRNA expression: A potential molecular escape mechanism from regorafenib. ***Cancer Sci*** 111:441-450, 2020

156 Hiyoshi Y, Yamasaki A, Shono T, Miyamoto Y, Eto K, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Baba Y, Yoshida N, Baba H: Laparoscopic and Endoscopic Cooperative Surgery for Rectal GI Stromal Tumor. ***Dis Colon Rectum*** 63:116, 2020

157 Kitano Y, Baba H: ASO Author Reflections: Clinical Significance of PD-L1 Expression in Both Cancer and Stroma Cells in Cholangiocarcinoma Patients. ***Ann Surg Oncol*** 27:608-609, 2020

158 Kitano Y, Yamashita Y, Nakao Y, Itoyama R, Yusa T, Umezaki N, Tsukamoto M, Yamao T, Miyata T, Nakagawa S, Okabe H, Imai K, Chikamoto A, Ishiko T, Baba H: Clinical Significance of PD-L1 Expression in Both Cancer and Stroma Cells of Cholangiocarcinoma Patients. ***Ann Surg Oncol*** 27:599-607, 2020

159 Suzuki T, Okamura A, Watanabe M, Mine S, Imamura Y, Asari T, Osumi H, Nakayama I, Ichimura T, Ogura M, Ooki A, Takahari D, Yamaguchi K, Chin K: Neoadjuvant Chemoradiotherapy with Cisplatin Plus Fluorouracil for Borderline Resectable Esophageal Squamous Cell Carcinoma. ***Ann Surg Oncol*** 27:1510-1517, 2020

160 Nagai Y, Yoshida N, Baba H: Salvage treatment for superficial local failure after definitive chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma. ***Dig Endosc*** 32:146, 2020

161 Nagai Y, Yoshida N, Baba Y, Harada K, Imai K, Iwatsuki M, Karashima R, Koga Y, Nomoto D, Okadome K, Ishimoto T, Imamura Y, Watanabe M, Baba H: Clinical significance of evaluating endoscopic response to neoadjuvant chemotherapy in esophageal squamous cell carcinoma. ***Dig Endosc*** 32:39-48, 2020

162 Hayami M, Watanabe M, Mine S, Imamura Y, Okamura A, Yuda M, Yamashita K, Shoji Y, Toihata T, Kozuki R, Ishizuka N: Steam induced by the activation of energy devices under a wet condition may cause thermal injury. ***Surg Endosc*** 34:2295-2302, 2020

163 Sunami E, Kusumoto T, Ota M, Sakamoto Y, Yoshida K, Tomita N, Maeda A, Teshima J, Okabe M, Tanaka C, Yamauchi J, Itabashi M, Kotake K, Takahashi K, Baba H, Boku N, Aiba K, Ishiguro M, Morita S, Takenaka N, Okude R, Sugihara K: S-1 and Oxaliplatin Versus Tegafur-uracil and Leucovorin as Postoperative Adjuvant Chemotherapy in Patients With High-risk Stage III Colon Cancer (ACTS-CC 02): A Randomized, Open-label, Multicenter, Phase III Superiority Trial. ***Clin Colorectal Cancer*** 19:22-31 e26, 2020

164 Yuki S, Shinozaki K, Kashiwada T, Kusumoto T, Iwatsuki M, Satake H, Kobayashi K, Esaki T, Nakashima Y, Kawanaka H, Emi Y, Komatsu Y, Shimokawa M, Makiyama A, Saeki H, Oki E, Baba H, Mori M: Multicenter phase II study of SOX plus trastuzumab for patients with HER2(+) metastatic or recurrent gastric cancer: KSCC/HGCSG/CCOG/PerSeUS 1501B. ***Cancer Chemother Pharmacol*** 85:217-223, 2020

165 Mima K, Sakamoto Y, Kosumi K, Ogata Y, Miyake K, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Iwatsuki M, Baba Y, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Ogino S, Baba H: Mucosal cancer-associated microbes and anastomotic leakage after resection of colorectal carcinoma. ***Surg Oncol*** 32:63-68, 2020

166 Uchihara T, Yoshida N, Baba Y, Nakashima Y, Kimura Y, Saeki H, Takeno S, Sadanaga N, Ikebe M, Morita M, Toh Y, Nanashima A, Maehara Y, Baba H: Esophageal Position Affects Short-Term Outcomes After Minimally Invasive Esophagectomy: A Retrospective Multicenter Study. ***World J Surg*** 44:831-837, 2020

167 Fu L, Bu L, Yasuda T, Koiwa M, Akiyama T, Uchihara T, Baba H, Ishimoto T: Gastric Cancer Stem Cells: Current Insights into the Immune Microenvironment and Therapeutic Targets. ***Biomedicines*** 8:7, 2020

168 Daitoku N, Miyamoto Y, Sakamoto Y, Tokunaga R, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Yoshida N, Baba H: Prognostic significance of serum p53 antibody according to KRAS status in metastatic colorectal cancer patients. ***Int J Clin Oncol*** 25:651-659, 2020

169 Hiyoshi Y, Miyamoto Y, Kiyozumi Y, Eto K, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Baba Y, Yoshida N, Baba H: Risk factors and prognostic significance of lateral pelvic lymph node metastasis in advanced rectal cancer. ***Int J Clin Oncol*** 25:110-117, 2020

170 Tang L, Wang XJ, Baba H, Giganti F: Gastric cancer and image-derived quantitative parameters: Part 2-a critical review of DCE-MRI and (18)F-FDG PET/CT findings. ***Eur Radiol*** 30:247-260, 2020

171 Ohtsuka T, Nagakawa Y, Toyama H, Takeda Y, Maeda A, Kumamoto Y, Nakamura Y, Hashida K, Honda G, Fukuzawa K, Toyoda E, Tanabe M, Gotohda N, Matsumoto I, Ryu T, Uyama I, Kojima T, Unno M, Ichikawa D, Inoue Y, Matsukawa H, Sudo T, Takaori K, Yamaue H, Eguchi S, Tahara M, Shinzeki M, Eguchi H, Kurata M, Morimoto M, Hayashi H, Marubashi S, Inomata M, Kimura K, Amaya K, Sho M, Yoshida R, Murata A, Yoshitomi H, Hakamada K, Yasunaga M, Abe N, Hioki M, Tsuchiya M, Misawa T, Seyama Y, Noshiro H, Sakamoto E, Hasegawa K, Kawabata Y, Uchida Y, Kameyama S, Ko S, Takao T, Kitahara K, Nakahira S, Baba H, Watanabe M, Yamamoto M, Nakamura M: A multicenter prospective registration study on laparoscopic pancreatectomy in Japan: report on the assessment of 1,429 patients. ***J Hepatobiliary Pancreat Sci*** 27:47-55, 2020

172 Kitano Y, Yamashita Y, Nakagawa S, Okabe H, Imai K, Chikamoto A, Baba H: Effectiveness of surgery for recurrent cholangiocarcinoma: A single center experience and brief literature review. ***Am J Surg*** 219:175-180, 2020

173 Okabe H, Yamashita Y, Inoue R, Kinoshita S, Itoyama R, Yusa T, Nakao Y, Yamao T, Umezaki N, Tsukamoto M, Kitano Y, Miyata T, Arima K, Hayashi H, Imai K, Chikamoto A, Baba H: Postoperative nonalcoholic fatty liver disease is correlated with malnutrition leading to an unpreferable clinical course for pancreatic cancer patients undergoing pancreaticoduodenectomy. ***Surg Today*** 50:193-199, 2020

174 Tsukamoto M, Imai K, Yamashita Y, Kitano Y, Okabe H, Nakagawa S, Nitta H, Chikamoto A, Ishiko T, Baba H: Endoscopic hepatic resection and endoscopic radiofrequency ablation as initial treatments for hepatocellular carcinoma within the Milan criteria. ***Surg Today*** 50:402-412, 2020

175 Watanabe M, Otake R, Kozuki R, Toihata T, Takahashi K, Okamura A, Imamura Y: Recent progress in multidisciplinary treatment for patients with esophageal cancer. ***Surg Today*** 50:12-20, 2020

176 Motoyama S, Yamamoto H, Miyata H, Yano M, Yasuda T, Ohira M, Kajiyama Y, Toh Y, Watanabe M, Kakeji Y, Seto Y, Doki Y, Matsubara H: Impact of certification status of the institute and surgeon on short-term outcomes after surgery for thoracic esophageal cancer: evaluation using data on 16,752 patients from the National Clinical Database in Japan. ***Esophagus*** 17:41-49, 2020

177 Okamura A, Hayami M, Kozuki R, Takahashi K, Toihata T, Imamura Y, Mine S, Watanabe M: Salvage esophagectomy for initially unresectable locally advanced T4 esophageal squamous cell carcinoma. ***Esophagus*** 17:59-66, 2020

178 Watanabe M, Nakajima M, Nishikawa K, Kato H, Matsubara H: Thoracic endovascular aortic repair for esophageal cancer invading the thoracic aorta: a questionnaire survey study. ***Esophagus*** 17:74-80, 2020

179 Watanabe M, Sato M, Fukuchi M, Kato H, Matsubara H: Treatment of aortoesophageal fistula developed after thoracic endovascular aortic repair: a questionnaire survey study. ***Esophagus*** 17:81-86, 2020
180 Yamamura K, Yamashita Y, Yamao T, Kuroda D, Eto T, Kitano Y, Arima K, Miyata T, Okabe H, Nitta H, Hashimoto D, Baba H: Efficacy of Staging Laparoscopy for Pancreatic Cancer. ***Anticancer Res*** 40:1023-1027, 2020
181 Mima K, Kurashige J, Miyanari N, Morito A, Yumoto S, Matsumoto T, Kosumi K, Inoue M, Mizumoto T, Kubota T, Baba H: Advanced Age Is a Risk Factor for Recurrence After Resection in Stage II Colorectal Cancer. ***In Vivo*** 34:339-346, 2020
182 Matsubara K, Kumai Y, Miyamoto T, Samejima Y, Yoshida N, Baba H, Orita Y: The effect of a chin-down maneuver after esophagectomy on oropharyngeal swallowing pressure measured using high-resolution manometry. ***Auris Nasus Larynx*** 47:141-147, 2020
183 Tokunaga R, Nakagawa S, Miyamoto Y, Ohuchi M, Izumi D, Kosumi K, Taki K, Higashi T, Miyata T, Yoshida N, Baba H: The clinical impact of preoperative body composition differs between male and female colorectal cancer patients. ***Colorectal Dis*** 22:62-70, 2020
184 Akiyama T, Miyamoto Y, Nomoto D, Kiyozumi Y, Eto K, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Nagai Y, Iwagami S, Baba Y, Yoshida N, Baba H: Laparoscopic dissection for pelvic lymph node recurrence of thymic carcinoma: A case report. ***Asian J Endosc Surg*** 13:107-110, 2020
185 Matsumoto C, Imai K, Nakao Y, Itoyama R, Yusa T, Nakagawa S, Okabe H, Nitta H, Yamashita Y, Chikamoto A, Yatsuda J, Kamba T, Asato T, Mikami Y, Baba H: Renal metastasis from intrahepatic cholangiocarcinoma. ***Int Cancer Conf J*** 9:66-71, 2020
186 Yasuda T, Nakagawa S, Imai K, Okabe H, Hayashi H, Yamashita Y, Chikamoto A, Ozono K, Mikami Y, Baba H: A case of primary hepatic mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma incidentally found in the sustained virological response state of chronic hepatitis C: review of the literature of this rare disease. ***Int Cancer Conf J*** 9:59-65, 2020
187 Horino T, Hiyoshi Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H: Presacral lymph node recurrence of rectal intramucosal adenocarcinoma after endoscopic mucosal resection: a case report. ***Surg Case Rep*** 6:78, 2020
188 Yasuda T, Eto K, Yoshida N, Iwagami S, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Ishimoto T, Baba Y, Miyamoto Y, Shiota T, Mikami Y, Baba H: Multiple heterochronic gastrointestinal stromal tumors in the stomach detected 6 years after resection: a case report. ***Surg Case Rep*** 6:48, 2020
189 Yumoto S, Miyamoto Y, Akiyama T, Kiyozumi Y, Eto K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Baba Y, Iwagami S, Yoshida N, Baba H: Synchronous NET and colorectal cancer development: a case report. ***Surg Case Rep*** 6:10, 2020
190 Kandimalla R, Shimura T, Mallik S, Sonohara F, Tsai S, Evans D, Kim S, Baba H, Kodera Y, Von Hoff D, Chen X, Goel A: Identification of Serum miRNA Signature and Establishment of a Nomogram for Risk Stratification in Patients With Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. ***Ann Surg*** (DOI: 10.1097/SLA.0000000000003945), 2020
191 Kandimalla R, Tomihara H, Banwait JK, Yamamura K, Singh G, Baba H, Goel A: A 15-gene immune, stromal and proliferation gene signature that significantly associates with poor survival in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma. ***Clin Cancer Res*** (DOI: 10.1158/1078-0432.Ccr-19-4044), 2020
192 Hashimoto D, Mizuma M, Kumamaru H, Miyata H, Chikamoto A, Igarashi H, Itoi T, Egawa S, Kodama Y, Satoi S, Hamada S, Mizumoto K, Yamaue H, Yamamoto M, Kakeji Y, Seto Y, Baba H, Unno M, Shimosegawa T, Okazaki K: Risk model for severe postoperative complications after total pancreatectomy based on a nationwide clinical database. ***Br J Surg*** (DOI: 10.1002/bjs.11437), 2020
193 Haga Y, Hiki N, Kinoshita T, Ojima T, Nabeya Y, Kuwabara S, Seto Y, Yajima K, Takeuchi H, Yoshida K, Kodera Y, Fujiwara Y, Baba H: Treatment option of endoscopic stent insertion or gastrojejunostomy for gastric outlet obstruction due to gastric cancer: a propensity score-matched analysis. ***Gastric Cancer*** (DOI: 10.1007/s10120-020-01040-0), 2020
194 Nakamura K, Hatakeyama K, Furukawa K, Fujiya K, Kamiya S, Hikage M, Tanizawa Y, Bando E, Ohshima K, Urakami K, Machida N, Yasui H, Yamaguchi K, Terashima M: Prediction of S-1 adjuvant chemotherapy benefit in Stage II/III gastric cancer treatment based on comprehensive gene expression analysis. ***Gastric Cancer*** (DOI: 10.1007/s10120-020-01056-6), 2020
195 Haruki K, Kosumi K, Li P, Arima K, V?yrynen JP, Lau MC, Twombly TS, Hamada T, Glickman JN, Fujiyoshi K, Chen Y, Du C, Guo C, V?yrynen SA, Dias Costa A, Song M, Chan AT, Meyerhardt JA, Nishihara R, Fuchs CS, Liu L, Zhang X, Wu K, Giannakis M, Nowak JA, Ogino S: An integrated analysis of lymphocytic reaction, tumour molecular characteristics and patient survival in colorectal cancer. ***Br J Cancer*** (DOI: 10.1038/s41416-020-0780-3), 2020
196 Okadome K, Baba Y, Nomoto D, Yagi T, Kalikawe R, Harada K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Ishimoto T, Iwatsuki M, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, Komohara Y, Shono T, Sasaki Y, Baba H: Prognostic and clinical impact of PD-L2 and PD-L1 expression in a cohort of 437 oesophageal cancers. ***Br J Cancer*** (DOI: 10.1038/s41416-020-0811-0), 2020
197 Tokunaga R, Nakagawa S, Sakamoto Y, Nakamura K, Naseem M, Izumi D, Kosumi K, Taki K, Higashi T, Miyata T, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H, Lenz HJ: 12-chemokine signature, a predictor of tumor recurrence in colorectal cancer. ***Int J Cancer*** (DOI: 10.1002/ijc.32982), 2020
198 Arima K, Lau MC, Zhao M, Haruki K, Kosumi K, Mima K, Gu M, Vayrynen JP, Twombly TS, Baba Y, Fujiyoshi K, Kishikawa J, Guo C, Baba H, Richards WG, Chan AT, Nishihara R, Meyerhardt JA, Nowak JA, Giannakis M, Fuchs CS, Ogino S: Metabolic Profiling of Formalin-Fixed Paraffin-Embedded Tissues Discriminates Normal Colon from Colorectal Cancer. ***Mol Cancer Res*** (DOI: 10.1158/1541-7786.MCR-19-1091), 2020
199 Yoshida N, Baba H: ASO Author Reflections: Wives as Key Persons Positively Impact Prognosis for Male Patients Undergoing Esophagectomy for Esophageal Cancer: A Retrospective Study from a Single Japanese Institute. ***Ann Surg Oncol*** (DOI: 10.1245/s10434-020-08385-x), 2020
200 Hayashi H, Baba H: New era with the the genetic assessment for biliary tree cancers beyond the anatomical assessment alone. ***Ann Transl Med*** (DOI: 10.21037/atm.2020.03.206), 2020
201 Yoshida N, Adachi Y, Morinaga T, Eto K, Tokunaga R, Harada K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Ishimoto T, Baba Y, Iwagami S, Miyamoto Y, Imamura Y, Watanabe M, Baba H: Wives as Key Persons Positively Impacting Prognosis for Male Patients Undergoing Esophagectomy for Esophageal Cancer: A Retrospective Study from a Single Japanese Institute. ***Ann Surg Oncol*** (DOI: 10.1245/s10434-020-08378-w), 2020
202 Adam R, Kitano Y, Abdelrafee A, Allard M-A, Baba H: Debulking surgery for colorectal liver metastases: Foolish or chance? S***urg Oncol*** (DOI: 10.1016/j.suronc.2020.02.008), 2020
203 Ando K, Emi Y, Miyanari N, Tsuji A, Sakai K, Sawai T, Imamura H, Mori S, Tokunaga S, Oki E, Saeki H, Kakeji Y, Akagi Y, Baba H, Maehara Y, Mori M: Efficacy and feasibility of S-1 plus oxaliplatin (C-SOX) for treating patients with stage III colon cancer (KSCC1303): final analysis of 3-year disease-free survival. ***Int J Clin Oncol*** (DOI: 10.1007/s10147-020-01646-5), 2020
204 Hectors SJ, Lewis S, Besa C, King MJ, Said D, Putra J, Ward S, Higashi T, Thung S, Yao S, Laface I, Schwartz M, Gnjatic S, Merad M, Hoshida Y, Taouli B: MRI radiomics features predict immuno-oncological characteristics of hepatocellular carcinoma. ***Eur Radiol*** (DOI: 10.1007/s00330-020-06675-2), 2020
205 Sonoda A, Yamashita Y, Kondo T, Hayashi H, Imai K, Higashi T, Yamamura K, Yamao T, Hashimoto D, Baba H: Clinicopathological features and menin expression of pancreatic neuroendocrine neoplasm associated with multiple endocrine neoplasia type 1. ***J Hepatobiliary Pancreat Sci*** (DOI:10.1002/jhbp.739), 2020
206 Watanabe M, Otake R, Kozuki R, Toihata T, Takahashi K, Okamura A, Imamura Y: Correction to: Recent progress in multidisciplinary treatment for patients with esophageal cancer. ***Surg Today*** (DOI: 10.1007/s00595-00019-01952-00590), 2020
207 Shinriki S, Maeshiro M, Shimamura K, Kawashima J, Araki E, Ibusuki M, Yamamoto Y, Iwase H, Miyamoto Y, Baba H, Yamaguchi M, Matsui H: Evaluation of an amplicon-based custom gene panel for the diagnosis of hereditary tumors. ***Neoplasma*** (DOI: 10.4149/neo_2020_190918N925), 2020
208 Mima K, Miyanari N, Morito A, Yumoto S, Matsumoto T, Kosumi K, Inoue M, Mizumoto T, Kubota T, Baba H: Frailty is an independent risk factor for recurrence and mortality following curative resection of stage I–III colorectal cancer. ***Ann Gastroenterol Surg*** (DOI: 10.1002/ags3.12337), 2020

209 Imai K, Margonis GA, Wang J, Wolfgang CL, Baba H, Weiss MJ: Liver metastases from pancreatic ductal adenocarcinoma. ***J Pancreatol*** (DOI: 10.1097/jp9.0000000000000042), 2020
210 Nishiwada S, Sho M, Banwait JK, Yamamura K, Akahori T, Nakamura K, Baba H, Goel A: A microRNA Signature Identifies Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Patients at Risk for Lymph Node Metastases. ***Gastroenterology*** (DOI: 10.1053/j.gastro.2020.04.057), 2020
211 Baba H, Goel A et al.: Identification of an immune and stromal gene signature and establishment of a nomogram for risk-stratification in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma. ***Clin Cancer Res***, in press
212 Yamashita Y, Aishima S, Nakao Y, Yoshizumi T, Nagano H, Kuroki T, Takami Y, Ide T, Ohta M, Takatsuki M, Nanashima A, Ishii F, Kitahara K, Iino S, Beppu T, Baba H, Eguchi S: Clinicopathological characteristics of combined hepatocellular-cholangiocarcinoma from the viewpoint of patient prognosis after hepatic resection: High rate of early recurrence and its predictors. ***Hepatol Res***, in press
213 Miyamoto Y, Hiyoshi Y, Tokunaga R, Akiyama T, Daitoku N, Sakamoto Y, Yoshida N, Baba H: Postoperative complications are associated with poor survival outcome after curative resection for colorectal cancer: a propensity score analysis. ***J Surg Oncol***, in press
214 Kitamura F, Okabe H, Yamashita Y, Yumoto N, Uemura N, Miyata T, Nakagawa S, Hayashi H, Imai K, Chikamoto A, Baba H: A case of successful transarterial stenting for pseudoaneurysm after pancreaticoduodenectomy. ***JGH Open***, in press
215 Horino T, Baba Y, Nomoto D, Harada K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H: Port site recurrence of esophageal adenocarcinoma after minimally invasive esophagectomy: a case report. ***Surg Case Rep***, in press
216 Yamane T, Eto K, Morinaga T, Matsumura K, Yamashita K, Tokunaga R, Harada K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H: IgG4-related disease presenting as a submucosal tumor of the stomach resected with laparoscopic endoscopic cooperative surgery: A case report. ***Surg Case Rep***, in press

学位取得者

梅﨑 直紀
（平成23年卒）

■学位論文

Lysyl Oxidase Induces Epithelial-Mesenchymal Transition and Predicts Intrahepatic Metastasis of Hepatocellular Carcinoma. ***Cancer Sci* 2019**

■執筆論文

Neuroendocrine Tumor of the Hilar Bile Duct. ***Anticancer Res* 2019**

Cystic Gastric Metastasis from Pancreatic Cancer. ***Surg Case Rep* 2017**

■研究内容

肝細胞癌において、LOX高発現は上皮間葉転換を促進させ、初回肝切除後の早期再発・予後に寄与している

古閑 悠輝
（平成23年卒）

■学位論文

The Role of FBXW7, a Cell-Cycle Regulator, as a Predictive Marker of Recurrence of Gastrointestinal Stromal Tumors. ***Gastric Cancer* 2019**

■執筆論文

Complete Remission of Advanced Hepatocellular Carcinoma Following Transient Chemoembolization and Portal Vein Ligation. ***Surg Case Rep* 2018**

Predicting Poorly Differentiated Hepatocellular Carcinoma That Meets the Milan Criteria. ***Anticancer Res* 2017**

■研究内容

GISTの悪性度、予後、薬剤耐性に関与する因子の研究を行いました。その中で細胞周期調整因子FBXW7二着目視悪性度、予後に関与することを証明しました。

八木 泰佑
（平成23年卒）

■学位論文

Tumour-Associated Macrophages Are Associated with Poor Prognosis and Programmed Death Ligand 1 Expression in Oesophageal Cancer. ***Eur J Cancer* 2019**

■執筆論文

PD-L1 Expression, Tumor-Infiltrating Lymphocytes, and Clinical Outcome in Patients with Surgically Resected Esophageal Cancer. ***Ann Surg* 2019**

Surgery for Metastatic Tumors of the Pancreas. ***Surg Case Rep* 2017**

■研究内容

腫瘍関連マクロファージは食道癌の独立した予後不良因子であり、腫瘍細胞の浸潤能や遊走能、PD-L1発現に影響を与えることがわかった。

山尾 宣暢
（平成23年卒）

■学位論文

Cellular Senescence, Represented by Expression of Caveolin-1, in Cancer-Associated Fibroblasts Promotes Tumor Invasion in Pancreatic Cancer. invasion in pancreatic cancer ***Ann Surg Oncol* 2019**

■執筆論文

Thoracoscopic Surgery for Hepatocellular Carcinoma Located in the Hepatic Dome: Technical Aspect and Oncological Results. ***Asian J Endosc Surg* 2019**

Clinical Significance of Preoperative Hepatocellular Carcinoma with High Lens culinaris Agglutinin-reactive Fraction of Alpha-Fetoprotein, But Low Alpha-Fetoprotein. ***Anticancer Res* 2019**

Surgical Treatment Strategy for Hepatocellular Carcinoma in Patients with Impaired Liver Function: Hepatic Resection or Radiofrequency Ablation? ***HPB(Oxford)* 2018**

■研究内容

膵癌におけるCaveolin-1を標的つぃた癌関連線維芽細胞の老化は腫瘍浸潤を促進する。

Rebecca Kalikawe

■学位論文

Lysyl oxidase impacts disease outcomes and correlates with global DNA hypomethylation in esophageal cancer.hypomethylation in esophageal cancer. ***Cancer Sci.* 2019**

■研究内容

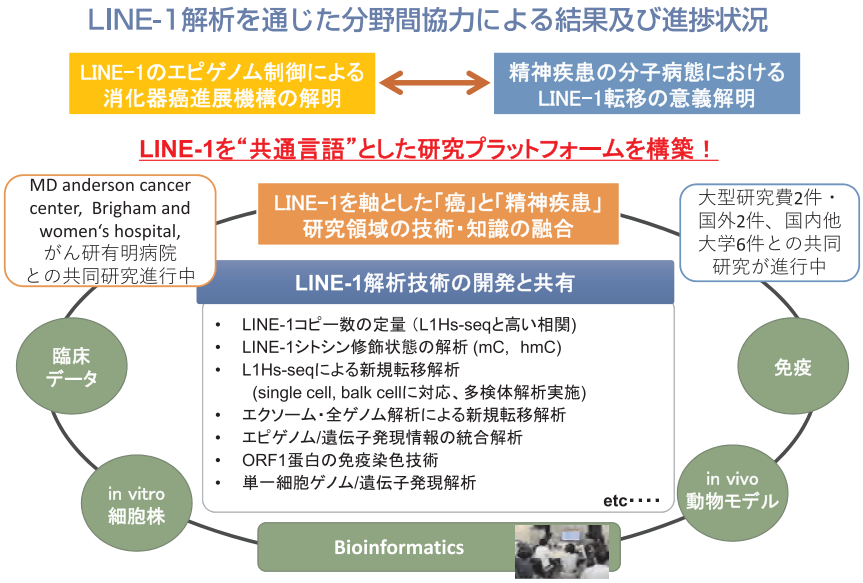
食道癌においてLOXの発現がエピジェネティックに制御されていることを証明しました。また、細胞株などを用いてLOX発現が食道癌の悪性度に寄与していることを示しました。

研究の紹介

共同研究

熊本大学「みらい研究推進事業」
LINE-1解析を起点とした癌と精神疾患の病態解明

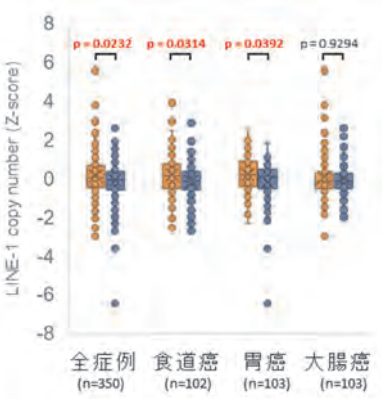
熊本大学では、平成29年度より拠点形成事業を見直し、「みらい研究推進事業」を開始しています。本事業は、既に高い評価を受けている研究者が中心となるグループの研究を支援することにより、次世代の本学を代表する世界トップレベルの研究領域として発展させるとともに、当該領域をけん引するリーダーの育成・輩出することを目的としています。平成29年度に、馬場秀夫教授が研究代表者として申請した「LINE-1解析を起点とした癌と精神疾患の病態解明」を含む8件が採択されました。この研究事業は、分子脳科学　岩本和也教授、免疫学　押海裕之教授との共同研究で、LINE-1解析を起点として癌と精神疾患の病態解明を目指すもので、精力的に研究を推進いたしましたが、令和元年度が最終年度となりました



2019.12~ Bioinformatics研究会開講, 学内における解析技術の向上を目指す

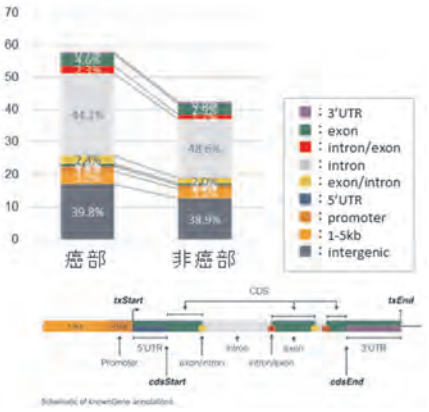
LINE-1とは、ヒトゲノムに約50万コピー存在する転移因子であり、ゲノム全体の約17％を占めています。その約100コピーが転移活性を保持するといわれており、70以上の遺伝性疾患に関与することが報告されています。今回の事業において、消化器癌大規模データバンクを用いてLINE-1増幅解析を行うことにより、LINE-1プロモーター領域の低メチル化とLINE-1増幅の関係を世界で初めて明らかにすることができました。さらに、岩本教授らが開発したL1Hsの体細胞新規挿入部位解析パイプライン（次世代シークエンサー）を活用することにより、消化器癌におけるLINE-1の癌特異的挿入部位を特定することができつつあり、世界を牽引する研究へと繋がっています。

上部消化管の癌部において LINE-1のコピー数は増加している



消化管切除検体の癌部及び非癌部におけるコピー数

新規挿入部位の同定及び 新規挿入遺伝子群の解析（L1Hs-seq）



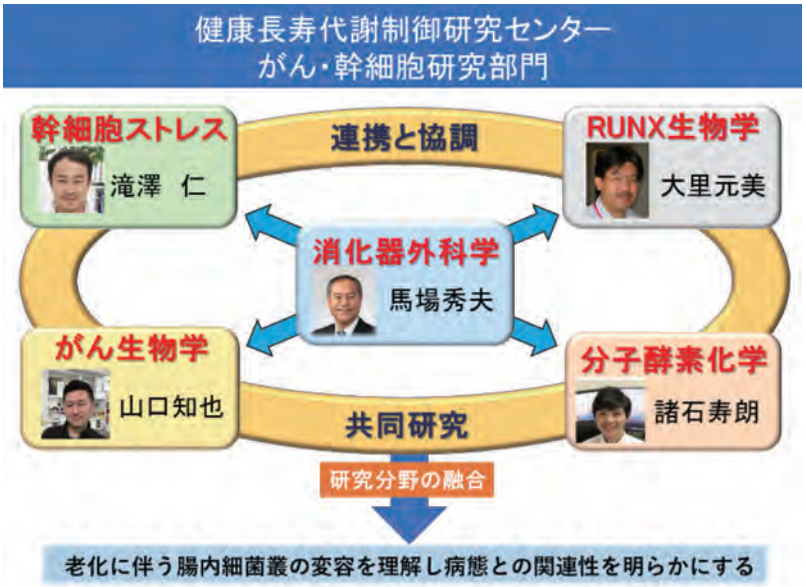
消化管切除検体の癌部及び非癌部における新規挿入部位の同定

令和2年3月に最終評価会が行われ、これまでの成果を発表した結果、“A”と評価されました。今後さらに、LINE-1を軸として　「癌」と「精神疾患」という異なる研究領域の技術・知見の融合をすることにより、消化器癌進展機構と精神疾患分子病態の解明、両疾患群での新たな治療戦略の確立・バイオマーカーの開発、LINE-1関連疾患に対する国際研究拠点の構築を目指して研究を推進していきます。

熊本大学「健康長寿代謝制御研究センターがん・幹細胞研究部門」

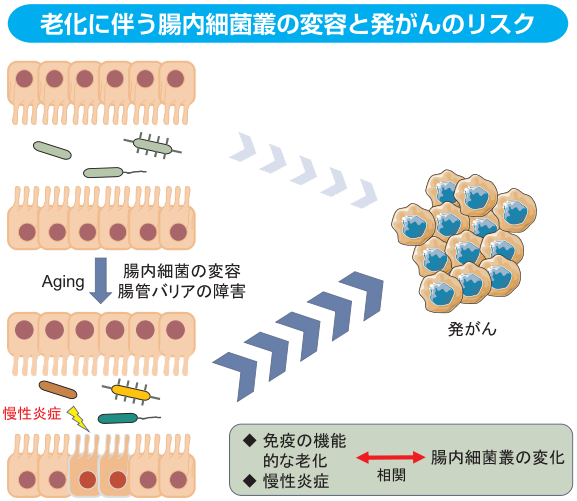
研究テーマ：老化に伴う幹細胞機能の変化と発がんメカニズムの解明

平成30年5月1日より熊本大学大学院生命科学研究部では、健康長寿を脅かす「代謝・循環」、「がん」、「神経」の3領域を重点領域とし、老化・健康長寿研究の推進に取り組んでいます。研究センター内の「がん・幹細胞研究部門」では、馬場秀夫教授を部門長として、RUNX生物学分野の大里元美教授、幹細胞ストレス分野の滝澤仁教授、がん生物学分野の山口知也准教授、分子酵素化学分野の諸石寿朗准教授とともに老化に伴う幹細胞機能の変化および発がんメカニズムの解明に向けた研究に鋭意取り組んでいます。



加齢はDNAダメージ修復機構や免疫機構などの機能低下を介して発がんと関わることが分かっており、腸内細菌叢や幹細胞機能への影響も注目されています。近年、食生活や生活習慣だけでなく加齢に伴う腸内細菌叢の変化は免疫の機能的な老化・慢性炎症に相関することが報告されています。しかし、加齢に伴う腸内細菌叢の変化と生活習慣病・がん・組織幹細胞機能との関連性については未だ明らかになっていないことが多く存在します。

健康長寿代謝制御研究センター /がん・幹細胞研究部門では研究分野の垣根を超えた共同研究を通じて、老化に伴う腸内細菌叢の変容と発がんの新しいメカニズムを明らかにし、加齢に伴う消化器癌発がんリスクの軽減に向けた基盤研究を推進します。



関連施設のご紹介 （施設名五十音順）

阿蘇医療センター

代表者：甲斐　豊（院長）

「近況報告」

当院は開院以来、阿蘇医療圏の地域医療拠点病院として政策的医療を中心に機能充実を図ってまいりましたが、今春は更に熊本県がん診療連携拠点病院に指定されました。

これは、昨年４月、熊本大学病院消化器外科から常勤医師として就任の古閑悠輝先生、並びに従前から非常勤で支援頂いている近本亮先生を中心に、外来化学療法・手術・緩和ケア・キャンサーボード等に継続的に尽力・指導を賜り、実績を積み上げて頂いたことによるものと感謝しております。

コロナ禍後の医療政策変革がどのように展開するのか不透明な部分もありますが、今後も専門医療の提供を基盤に、更に地域医療の充実化に取り組んでまいりますので、引続きご指導ご支援の程お願いいたします。

天草市立牛深市民病院

代表者：松﨑 法成（院長）

「近況報告」

当院は天草下島の南西の端に位置し、148床の病院で外科４名、内科３名、小児科１名の常勤医で急性期から回復期、慢性疾患の入院患者を受け持ちます。

今年１月より回復期病床として地域包括ケア病棟を立ち上げました。

手術は昨年65例の手術を行いました。

消化器がんの手術、胆石、ヘルニアなどの中低難易度手術が主です。

本年４月より蓮田正太先生を新たに迎え外科手術、急性期疾患への対応を強化しました。牛深地区で外科手術のできる唯一の病院としての体制を維持してまいります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

天草市立河浦病院

代表者：中川 和浩（院長）

「へき地医療を担うものとして」

当院は昭和22年4月に一町田村の診療所として開設。その後幾多の病床変革、病院改名を経て現在一般病床39床、療養病床60床の市立病院として天草市南部、特に河浦、天草町地域の医療を担っております。昨今の人口減少、高齢化に伴う患者減少は避けられず、病院経営も決して順調とはいきません。ただ地域に必要な施設であることを自覚し、今後は医療の質を上げるとともに積極的な訪問診療、リハビリ、看護、介護に力を入れていこうと思っております。今年、長年河浦病院を支えてこられた永吉正和先生が退官されました。先生の偉業を汚さぬよう頑張ります。

天草地域医療センター

代表者：原田 和則（院長）

「Ａ明るく･Ｍ前向きに･Ｃ力を合わせて！（Amakusa Medical Center）」

院長以下6名(吉仲一郎、高田登、坂田和也、徳永竜馬、堀野大智)で消化器、呼吸器、乳腺内分泌など外科全般の診療を担当。がん診療拠点病院で、食道･胃・大腸･直腸癌、肝胆膵領域癌、乳癌、甲状腺癌、肺癌等、手術や化学療法、緩和と病態に応じた治療を実践。全麻が400例前後で、鏡視下手術も消化器、胸部などの殆どが対象。化学療法や緩和医療では専従の認定看護師やチーム医療で対応します。

外科領域以外にも多くの関連学会の認定施設で、学会活動や専門医取得に積極的です。超音波、内視鏡、IVRなどの領域も習得しながら、診断から治療まで総合的外科教育が可能な施設です。明るい医局で新しく徳永、堀野両君が加わりました。

天草中央総合病院

代表者：芳賀 克夫（院長）

「近況報告」

当院は、隠れキリシタンの天草四郎で有名な天草にある総合病院です。毎朝鳥のさえずりで目が覚め、病院までの道すがら、海と山が青々と望めます。

病院機能としては、熊本県のがん診療連携拠点病院として、さまざまながんに対して手術や抗がん剤治療、放射線治療を行っています。また、熊本県の地域産科中核病院として、天草地方の妊婦さんの健康管理と出産を担っています。

医局はワンルームで診療科間の垣根が低く、何でも相談できる雰囲気です。毎週医局会を開催し、チームワークを重視した病院運営を心掛けています。

荒尾市民病院

代表者：勝守 高士（院長）

「近況報告」

新病院建設は2023年度の開院に向かい順調に進行中で現在実施設計の段階です。当院は国指定の地域がん診療連携拠点・県指定の脳卒中急性期拠点・心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院として地域医療を担っていますが、さらに本年2月13日付けで熊本県より災害拠点病院の指定を受けました。新病院ではヘリポートを含め救急・災害医療の更なる充実を図ります。外科は手術・内視鏡検査・化学療法を行い病院の中心的存在です。年間手術数は約500例で、胸腹部手術では鏡視下率は約85％です。当院では3Dシステムを県内で最初に導入し今後も高精度モニター・ロボットの導入を検討中であり、精密で合併症の少ない安全な手術を目指しています。

出水総合医療センター

代表者：花田 法久（院長）

「出水総合医療センター改革2年目」

昨年度は何とか繰り出し基準の補助金を含めてですが、黒字決算を出すことに成功しました。改革は途上ですが、職員の意識改革も進んで来たと感じています。看護師も例年数人の採用ですが、休床となっていた南3F病棟を再開できる数を確保し、7月には地域包括ケア病棟として再開する予定です。COVID-19の患者が感染症病床4床で足りなければ、軽傷者の病棟になってしまいそうですが、そうならないことを祈るばかりです。私が院長を拝命しましたので、Vision を「困った人に寄り添う病院」、その判断基準は「それは患者のためになることか？」で判断することをお願いしました。ここがぶれない病院を目指します。

さて、外科は、上村外科部長に、大学から内原外科医長が赴任、花田の3人態勢となります。麻酔医が1人から2人へ、整形外科医が1人から3人となります。控えざるを得なかった緊急手術も徐々に再開できそうです。上村外科部長の指導の下、高難易度消化器外科手術も増えているところです。

宇城市民病院

代表者：大町 秀樹（院長）

「宇城市民病院の近況」

宇城市民病院は、昭和28年に国保直診松橋町立病院として開設され、現在は一般病床45で運営いたしております。常勤医は今年も外科一人、内科一人の2名ではございますが、熊本大学消化器外科、代謝内科および循環器内科からのご支援をいただき毎日たくさんの患者様の診療をなんとか行っております。今年は新型コロナウイルス対応でどこの病院でも大変な御苦労されていると思います。当院も古い病院ではありますがご高齢の入院患者様がほとんどのため職員一丸となって、新型コロナウイルス感染症の院内発生を起こさないように努めています。

宇城総合病院

代表者：江上　寛（院長）

「近況」

宇城市松橋町にある社会医療法人の病院です。地域医療支援病院、在宅医療サポートセンター、地域医療拠点病院で、二次救急指定の他、第二種感染症指定、災害拠点などの役割を担っています。総病床数204床、17診療科、常勤医師数19名、非常勤医師数７名、10対1看護体制です。包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟を有し、在宅復帰を目指す亜急性期の患者さんも治療しています。病院の理念は地域貢献です。今年はコロナウイルス感染拡大の大変な年となりました。皆様も各地で頑張っておられることと思います。私たちも微力ながらこの見えない敵に立ち向かっています。精力善用自他共栄です。力を合わせて頑張りましょう。

大牟田天領病院

代表者：松村 富二夫（外科部長）

「大牟田天領病院だより」

大牟田市は人口12万人の工業都市で以前は石炭産業で栄えていたのですが、その衰退とともに若者の人口流出が止まらず平成28年度の65歳以上の高齢者の割合は35.1％を占めています。大牟田天領病院の歴史は古く明治22年に三池炭鉱の操業とともに開院し、今年で131年を迎えました。診療科は14科で病床数は339床です。外科の手術症例件数は年間200例を推移しています。当科のスタッフは松村、大川、木下の3人で診療に当たっています。日本外科学会認定施設、日本消化器外科学会関連施設、日本消化器病学会関連施設などに指定されています。標準手術を安全に遂行することにより地域住民の健康を守っていきたいと思います。

小国公立病院

代表者：坂本 英世（院長）

「地域医療構想からコロナウィルス対策へ」

昨年の当院にとっての大きな出来事は9月27日の新聞発表で、地域医療構想の中で再検証を必要とする県内７つの公的病院の1つとして発表された事です。その再検証の期限が令和2年3月でした。しかし令和2年になって、新型コロナウィルス感染症の国内発症、都市部での感染拡大に続き、地方へと波及して行くに従い地域医療構想調整会議が開かれなくなりました。

様々な医療改革・新型ウィルス感染症等、地方の公立病院には厳しい風が次から次へと吹いてきます。しかし当院は小国郷唯一の病院として、何としても病院機能を維持しなければならないと、職員一丸となって強風に吹き飛ばされないように踏ん張っています。

又、昨年度の明るいニュースとしては職員の意識の変化と地域包括ケア病床の増床等で単年度決算が８年ぶりに黒字決算となりました。

球磨郡公立多良木病院

代表者：大島 茂樹（企業長）

「近況報告」

当企業団は、病院事業の他に健診事業、老人保健施設事業、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、24時間訪問看護ステーションなどの事業を展開しています。病院事業は急性期・回復期・緩和・在宅医療までを扱っており、上球磨における地域包括ケアシステムの中心的役割を果たしています。住民の方々の急な体調の変化にも対応できるよう、24時間救急診療を行う一方で、他院で急性期治療を終えた患者さんの在宅復帰に向けてのリハビリや退院支援など回復期医療にも対応しています。General mindを持った医師が集い、住民の方々が安心して暮らせる地域づくりに貢献しております。

熊本市民病院

代表者：生田 義明（消化器外科部長）

「新病院始動」

熊本地震により甚大な被害を受け、約3年半の間、診療縮少を余儀なくされた状態でしたが、その経験を教訓とし、最新の免震機能を有し、災害時も診療を継続できる機能を有した新病院が令和元年10月に東区東町に開院しました。

消化器外科は、横山副院長と、生田(平成10年卒)、塚本(平成23年卒)の３人体制となっております。開院以来、20～30 /月の手術症例をコンスタントにこなしております。胆石、虫垂炎、ヘルニアなどはもとより、結腸癌や胃癌の鏡視下手術も増えており、膵頭十二指腸切除や膵体尾部切除なども施行しております。当院の理念である市民の生命と健康を守るため、安全で良質な医療を提供するべく、精進していきます。

熊本市立植木病院

代表者：川田 康誠（外科医長）

「近況報告」

植木病院は熊本市北区役所に隣接する急性期病床、地域包括ケア病床、療養病床を有する合計129床の病院になります。昨年度は、病院機能評価や電子カルテ導入などがあり、各部署で大きな変化のあった一年でした。外科については二人体制で手術、その他の診療をやってきましたが、今年度から外科は一人体制となりました。また内科系医師の減もあり、病院全体としての診療の制限があるのが現状です。手術についても可能な症例が限られてしまいますが、今後は手術の他、化学療法、緩和ケアなど周辺地域で可能な医療を行っていきます。

くまもと森都総合病院

代表者：田嶋 ルミ子（外科医長）

「くまもと森都総合病院の近況」

私共くまもと森都総合病院は蓮田先生の移動に伴い、4月から山中、田嶋の二人体制になっています。二人体制といっても、私(田嶋)が子育て中のため、時間外や休日対応はすべて山中先生にご負担頂いており、1.5人体制に等しく、大変申し訳ない状況です。4月からは週１回、大学からの派遣医師の協力を得て、朝からの腹腔鏡下のメジャー手術を施行していく体制を整えていただきました。馬場教授と医局には大変感謝しています。できる手術が増える事で、山中先生及び病院に少しでも貢献していければと考えております。しかし、実際は肝胆膵の症例も多いのですが、人手不足から対応難しく、大学や同門の先生に頼ることも多く、まだまだ思うような動きが取れないもどかしさはあります。山中先生の大きな傘の下で、のびのび仕事をさせてもらっておりますが、少しづつ両立に慣れて行き、徐々に手術数を増やしていければと考えています。

熊本赤十字病院

代表者：平田 稔彦（院長）

「赤十字発祥の地で」

当院外科の年間の手術症例は約1,500件で、1/3ががんの手術、1/3が急性腹症や外傷などの緊急手術です。手術の大部分を専門医や技術認定医を取得した中堅外科医が若手外科医や研修医と共に担当しています。また毎月1-3例行っている腎移植では多職種のチーム医療を実践し生体腎移植の生着率98％と良好な成績を収めています(現在新型コロナのため手術を見合わせています)。またドクターヘリの基地病院として県内外の高エネルギー外傷も受け入れており複数科にまたがる外傷には外傷外科を中心としたチーム医療で対応しています。日本赤十字社発祥の地である熊本でその理念である人道・博愛・奉仕の実践を体現すべく日々努力しております。

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO) 熊本総合病院

代表者：島田 信也（院長）

「近況報告」

馬場秀夫教授のご高配により、消化器外科の優秀な人材の充実をお図り頂き、お陰様で、住民の皆さんの期待にお応えできる拠点病院として、鋭意努力いたしております。

特に今年度は、新築時からの増築計画に加えて昨年度に400床の大規模病院となったことから、大規模な増築計画がスタートいたします。具体的には、2013年の新築時の課題であった検診・内視鏡・腎・手術センターなどの該当部門の拡張と更なる機能充実を図るものです。ご期待頂ければ幸いです。

今後も、馬場教授のご指導とご支援ならびに医局員の皆さまのご協力を仰ぎながら、当院の消化器外科一同はさらに診療の質を高め、この武漢ウイルス大災禍にめげずに課題解決に向かって一層の精進をして参ります。

熊本地域医療センター

代表者：杉田 裕樹（院長）

「熊本地域医療センター外科の現況」

熊本地域医療センター外科は、常勤医師7名および非常勤医師3名で診療に携わっています。消化器外科を中心に呼吸器外科、乳腺内分泌外科合わせて年間約830の手術症例があります(そのうち、緊急手術は18％)。2019年臓器別手術症例数は胃癌25例、大腸癌　約90例(そのうち直腸癌は30例)、膵切除44例、肝切除16例、虫垂炎105例、胆摘170例、肺切除11例、乳癌18例であり、肝胆膵悪性手術が年間約60例(膵頭十二指腸切除術約30例)と多いのが特徴です。また腹腔鏡手術症例が増加傾向で大腸癌手術、胆摘術、虫垂炎手術のほとんど、胃癌手術の約半数を行っています。どうぞよろしくお願いいたします。

国家公務員共済組合連合会熊本中央病院

代表者：那須 二郎（診療部長）

「熊本中央病院外科の現況」

本年度は那須(S62卒)、齋藤(H16卒)、大内(H21卒)、玉置(H22卒)、前田(H28年卒)、竹野(H29卒)の6名で診療を行っております。

外科としては、呼吸器外科や乳腺・内分泌外科などもあり、より専門性の高い外科診療を行っております。また、心臓血管外科や腎臓内科があるため、高度の基礎疾患を有する患者の手術も集学的に行っております。

当院は、特に日本大腸肛門病学会の修練施設ということもあり、下部消化管疾患の診療の頻度が高いことが特色です。下部直腸癌に対する肛門温存手術も積極的に行っております。また、消化器内科の人員増加により、手術症例や内視鏡治療も増加しているだけでなく、内科との合同手術であるLECSなども取り入れ、消化器癌の治療実績は向上してきております。

労働者健康安全機構熊本労災病院

代表者：飯坂 正義（一般外科/救急・災害診療部部長）

「県南の地域医療を担う一病院として」

当科は、消化器外科部長として中原修医師を中心に、藏元一崇、辻顕、飯坂正義の、4人体制で診療にあたっています。また乳腺外科、呼吸器外科のほか、小児外科のスタッフが加わり、待機ローテーションに入ってもらうほか、各科の手術にはお互いが協力し合う体制で臨んでいます。当院は、JR新八代駅や九州自動車道八代ICに近いこともあり、周辺からのアクセスも良好で、八代医療圏のみならず、周辺医療圏からの患者さんも積極的に受け入れています。県南におけるがん診療連携拠点病院、災害拠点病院としての機能のほか、勤労者医療を主導していく中心的役割を担うべく粉骨砕身、精進して参ります。

地方独立行政法人くまもと県北病院機構公立玉名中央病院

代表者：石河 隆敏（副院長）

「合併･新病院（くまもと県北病院）開設進行中」

玉名中央病院と玉名地域医療センターは「くまもと県北病院機構」として組織統合されました。JR新玉名駅の北約400mの地に新病院建設中で、2021年3月1日開院予定としています。現在、病院の建設・移転に向け院内全体の機運も高まっており、４月から高野、島本、石河、石川、有馬の５人の新体制で外科診療に取り組んでいます。年間200～300例の手術症例で、鏡視下手術も積極的に行っています。基幹型及び協力型の研修医を受け入れており，外科医リクルートにも力を入れています。

五ヶ瀬町国民健康保険病院

代表者：崔林承（院長）

「当院の状況」

少子高齢化・人口減が続く五ヶ瀬町ですが、65歳以上の高齢者人口は現在ピークを迎えていると考えられています。常勤医師は２名で診療を続けていますが、今後も当院が地域住民の安全・安心な生活の支えとなり続けるためには診療体制の変革が必要な状況です。地域医療構想の中で今後の当院の在り方が検討されていますが、現状の分析を終え、具体的な議論を開始する時期にきております。五ヶ瀬町は県境の町であり、宮崎県の医療圏内のみならず、熊本県側も考慮した今後の体制を構築していく必要があります。現在は、コロナ禍真っ只中ではありますが、目の前の患者さんの診療に励みながら、将来の在り方の議論をすすめていきたいと考えております。

国立病院機構熊本医療センター

代表者：宮成 信友（統括診療部長）

「当院の特色と現状」

熊本医療センターは、病床数550床（精神科：50床）で33診療科があります。ほぼ全診療科の有しており、臨床研修医も総合プログラム16名、プライマリケアープログラム3名の定員があります。今年もフルマッチングでしたが、残念ながら1名が国家試験不合格であったため、総合15名、プライマリー 3名の18名の臨床研修医が研修を始めることになりました。研修終了後、今年は3名消化器外科を選択してくれました。2年目研修医18名と合わせて現36名のうち何人が外科を選択してもらえるのか期待しているところです。

外科には、医局のご配慮で今年度も3名の新人を派遣していただきました。毎年新たな人員を加え診療できることは診療と教育のモチベーションを維持・向上させることに有用であり医局には感謝しております。昨年度の手術件数は、諸事情でやや減少しましたが、今年度は業績が改善するようにさらなる努力を行います。今後ともご支援よろしくお願いいたします。

国立病院機構熊本再春医療センター

代表者：大原 千年（外科部長）

「近況報告」

昨年９月の新病棟への移転を機に当院外科も新たな局面への飛躍を企図しておりましたが、本年度も私と冨樫の二人で日々の診療に明け暮れています。幸い医局より地域枠での小川先生、菊池恵楓園所属の岡留・山下両先生に手術他の助力をいただき非常に助かっています。冬より猛威を振るっている新型コロナの影響で患者数も小康状態のためオーバーワークには至らず現状維持を保てておりますが、働き方改革に伴う職場環境改善のためにも常勤スタッフの補充を切に望む次第です。新しい手術室での快適な環境で手術をやりたい若手の先生、中堅の先生、もしくは老練の先生でも構わないのでぜひ一緒に仕事をしましょう。

国立病院機構熊本南病院

代表者：林　尚子（外科医長）

「近況報告」

当院は、北は熊本市、南は八代市の間の宇城市松橋に存在する172床の地域基幹病院です。今年の3月で、金光医師が院長職を終えられましたが、4月よりシニア医師として引き続き勤務され、主に超音波検査、緩和外来を担当されています。高齢化が進んでいる地域であり、近隣都市まで自力で行けない患者さんにも、各個人にふさわしい医療が提供できるような病院を目指しています。

癌診療には力を入れており、熊本県がん診療連携拠点病院の指定を受け、3名（金光医師を含む）の消化器外科医が中心となり、癌の診断・治療（内視鏡治療・手術・化学療法）・緩和まで、都市部の病院と遜色ない医療を提供できるよう努力しております。

国立病院機構都城医療センター

代表者：緒方 健一（統括診療部長）

「都城医療センターだより」

都城市は、宮崎県の南西部に位置し、周辺の三股町、高原町、えびの市、小林市など、さらに鹿児島県の曽於市や鹿屋市などからよく患者の紹介を受けいれます。当院は熊本大学、宮崎大学、鹿児島大学、福岡大学の各医局からの派遣で成り立っており、皆仲良く、雰囲気のよい医局です。外科では、消化器外科領域の疾患のみならず、乳癌や甲状腺疾患についても診断・治療に当たっています。毎年、卒後4，5年目の医師が医局から1人派遣されておりますが、手術や全身管理、検査、化学療法、緩和治療などの日常診療のみならず学会活動も積極的に行なってもらっています。今後も地域住民の方々に高度で安全な医療を提供できるよう精進してまいります。

国立療養所菊池恵楓園

代表者：箕田 誠司（園長）

「入所者の意向に沿ったサポートを目指して」

当園はハンセン病回復者のための医療・介護・居住一体型施設であり、約60ヘクタール(東京ドーム13個分)の広大な敷地に病棟や介護センター、寮・住宅だけでなく、給食施設や温泉、理髪店等様々な施設を備えております。

現在、入居者の平均年齢は87歳と高齢化が進んでおり、併存疾患を持つ方も多く、今後ますます必要なサポートおよびケアが増加すると思われます。我々医療者としては入所者の意向がどのようであるかを常に考えて行動すること、そして疾病の予防から退院後のケアまで全て園内で行えるという利点を生かせるような職員間のスムーズな連携を目指して、日々取り組んでいるところです。引き続き、入所者の方にとってベストな生活環境を提供できるように全職員で精進して参ります。

済生会熊本病院

代表者：髙森 啓史（外科部長）

「近況報告」

2019年10月には、生田義明君が熊本市民病院、丸野正敬君が熊本大学消化器外科に異動となりました。2020年4月には、馬場祥史君と小川克大君が熊本大学消化器外科に異動になり、原田和人君と光浦智証君が着任しました。総勢10名の外科医で昼夜診療を行っています。

2019年の手術件数は1231例で、予定手術719例(58.4%)、緊急手術512例(41.6%)の内訳でした。主要手術の内訳は、胃癌58例（鏡視下50.0%）、結腸直腸癌161例（鏡視下74.5%）、肝胆膵領域悪性腫瘍126例（肝胆膵高難度手術76例）でした。また、腹腔鏡下肝切除31例、腹腔鏡下膵体尾部切除8例と年々増加しています。同年も当科の目標のひとつである予定手術の在院死ゼロを達成できました。

学術活動では、学会発表は77題（シンポジウム1題、ワークショップ1題、パネルディスカッション1題）、論文発表は29編でした（共著者含）。

済生会みすみ病院

代表者：田辺 大朗（診療部長）

「地域と共に歩む」

当院は2003年国立療養所三角病院を引き継ぎ、済生会みすみ病院として現在に至っております。瀬井初代院長の時から“医療・福祉を通じて安心して生活できる地域創りに貢献します”という理念の下、地域医療の支援、救急医療の実践、健康な生活の支援に向けて活動しております。少子高齢化、人口減少の影響がもっとも早く現れている地域のひとつであり、急性期から慢性期までの幅広いニーズ応えられるように少しずつ病院の変革を進めながら黒字経営を維持しております。常勤医11名、外科医2名の体制で、外科手術をこなす一方総合医としての役割が大きくなっております。これからも地域医療に欠かせない病院として活動してまいります。

新別府病院

代表者：菊池 暢之（外科部長）

「近況報告」

当院は別府鉄輪温泉の近くに位置した、269床の国家公務員共済組合連合会の病院です。大分県下で4ヶ所の救急救命センター(新型)の一つが併設されています。そのため、年間2900台程度の救急車を受け入れ、当科の年間手術例は300例程度ですが、その1/3が緊急手術です。昨年からは、今までのER当直、ICU当直に、さらに救急病棟当直も加わり、3人体制で救急医療を支えています。

高齢化に伴い昨年は70歳以上(57%)、80歳以上(28%)と、80～90歳代の手術に、抵抗を感じることが少なくなってきました！併存症にともなう術後合併症に、悩まされることもありますが、外科手術手技を磨くとともに、地域医療に貢献していけるように、日々精進しております。

高千穂町国民健康保険病院

代表者：久米 修一（院長）

「近況報告」

3月17日、高千穂町内で2人の新型コロナウィルス感染が確認されましたが、感染管理室を中心に迅速に対応し、3週間以上経過した現在も、町内に新たな感染者は出ていません。

昨年度は常勤医が9名となり、ここに赴任してから最も少なくなりました。しかし、全員で頑張って、医業収益は増えました。

今年度は、常勤医が3人(内科、腎臓内科)増えて12名になりました。うち2人は、県派遣の自治医大卒の内科医です。待望の透析担当医も着任し、66名の維持透析患者さんの診療も担当しています。今後は、慢性腎臓病からの透析導入を遅らせるようなアプローチも取り入れていきたいと思います。

くまもと県北病院機構玉名地域保健医療センター

代表者：細瀧 喜代志（外科部長）

「現況報告」

当院は2021年3月に公立玉名中央病院に吸収合併され、くまもと県北病院になります。それに向け今年3月に療養病棟50床が閉鎖され手術室も閉鎖となりました。入院患者は医師6名(常勤4名)で担当しています。岡本名誉院長は入院患者も外来も担当され、近接する重度身障者施設の診察もされています。病床減少もあり看護師を含むパラメディカル約20名が合併に先んじて公立玉名に異動しています。加えて新型コロナ対策関連で入院外来患者が激減し、経営上やや苦境にたたされていますが、当院職員一同前向きに仕事しています。公立玉名に対抗する目的で1985年に玉名郡市医師会が設立した当院も、玉名が一つになるための準備を進めている次第です。

和水町立病院

代表者：志垣 信行（病院事業管理者）

「ふるさと納税」

和水町は小さな町ですが町立病院や特別養護老人ホームを持っていますので、これらの経営が悪化すると町の財政への影響も大きく町も色々対策を考えています。その一つがふるさと納税の増加を目標にお礼品の充実を図ることで、以前はお茶くらいしかなかったのですが今年は牛肉、豚肉製品、スイカをはじめとする果物など多くの農産物を紹介しています。私も利用しましたがお得感がありお勧めです。皆さんもご利用お願いします。

町立病院の医療形態は昨年と同様で、4人の常勤医で診療にあたっています。訪問診療も利用者が徐々に増え、自宅で最期を迎える方も多数いらっしゃいます。当地の地域包括ケアシステムの中心となりがんばっています。

西日本病院

代表者：兼田　博

「西日本病院便り」

西日本病院は、一般病棟159床、地域包括ケア病棟40床、障害者施設等一般病棟100床、回復期リハビリテーション病棟100床の計399床からなる急性期と慢性期両方に備えた病院です。

昨年から始まりました新棟建設工事が大詰めを迎えていています。健診センターと病棟の増床分が入る予定ですが、運用の詳細については、このところのコロナ騒動に追われていて検討中です。

外科は、今年度より杉原栄孝（平成19年卒）君が赴任してくれました。私（兼田）にとっては、旧熊大第一外科の大先輩の息子さんでもあります。今まで勤務していた病院と違って非常に高齢者が多く、仕事内容に対して戸惑いがあっても良いところですが、それを感じさせずに元気に新風を吹き込んでくれています。

延岡市医師会病院

代表者：太田尾 龍

「近況の御報告」

当院は宮崎県の北に位置する延岡市にある医師会立の病院です。昨今は医師、看護師の減少のみならず薬剤師、栄養士、理学療法士など様々な職種の人員を充足させることが難しくなり、年頭から病床を縮小しての病院運営を余儀なくされております。

年間手術症例は全麻腰麻局麻あわせて40例ほどであり、ヘルニア・胆嚢・乳腺、腸管、胃瘻造設などの小手術を主に行っております。また事業所検診や人間ドックなど各種検診事業を手掛けておりますが、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、内視鏡検査は業務を縮小しております。5月中に当院で新型コロナに対するドライブスルー検査を開始します。今後も様々な形で地域医療に貢献したいと考えています。

平素より教室から様々な御支援・御高配を賜り誠に感謝しております。これからも精一杯頑張りますので宜しくお願いします。

人吉医療センター

代表者：木村 正美（院長）

「人吉近辺地域医療の現状報告」

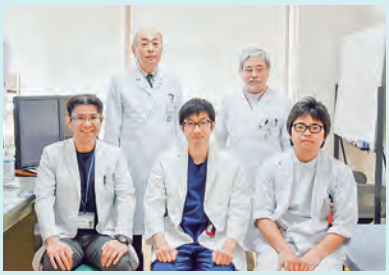
人吉医療センターは人吉・球磨地方のみならず、鹿児島県伊佐市、宮崎県えびの地域の拠点病院として重要な役割を担い、地域の医療機関との協力連携のもと、救急医療・がん診療・予防医療・緩和医療・訪問診療と幅広く地域完結型医療に努めています。外科手術は消化器・血管・呼吸器・乳腺・甲状腺等守備範囲は広く、消化器領域では、消化管鏡視下手術・肝切除・膵切除等に至るまで、県主要都市と遜色ない技術を提供できるように日々努力しています。さらにPET-CT、ハイパーサーミア、高気圧酸素療法、新型放射線治療装置（Elekta Synerg®）等の最新のがん診断治療設備も充実しています。周囲の山々に囲まれた閉鎖的な地域において住民の健康維持のために日夜精進しているところです。

国保水俣市立総合医療センター

代表者：阿部 道雄（院長）

「県境の病院」

当院は熊本県南西に位置し、水俣・芦北医療圏のみならず、北薩地方(出水、阿久根、伊佐等)からも広く患者さんを受け入れる急性期中核病院で、24時間救急医療体制を維持することを使命としています。昨年よりＨＣＵ10床が稼働したことで救急車の搬入台数も増加し、地域医療に貢献することができました。外科は坂本事業管理者、阿部、長井、志垣、松浦で「医療に県境なし」をモットーに幅広い外科診療を行なっています。また、腹腔鏡手術を得意とする中村健一先生が大学から手術応援に来てくれています。最高のチームでSurgery、Academy、Humanityの全てを尽くし、ここに住む人々の役に立ちたいと思います。これからも宜しくお願い致します。



宮崎県立延岡病院

代表者：土居 浩一（副院長）

「宮崎県北から」

当院は宮崎県北部の延岡市に位置し、延岡・西臼杵・日向地区(医療人口25万人)をカバーする唯一の高次機能医療施設としての役割を担っています。

消化器センターは外科6名と消化器内科2名で構成され、手術以外に消化器検査と内視鏡治療、化学療法に従事しています。手術や内視鏡治療の件数数も年々増加しており、鏡視下手術の割合も拡大しています。

宮崎大学から派遣された消火器内科医とはカンファレンスを合同で行い、診療科間の垣根の低い診療体制を引いています。

救急部は３名の熱い若手救急医の奮闘により、救急患者数の増加とそのバリエーションが拡大し、当科の急患対応数も拡大傾向にあります。

今年も活きの良い外科後期研修医が２名配属され、貪欲に手術に検査に頑張ってくれています。退屈はさせない臨床メニューを用意しており、必ず来て良かったと思える延岡ライフを経験していただきます。

公益社団法人日本海員掖済会門司掖済会病院

代表者：安部 利彦（外科部長）

「第122回日本外科学会会長就任おめでとうございます。」

馬場教授、第122回日本外科学会会長就任おめでとうございます。これも大学を中心とした教授をはじめ教室員皆様方の御努力の賜物で頭が下がる思いです。当院も栄えある教室の一員として恥じないような診療を続けていきたいと思っております。日本海員掖済会は本年4月1日よりその活動が評価され公益社団法人となりました。門司港は九州有数の観光地として栄えてきましたがコロナウイルスによる緊急事態宣言後は町も閑散としております。北九州市門司区は九州鉄道記念病院(旧JR九州病院)(九大1外科)、門司メディカルセンター(産医大1外科)、池友会新小文字病院との激戦区ですが、近隣に開業された多くの同門の先生方にご支援いただき、再増員を目指して頑張っております。北九州出身の医局員の方々にも興味を持ってもらえるように病院を盛り上げていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

山鹿市民医療センター

代表者：別府　透（院長）・豊永 政和（事業管理者）

「さらに進化する外科」

2016年より消化器外科教室からの医師派遣が開始され、4月からの実働メンバーは、山村謙介、佐藤伸隆、赤星慎一、別府　透です。昨年の外科手術件数は252例で、緊急手術を中心に49例増加しました。大腸癌・肝癌などの悪性疾患や良性疾患ともに腹腔鏡手術例が増加しています。肝癌集学的治療チームは順調に稼働しており、4年間で320例の肝癌治療(肝切除86例、局所凝固療法 74例、TACE　160例)を行いました。新規に日本がん治療認定医機構の認定研修施設と日本消化管学会胃腸科指導施設になりました。学会・論文・教育活動にも積極的に取り組んでおり、昨年度にFirstまたは2ndの英文論文10編をpublishしました。引き続き地域完結型の外科を目指します。ご指導の程どうぞよろしくお願いいたします。

山都町包括医療センターそよう病院

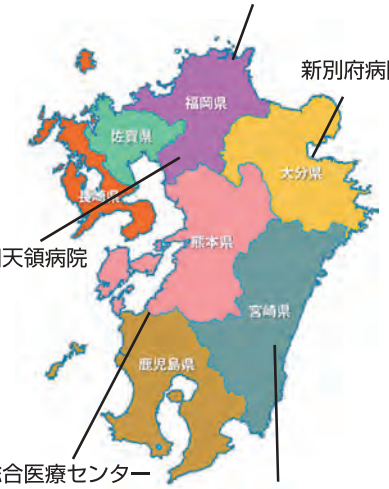
代表者：竹本 隆博（副院長）

「熊大消化器外科と連携しへき地医療を担って70年」

当院は山都町の山間僻地に立地する常勤医4人（外科医1人）の小病院です。少子高齢化・人口減少の波をもろに受け高齢化率48％となっています。これからの日本の20年先を行く“先進地域”といわれています。そんな中で当院に求められるのは総合診療・地域包括医療および救急医療です。外科を基盤にしながらも住民のあらゆる健康課題に挑戦しています。また、熊大消化器外科教室の歴史ある連携病院として緊密に連携し、山都町はもとより近接する南阿蘇や宮崎県の患者さんを高度先進医療へ橋渡しをおこない、さらに術後の回復期管理や抗がん剤を含めた後治療を担います。教室とともに地域医療の維持・発展を担ってまいります。

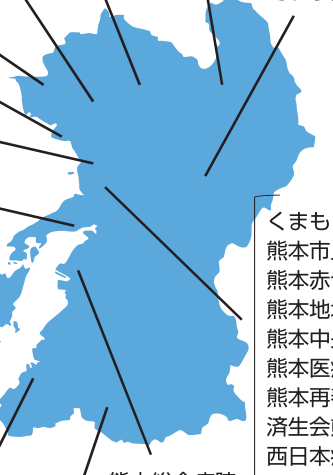
〈 関連病院 〉

県外 9施設



門司掖済会病院
新別府病院
大牟田天領病院
出水総合医療センター
五ヶ瀬町国民健康保険病院
国立病院機構都城医療センター
高千穂町国民健康保険病院
延岡市医師会病院
宮崎県立延岡病院

県内 32施設



国立療養所菊池恵楓園
山鹿市民医療センター
和水町立病院
阿蘇医療センター
小国公立病院
荒尾市民病院
そよう病院
公立玉名中央病院
玉名地域保健医療センター
熊本市立植木病院
宇城市民病院
宇城総合病院
熊本南病院
くまもと森都総合病院
熊本市民病院
熊本赤十字病院
熊本地域医療センター
熊本中央病院
熊本医療センター
熊本再春医療センター
済生会熊本病院
西日本病院
天草市立河浦病院
天草地域医療センター
天草中央総合病院
済生会みすみ病院
牛深市民病院
熊本総合病院
熊本労災病院
人吉医療センター
球磨郡公立多良木病院
水俣市立総合医療センター

留学便り

教室員には海外・国内留学を積極的に勧め、国際社会の中での日本の位置づけを意識させながら、研究・教育に取り組んでいます。今年度も多くの医局員が海外留学する予定です。

海 外

Cleveland Clinic Lerner Research Institute（Prof. Nagy Lab）（アメリカ）

宮田 辰徳（平成20年卒）

2019年7月より、米国オハイオ州クリーブランドにあるCleveland Clinic Lerner Research Institute（Prof. Nagy Lab）に留学させていただき、アルコール性肝炎・非アルコール性肝炎による肝障害について基礎研究をしております。また、Cleveland Clinicは世界有数の肝移植を行っており、最先端の手術を見学することも可能であり、基礎および臨床について非常に充実した時間をおくることができています。この経験を医局に還元できるよう色々と勉強してまいります。このような機会を与えていただき、馬場教授をはじめ、医局の皆様には心より感謝申し上げます。

国 内

がん研有明病院（東京）

井田　智（平成14年卒）

がん研有明病院胃外科ならびに栄養管理部に所属しています。ロボット支援下胃切除などの手技の安定化だけでなく、前向き臨床試験の遂行や後輩の指導にも注力しています。熊大メンバーで、力を合わせて頑張っていきます！

今村　裕（平成14年卒）

食道外科スタッフとしてトップレベルの外科手術とトランスレーショナルリサーチを推進し、医局長としてがん研消化器外科を支えていきます。

泉　大輔（平成20年卒）

馬場教授の御高配により、本年度よりがん研有明病院胃外科に赴任させて頂いております。日本一の胃癌手術件数を誇る当院で手術手技の修練及び臨床研究により一層励んでまいります。

日吉 幸晴（平成14年卒）

新型コロナウイルス騒動で大変な4月から、とりあえず無事にがん研有明病院大腸外科に赴任することができました。このチャンスを無駄にすることがないよう、1日1日を大切にして精進していきます。

清住 雄希（平成21年卒）

馬場教授の御高配により、昨年度より大腸外科のレジデントとして研鑽を積ませて頂いております。2年目となる今年は手術手技の習得、膨大な症例数を活用した臨床研究をしっかりと進めていく所存です。

中川 茂樹（平成18年卒）

馬場教授の御高配により、昨年度よりがん研有明病院肝胆膵外科に赴任させて頂いております。今年は2年目になりますので手術手技の修練及び臨床研究により一層励んでまいります。

静岡県立静岡がんセンター（静岡）

八木 泰佑（平成23年卒）〈胃外科〉

静岡がんセンターでの国内留学も今年で2年目となりました。1年間の他科ローテートが終了し、今後2年間はほぼ胃外科に専念して研修することとなります。ロボット支援下胃切除をはじめ、全国トップレベルの手術から少しでも多くのことを学び、熊本に還元できるように研鑽を積んで参ります。

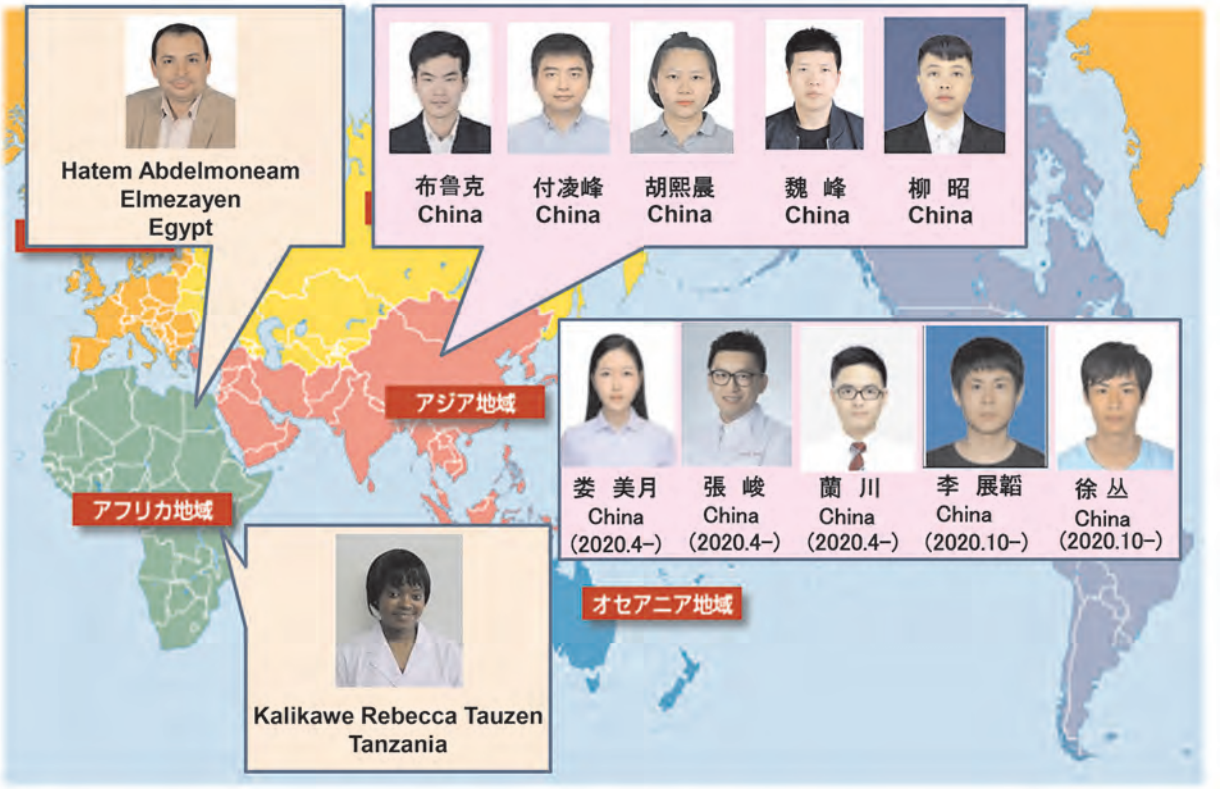
梅﨑 直紀（平成23年卒）〈肝胆膵外科〉

馬場教授の御高配により静岡がんセンター肝胆膵外科に国内留学をさせて頂き、2年目を迎えます。全国トップレベルの肝胆膵症例に日々触れさせて頂き、手術手技の習得は元より、周術期管理や臨床研究など、数多くの経験を積ませて頂いております。

国際交流・国際学会

海外からも多くの留学生を受け入れ、国際共同研究を積極的に推進しています。また、様々な国際学会・国際交流において当科の研究成果を発信するとともに、最先端のがん治療を学んでいます。

海外からの留学生受け入れ



留学生からのコメント

柳　昭

My name is Liu Zhao, I come from the ancient capital of China, Xi'an, Shaanxi Province. I am currently a first-year doctor of gastroenterology surgery. My research direction is the process of glycemic metabolism in the development of pancreatic cancer. I hope my research can help more patients suffering from illness.

ブルコ

My name is Buluke from Xinjiang, China. I have been in Japan and gastroenterological surgery for 3 years, this department not only gave me a chance of learning but also provide me a cozy and warm environment in abroad. I am sincerely grateful for Prof. Baba and other stuff for what they have done for me, I will fulfill my duty in this department and try to make contribution as I can.

娄　美月

大学院生のロウミツキです。出身は中国の遼寧省です。今は胃癌について興味深い研究をしています。分野の理解を深めて、患者さんを治す目標を達成するために、一生懸命に勉強をしています。どうぞよろしくお願い致します。

胡　熙晨

My name is Xichen Hu. I am an international student from Yun Nan, China. I obtained medical license last year and very interested in the treatment of liver cancer. I will do my best to conduct research, and hope that the research can proceed smoothly.

付　凌峰

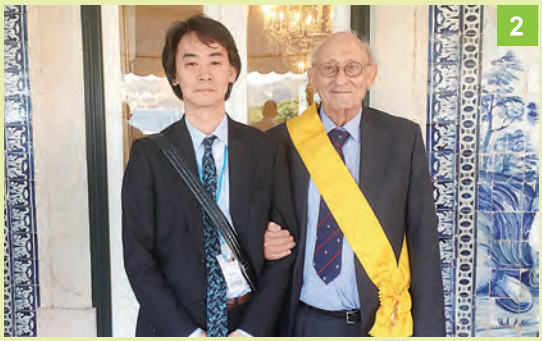
My name is Lingfeng Fu, I am an international student from Guizhou China. Now I am trying to study the key molecule regulating the characteristics of signet ring carcinoma cells. I hope my study can help much more patients to defeat the cancer.

魏　峰

My name is WeiFeng, 31 years old, graduated from Anhui medical university. I entered gastrointestinal surgery in November 2018 So far I've been doing research on gastric cancer, I will contribute to the development of medical science.

Hatem Abdelmoneam Elmezayen

I am Hatem A. El-mezayen Biochemist from Helwan University, Egypt. Currently visiting researcher at Gastroenterological Surgery Department. I interest studying molecular markers associated with gastrointestinal malignancies aiming to find novel therapeutic targets. Truly, I appreciate what Prof Baba and all stuff have done for support me in this department. I am inspired to transfer the experiences from Kumamoto University in Japan to Helwan University in Egypt.



01. AACR-JCA2019
02. International Symposium on Innovative Expert Hepatobiliary Surgery
« Les Compagnons Hepato-Biliaires »
03. 13th International Gastric Cancer Congress 2019
04. Program of Mongolia japanese joint XI Symposium upper GI cancer management
05. world congress of surgery WCS 2019
06. ASCO 2019
07. AACR 2019

教育への取り組み

次世代の優秀な人材を育成すべく、医局員はもちろんのこと、研修医、医学生や高校生を対象とした様々な教育を行っております。当科の教育への取り組みをご紹介します。

教授回診

教授回診では、全入院患者様を診察し、お一人一人との対話を心がけています。若手医師や学生への臨床現場での教育に取り組んでいます。

臨床カンファレンス

毎朝、術前と術後の症例についてプレゼンテーションを行います。ひとつひとつの症例についてディスカッションを行い、安全かつ最良の手術・治療が行えるよう医局員一体となり取り組んでいます。

Zoom を用いたビデオカンファレンス

定期的に実際の手術ビデオを用いて勉強会を行っています。
各専門の上級医が手術におけるポイントをレクチャーする事で知識・技術の共有を目指します。
最近はZOOMを用いたカンファレンスを行っております。

学生実習

学生実習では糸の結紮や機械縫合、ドライボックスによる実習を行います。積極的に手術に入ってもらうことで少しでも外科に興味を持ってもらうよう取り組んでいます。

内視鏡手術手技トレーニング

腹腔鏡手術シミュレーターを用いたトレーニングを行っております。
空き時間にトレーニングができる環境を整備し、各々が課題を持ち、手術に対する意識の向上にもつながります。

ブラックジャックセミナー

熊本県下の高校生を対象に外科の体験コースを毎年行っています。一人でも多くの学生が外科医を目指し、未来の外科医の誕生となることを期待しています。

研修医を対象とした
消化器外科手術手技講習会（JESUS）

研修医の皆さんに消化器外科の魅力を知ってもらう為、手術手技講習会に参加いただいております。

研修医を対象とした
手術機器適正使用トレーニング

研修医を対象とした手術機器適正使用トレーニングを行っております。
未来の外科医育成に向けて医局で取り組んでおります。

学会賞受賞・資格

当科における基礎・臨床の研究成果が国内・国外の様々な学会で表彰され、名誉ある機会を頂きました。今後の研究を推進する上で大きなモチベーションとなり、励みとなります。

JDDW2019
第61回日本消化器病学会大会　会長賞
小澄 敬祐（平成20年卒）

学会賞受賞

吉田 直矢（平成6年卒）	第119回日本外科学会定期学術集会　優秀演題賞
山下 洋市（平成8年卒）	Surgery Today Best Reviewer Award 2019
宮本 裕士（平成10年卒）	第90回大腸癌研究会　優秀演題賞
藏元 一崇（平成16年卒）	第26回日本消化器関連学会週間（JDDW 2018 KOBE）若手奨励賞
秋山 貴彦（平成25年卒）	第73回日本食道学会総会ベストポスター賞
小澄 敬祐（平成20年卒）	JDDW2019　第61回日本消化器病学会大会　会長賞

資格

吉田 直矢（平成6年卒）	内視鏡外科技術認定医（食道）
齋藤 誠哉（平成16年卒）	内視鏡外科技術認定医（大腸）

日本消化器外科学会評議員

熊本大学消化器外科

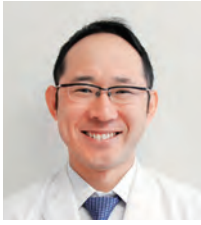
馬場 秀夫（昭和59年卒）

近本　亮（平成6年卒）

吉田 直矢（平成6年卒）

山下 洋市（平成8年卒）

宮本 裕士（平成10年卒）


馬場 祥史（平成12年卒）

岩槻 政晃（平成13年卒）

林　洋光（平成13年卒）

今井 克憲（平成13年卒）

山鹿市民医療センター

別府　透（昭和58年卒）

熊本地域医療センター

廣田 昌彦（昭和58年卒）

岡部 弘尚（平成14年卒）

癌研有明病院

渡邊 雅之（平成2年卒）

井田　智（平成14年卒）

今村　裕（平成14年卒）

学会・研究会・講演会開催報告

研究会・講演会

2019年	4月12日	NET Meeting in Kumamoto（於　ザ・ニューホテル熊本）
	4月25日	熊本消化器癌薬物療法講演会（於　ホテル日航熊本）
	5月13日	熊本膵臓内視鏡外科手術セミナー（於　山崎記念館）
	6月28日	第11回熊本消化器癌研究会（ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ）
	8月9日	第2回熊本外科治療フォーラム（於　ANAクラウンプラザホテルニュースカイ）
	8月31日	第4回熊本外科フォーラム（於　ザ・ニューホテル）
	9月30日	消化器外科特別講演会（於　医学教育図書棟）
	10月17日	Cancer PAIN FOREFRONT（於　メルパルク熊本）
2020年	1月30日	第９回外科術後管理講演会（於　熊本城ホール）
	1月31日	最新医学セミナー（於　ザ・ニューホテル熊本）
	2月13日	肝がん治療最前線 in 熊本 －根治をゴールとした治療戦略－ （於　ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ）
	2月19日	第9回熊本手術手技フォーラム（於　ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ）
	2月25日	熊本消化器癌フォーラム（於　ザ・ニューホテル熊本）

磯部 博隆 先生
国立病院機構熊本医療センター
がん総合医療センター
腫瘍内科 医長

伊藤 隆明 先生
熊本大学大学院
生命科学研究部
機能病理学分野 教授

松本 繁巳 先生
京都大学大学院医学研究科
腫瘍薬物治療学講座 准教授

室　圭 先生
愛知県がんセンター中央病院
副院長 兼 薬物療法部部長

沖　英次 先生
九州大学大学院
消化器・総合外科
診療准教授

永川 裕一 先生
東京医科大学
消化器・小児外科学 准教授

岩佐　悟 先生
国立がん研究センター中央病院
消化管内科

大木 隆生 先生
東京慈恵会医科大学
外科学講座
統括責任者・教授

堀口 明彦 先生
藤田医科大学
消化器外科学講座 教授

笠原 群生 先生
国立成育医療研究センター
副院長
臓器移植センター長

石原 聡一郎 先生
東京大学大学院
医学系研究科
腫瘍外科学 教授

牧山 明資 先生
JCHO九州病院
血液・腫瘍内科

井田　智 先生
がん研有明病院
消化器センター
胃外科医長

福長 洋介 先生
がん研有明病院
消化器センター
大腸外科部長

Patrick Tan 先生
Duke-NUS Medical School
教授

森　正樹 先生
九州大学大学院
消化器・総合外科 教授

住谷 昌彦 先生
東京大学医学部附属病院
緩和ケア診療部 部長

海野 倫明 先生
東北大学大学院医学系研究科
外科病態学講座
消化器外科学分野 教授

吉野 孝之 先生
国立がん研究センター東病院
消化器内科・消化管内科長

田中 真二 先生
東京医科歯科大学
医学部 分子腫瘍医学 教授

上嶋 一臣 先生
近畿大学
医学部 消化器内科 講師

新藤 潤一 先生
虎の門病院
消化器外科

宮山 士朗 先生
福井県済生会病院
放射線科 主任部長

長谷川 潔 先生
東京大学大学院医学系研究科
臓器病態外科学 肝胆膵外科・
人工臓器・移植外科 教授

夏越 祥次 先生
鹿児島大学大学院
医歯学総合研究科
消化器・乳腺甲状腺外科学 教授

第15回 消化器外科学開講記念会 ならびに同門会・懇親会

令和元年11月9日に、第15回消化器外科学開講記念会ならびに同門会・懇親会を開催いたしました。

特別企画として、熊本大学大学院産婦人科学教授　片渕秀隆先生に「AYA世代のがんとOncofertility」のテーマでご講演を賜りました。また熊本大学大学院　生命科学研究部長　富澤一仁先生に「熊本大学医学部の強みと第4期中期計画に向けた将来構想」のテーマでご講演を賜りました。

また特別講演では、慶応義塾大学医学部一般・消化器外科教授　北川雄光先生に「外科腫瘍学の未来～若手外科医へのメッセージ～」のテーマでご講演を賜りました。

210名にのぼる多数の同門の先生方にご参加頂き、大変盛会のうちに終了いたしました。

教授挨拶

片渕 秀隆　先生
（熊本大学大学院 産婦人科学 教授）

富澤 一仁　先生
（熊本大学大学院 生命科学研究部長）

北川 雄光　先生
（慶応義塾大学医学部 一般・消化器外科 教授）

第 15 回 熊本大学大学院 消化器外科学開講記念会
ならびに 熊本大学消化器外科同門会

令和元年 11 月 9 日（土）14：00～17：45　ホテル日航熊本 5F「阿蘇」
総合司会　林　洋光

開会挨拶（14：00～14：05）　馬場　秀夫

（第一部）

1.　帰朝報告（14：05～14：30）
「新しい環境に身を置き自身を研鑽する～二外科の歴史・組織力を感じながら～」
九州大学大学院　消化器・総合外科　松本　嵩史
司会　石河　隆敏
「厚生労働省での２年間の取組」　厚生労働省健康局　がん・疾病対策課　丸野　正敏
司会　髙森　啓史
「ロサンゼルス留学生活」　南カリフォルニア大学　徳永　竜馬
司会　赤木　純児
「アメリカ留学を経験して」　MD アンダーソンがんセンター　原田　和人
司会　箕田　誠司
「ダラスの思い出」　ベイラー大学メディカルセンター　山村　謙介
司会　木村　正美
「シームレスな医療と研究を経験して」　MD アンダーソンがんセンター　岩槻　政晃
司会　平田　稔彦
「２度目のボストン留学」　ブリガム・アンド・ウィメンズ病院　馬場　祥史
司会　芳賀　克夫

2.　学会賞受賞・資格取得報告（14：30～14：35）
「胸腔鏡下食道切除術に関する学会賞と資格取得　～熊本の食道外科発展への情熱～」
吉田　直矢
司会　江上　寛

3.　新病院紹介（14：35～14：45）
「新本館棟完成報告」　国立病院機構熊本再春医療センター　外科部長　大原　千年
司会　金光敬一郎
「新・熊本市民病院がめざすもの」　熊本市民病院　首席診療部長　横山　幸生
司会　志垣　信行

4.　就任挨拶（14：45～15：10）
「八代市立病院閉鎖後の行政要請によるクリニック開院」熊本総合病院附属クリニック　所長　松尾　彰宣
司会　島田　信也
「県境の医療を支える」　水俣市立総合医療センター　院長　岡部　道雄
司会　坂本不出夫
「県北の真の基幹病院を目指して」　山鹿市民医療センター　院長　別府　透
司会　豊永　政和
「天草市立病院のご紹介」　天草市病院事業管理者　竹中　賢治
司会　原田　和則

5.　教室一年のあゆみ（15：10～15：30）　馬場　秀夫

6.　同門会総会（15：30～15：50）　司会　近本　亮

（休憩）

（第二部）

司会　馬場　秀夫

7.　特別企画Ⅰ（16：00～16：30）
「AYA 世代のがんと Oncofertility」　熊本大学大学院　産科婦人科学　教授　片渕　秀隆　先生

8.　特別企画Ⅱ（16：30～17：00）
「熊本大学医学部の強みと第４期中期計画に向けた将来構想」
熊本大学大学院　生命科学研究部長　富澤　一仁　先生

9.　特別講演（17：00～17：45）
「外科腫瘍学の未来～若手外科医へのメッセージ～」
慶應義塾大学医学部　一般・消化器外科　教授　北川　雄光　先生

記念祝賀会

ホテル日航熊本 5F「阿蘇」　記念撮影 18：00～　記念祝賀懇親会　18：30～
司会　山下　洋市

1.　開会の挨拶　馬場　秀夫
2.　来賓ご挨拶
慶應義塾大学医学部　一般・消化器外科　教授　北川　雄光　先生
熊本大学大学院　生命科学研究部長　富澤　一仁　先生
3.　乾　杯　熊本大学消化器外科同門会　副会長　平岡　武久
4.　新入医局員紹介
5.　学位取得者紹介
6.　留学者紹介
7.　閉会の辞と万歳三唱　山鹿市民医療センター　院長　別府　透

懇親会の様子

熊本大学消化器外科の一年

年度初め式(4月)

年度初め式(4月)

熊本大学外科合同新人歓迎会(4月)

熊本大学外科合同新人歓迎会(4月)

当科新人歓迎会(4月)

当科新人歓迎会(4月)

春季研究報告会(4月)

医局説明会(6月)

医局説明会(6月)

ブラックジャックセミナー(7月)

ブラックジャックセミナー(7月)

ブラックジャックセミナー(7月)

ブラックジャックセミナー(7月)

医局旅行(7月)

医局旅行(7月)

医局旅行(7月)

医局旅行(7月)

医局バーベキュー(8月)

医局バーベキュー(8月)

医局バーベキュー(8月)

医局バーベキュー(8月)

バトリック・タン先生講義(9月)

バトリック・タン先生講義(9月)

バトリック・タン先生講義(9月)

第15回 開講記念会・同門会(11月)

第15回 開講記念会・同門会(11月)

ヘーゲン先生講義（11月）

ヘーゲン先生講義（11月）

冬季研究発表会（12月）

忘年会〈消化器外科大賞授賞式〉（12月）

忘年会〈消化器外科大賞授賞式〉（12月）

忘年会〈消化器外科大賞授賞式〉（12月）

仕事納め式（12月）

仕事始め式（1月）

関連病院連絡会議（1月）

関連病院連絡会議（1月）

関連病院連絡会議（1月）

送別式（3月）

送別会（3月）